

ニ於テ其正面ノ外翼後ニ梯置シタル壘壕又ハ集團工事ヲ以テス(借記、四七一ノ附録)

頑強ナル防禦ヲ行フ爲第二線支撐點ヲ編成ス而シテ第一線トノ距離ハ一吉ヲ超エサルモノトス(借記、四七一ノ附録)(野外要務令五二八)

退却ノ餘儀ナキニ至レハ新陣地ヲ占領スルヲ要ス(野外要務令五二九後方ヲ堅固ニスル爲陣地ノ後方ニ陣地豫備地區ヲ構成シ第一第二線ヨリ退却ヲ行フニ際シ軍隊ヲ以テ之ヲ占領ス(陣地豫備地區)借記、四七一ノ附録)

佛國

佛軍ニ於ケル防禦ノ形式ハ數線配備ニシテ大ニ我軍ノモトト趣ヲ異ニス探テ以テ吾人ノ範ト爲スヘキヤ否ヤハ別問題トシテ此種ノ防禦形式ノ研究ニ資センカ爲稍詳細ニ之ヲ説述セントス

先進部隊ヲ以テ敵ヲシテ己ムヲ得ス展開セシメ既ニ本陣

地ノ前方ニ於テ疲勞擾亂ニ陥ラシムルコトヲ努ム而シテ本陣地ノ戰鬪ハ主トシテ攻勢的ニ實施シ總豫備隊ハ勿論地區豫備隊モ亦同時ニ攻勢ヲ採ルヲ本則トス

先進部隊ニハ前進陣地ヲ守備スルモノト先進支隊トアリ。先進支隊ノ兵力編組ハ地形及任務ニ依リ差異アリ步兵一中隊ヨリ成ルコトアリ步兵一大隊ヲ基幹トスル支隊ナルコトアリ時トシテハ步兵數大隊ヲ基幹トスル支隊ナルコトアリ防者ノ騎兵カ攻者ノ騎兵ニ比シ劣勢ナルトキハ自轉車隊ヲ配屬スル場合殊ニ多シ

支隊ノ動作ハ遊動的ニシテ敵ヲ索メテ之ヲ不利ナル方向ニ展開セシメ或ハ敵ノ搜索ヲ妨害シ我搜索ヲ援助スル等ノ任務ヲ有ス此等ノ任務ハ戰鬪狀況ニ依リ攻勢又ハ守勢的ナリニ依リテ遂行セラル

時トシテハ陣地ノ側方及側方前ニ支隊ヲ派遣スルコトア

リ如此支隊ハ形式上陣地ヲ延長シ從テ攻者ヲシテ過廣ノ正面ニ展開セシムルコトアリ
前進陣地ハ本陣地前ニ於ケル要點ヲ小部隊ニテ占領スル場合ト有力ナル部隊ヲ以テ連繫セル陣地ヲ占領スル場合トアリ

前進陣地ハ概シテ鞏強ニ守備セラレヘキモノトス之カ爲退却ニ際シテハ要スレハ逆襲ヲ行ヒ戦闘離脱ヲ容易ナラシムルニ至ルコトアリ

前進陣地ハ本陣地砲兵ノ援助ヲ受クヘキモノトス時トシテハ若干ノ砲兵ヲ配屬スルコトアリ此砲兵ハ攻者ノ砲兵ヲ過早ニ展開セシムルヲ目的トス

本陣地ハ支撐點式ニ編成セラルル地區守備隊ノ一部ハ此等支撐點ノ守備ニ任シ其大部ハ支撐點ノ間隔ヨリ逆襲ニ轉スル爲地區豫備隊トシテ控置セラルル屢砲兵ノ一部ヲ地區

ニ配屬スルコトアリ其目的ハ側防ニ在ルコト勿論ナルモ砲戰ノ任務ヲ課スルコトアリ

總豫備隊ハ歩兵ノ四分ノ一乃至三分ノ一及強大ナル騎兵及砲兵ヨリ成ル其用途ハ勿論攻勢移轉ニ在ルモ通常正面ノ後方ニ稀ニ一翼後ニ在リ翼側後ニ位置スルコトハ甚稀ニシテ其攻勢移轉ハ通常突破ナルカ如シ又操典ハ退却運動ニ連繫セル逆襲機動逆襲ナルモノヲ認ム即チ戰鬥中ノ部隊ハ過早ニ戰鬥ヲ中止シテ退却シツ敵ヲ誘致シ新銳ナル部隊ハ攻者ノ近接スル迄潜伏シアリテ不意ニ之ヲ強襲ス

又全軍ノ退却ヲ豫期スル場合ニ在リテハ數線ノ配備ヲナシ強大ナル部隊ヲ以テ逐次ノ收容ニ任セシム

防禦工事ハ逐次抵抗シ得ル如ク數線ニ設クルコトナク唯一個ノ陣地ヲ最モ堅固ニスヘシ又連續セル火線ト爲スコ

日本

トナク數群ニ分チテ設クヘシ地區ノ兵力大ナルトキハ通常大隊毎ニ集團セシムルヲ可トス(步兵操典第二部第六十二第一項)

附記

吾人ハ原則トシテ數線配備ヲ採用セス然レトモ將來ノ戰場ニ於テ必シモ此種防禦陣地ニ遭遇スルコトナキヲ保セス殊ニ現歐洲戰場ニ於ケル陣地ハ悉ク數線ニ設備セラレサルモノナキノ状態ニシテ世間之ニ關スル議論亦囂々タリ故ニ數線配備ノ第一歩タル前進陣地ヲ研究シ次ニ歐洲戰場ニ於ケル陣地編成ノ概要ヲ觀察スルハ強チ不要ノ業ニアラサルヘキヲ信ス(一校正者)

一 前進陣地ニ就テ

前進陣地ニ關スル各國一般ノ趨勢ハ既ニ述ヘラレタルカ故ニ今ヨリ稍學理的ニ之ヲ攻究セントス

前進陣地ハ本陣地トノ關係位置詳言スレハ直接本陣地ヨリ支援セラルルヤ否ヤニ依リ全ク其趣ヲ異ニス本陣地ヨリ直接支援セラレサルモノハ全ク獨

立セル一先遣支隊ノ防禦陣地ニシテ抑、如此支隊ヲ派遣スルヲ有利トスルヤ、支隊カ如何ナル行動ヲ以テ任務ヲ達成スヘキヤ、早晚來ルヘキ支隊ノ退却ハ高級指揮官ノ戰鬪指導又ハ本陣地ニ於ケル戰鬪進行ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤ等ハ一般戰術ノ範圍ニ屬スル事項ニシテ特ニ前進陣地トシテ研究スヘキモノニアラス從テ單ニ狹義ニ於ケル前進陣地ノ不利ヲ以テ之ヲ排斥スルヲ得ス原則上數線配備ヲ採用セサル國軍ニ在リテモ此種ノ支隊ヲ應用スルコトハ之ヲ否定スヘキ限リニアラス

又近ク陣地ノ前方若ハ翼側ニ位置スル地點ニシテ本陣地ト存亡ヲ共ニスヘキモノハ之ヲ前進陣地ト見做スコトナク本陣地ノ一部ナリトスルヲ至當トスルヲ以テ本研究ノ範圍外ニ措キ以下主トシテ狹義ノ前進陣地ニ就テ研究ス

(1) 目的 前進陣地ノ目的ハ(イ)敵ヲシテ本陣地ト誤認セシム、(ロ)敵ヲシテ己ムヲ得ス過早ニ展開セシム、(ハ)敵ノ爲不利ナル方向ニ敵ヲ誘致ス(此目的ハ更ニ二種アリ第一ハ之ニ乘シテ攻勢ニ轉セントス、ルモノ第二ハ之ニ依リテ

本陣地攻撃ノ爲更ニ部署ヲ改メシメテ時間ノ餘裕ヲ得ントスルモ是ナリ等ニシテ約言スレハ時間ノ餘裕ヲ得ルカ或ハ敵ヲシテ已ムヲ得ス若ハ不知不識戰術上不利ナル態勢ニ陥ラシメテ攻勢移轉ノ機會ヲ得ントスルニ在リ

(2) 不利 從來前進陣地ノ害ト認メラレタルモノハ概ネ次ノ如シ

(イ) 本陣地ヨリノ射撃ヲ妨害ス

(ロ) 敗退ノ觀念ニ基ク志氣上ノ不利

(ハ) 過早ノ撤退ハ目的ニ合セス

(ニ) 靱強ナル抵抗ハ前進部隊ノ覆滅ヲ招キ或ハ敵ヲシテ之ニ尾シテ本陣

地ニ突入スルコトヲ得セシム

(ホ) 指揮官ノ企圖セサル部分戰鬪ヲ生シ易シ

抑敵ハ前進陣地ヲ本陣地ト誤認スヘキヤ地形特ニ有利ニシテ相當ノ兵力ヲ配備セサル限り之ヲ期スルコト難カルヘシ而シテ將來偵察機關及通信機關ノ發達ハ益々此困難ヲ増加スルナラン

縦ヒ本陣地ト誤認セシメ得ヘシトスルモ大兵團ノ會戰ニ於テ如此コトヲ企圖スルハ概シテ有利ナラス蓋大兵團ノ本陣地ト誤認セシメントセハ前進陣地ト雖決シテ小規模ノモノヲ以テ目的ヲ達シ得サルヤ明ニシテ勢ヒ其兵力大トナリ前掲前進陣地ノ不利ノ影響スル所ハ明瞭且著大ナルヘケレハ利害相償ヒ得ヘキヤ否ヤ甚疑ハシキヲ以テナリ況ンヤ己ニ述ヘシカ如ク誤認ノ目的ヲ達シ得ヘキ見込甚少キ將來ノ戰場ニ於テオヤ萬全ヲ期スヘキ大兵團ノ會戰計畫ニ於テ如此不安ナル因子ヲ胸算スルコトハ之ヲ避ケサルヘカラス然レトモ小部隊ノ戰鬪ニ在リテハ前進陣地ノ害ノ影響スル所極メテ小ナルヲ以テ時トシテ採用シ得ルコトアルヘシ此場合ニ於テハ陣地ニ假工事ヲ施シ寡弱ナル守兵ヲ配備スルヲ可トス(前述獨軍ノ規定參照)

敵ヲシテ已ムヲ得ス過早ニ展開セシムルコトモ地形特ニ有利ナラサル限リ大ナル兵力ヲ以テスルニアラサレハ目的ヲ達シ難シ從テ眞面目ニ此目的ヲ達成セントセハ前進陣地ノ不利ニ陥ルコトヲ免レス

敵ヲ敵ノ爲不利ナル方向ニ誘致スルコトモ亦一般ニ望ヲ囑シ難シ何トナレ

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃準備ノ研究

ハ如此過失ニ陥ラサルコトハ戰術ノ重要ナル一任務ナレハナリ
 以上ノ如ク論シ來レハ前進陣地ノ利益ハ敵ノ過失ニ乘シテ僥倖ヲ獲ントス
 ルニ過キサルカ如キモ時間ノ餘裕ヲ得ル點ニ關シ利益アルハ之ヲ否定スヘ
 カラス何トナレハ攻者ハ少クモ一部隊ヲ以テ之ヲ攻略スルニ非レハ嗣後本
 陣地ニ對スル攻撃ノ準備及實施不可能ナレハナリ地形此目的ニ有利ナルト
 キハ特ニ然リ明治三十七年五月鴨綠江畔露軍陣地ニ於ケル虎山、同月南山ノ
 露軍陣地ニ於ケル金州城及千八百七十年八月十八日 *St. Privat* 附近ノ會戰ニ
 於ケル *St. Hubert* 及 *Ste Marie* ノ如キハ之カ適例ナリ然レトモ此目的ノ爲ニ
 モ亦大ナル部隊ヲ使用スレハ不利ノ伴フヘキコト勿論ナリ
 前進陣地ノ例

千八百七十年八月十八日 *St. Privat* 附近ノ會戰ニ於ケル

St. Hubert 及 *Ste Marie*

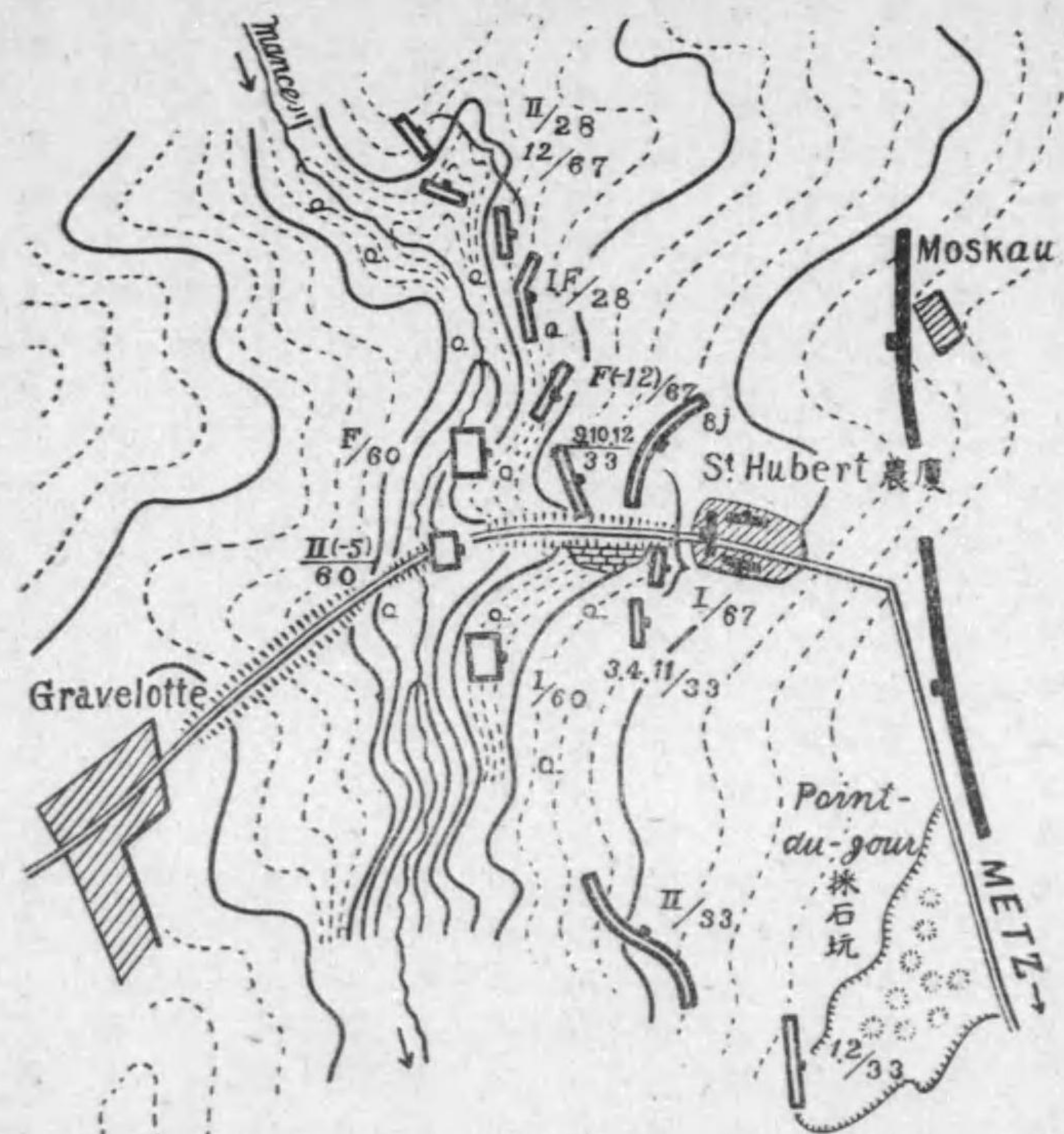
St. Hubert 前方 *Gravelotte-Metz* 街道、*Mance* 川兩岸ニ於テ大ナル凹道ヲ爲シ谷
 底ニ於テハ甚高キ凸道ヲ爲ス *Mance* 川ハ涸渴シアリ其兩岸斜面ニハ密林ア

ルモ歩兵部隊ノ通過ヲ許ササルニアラス該谷地ハ攻者ノ爲有利ナル蔭蔽ヲ
 呈ス故ニ佛軍カ歩兵一聯隊ヲ以テ *St. Hubert* ヲ占領セシハ必シモ理ナキニ
 アラス然レトモ獨軍ニシテ若 *Mance* 河谷ニ於テ攻撃ヲ準備シ *Gravelotte* ノ南
 北ニ於ケル砲兵ヲ以テ之ヲ制壓シツツ廣正面ニテ前進セハ蓋其利益ハ大ナ
 ラサリシナラン然ルニ *Gravelotte* 附近ヨリ前進セシ獨第八軍團ハ兩翼軍團ノ
 攻撃ニ連繫スルコトナク前進ヲ開始シ殊ニ其前進ハ主トシテ *Gravelotte-Metz*
 街道方面ノミナリシヲ以テ *St. Hubert* ノ價值ハ甚大ナリキ即チ十八日午後一
 時頃ヨリ歩兵第三十三聯隊ノ半部ハ *Mance* 右岸林縁ニ在リシ佛ノ前哨ヲ驅
 逐シ之ニ尾シテ對岸ニ達シ *Point-du-Jour* 方向ニ攻撃前進セントシ同聯隊ノ
 殘部モ亦同様ニシテ *St. Hubert* 方向ニ前進ス尋テ歩兵第六十聯隊モ亦此戰團
 ニ參與スル爲 *Mance* 左岸ニ向ヒ前進ス是ヨリ先歩兵第三十旅團ハ師團長ノ
 命令ヲ以テ本街道北側地區ニ前進セシメラレシカ是又 *St. Hubert* ノ敵ニ牽制
 セラレ今ヤ第十五師團ノ全部ハ此一農圃ニ對シ狹小ナル正面ヲ以テ環狀ニ
 蟻集シ其左側背ハ全ク *Moskau* 方向ニ對シ暴露セリ

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃準備ノ研究

St Hubertニ對スル獨軍ノ展開

(八月十八日午後三時頃)



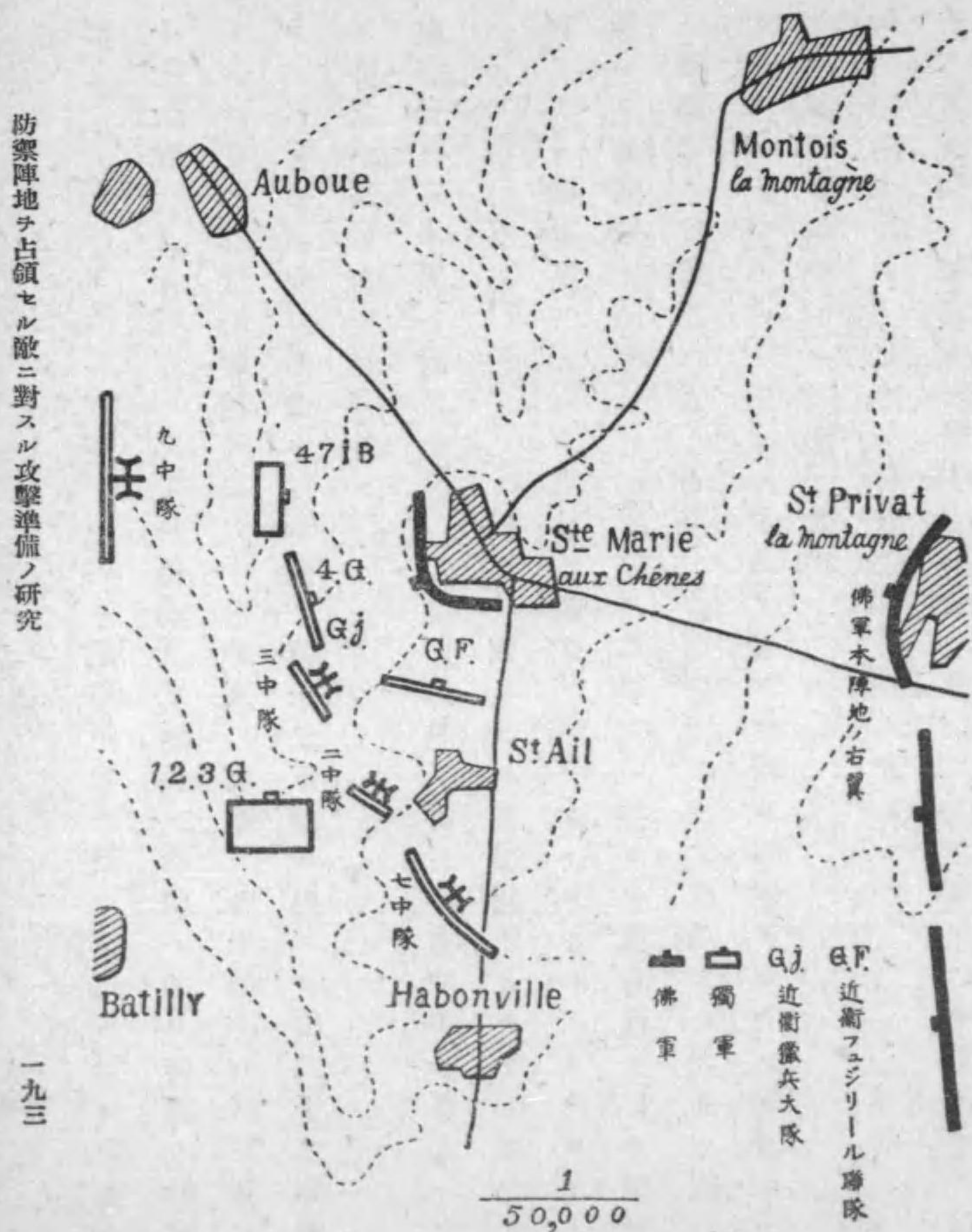
圖上等距離二十米
 獨軍
 佛軍
 j 獵兵大隊
 F フュジリール大隊
 II/67 他ニ在リ
 5/60 各隊ニ圖示以上ニ
 甚シク混淆シヤリ

其後第八軍團長ハ第十六師團ニ屬スル歩兵第三十一旅團ヲ第十五師團ノ左翼ニ増加セシモ該旅團中歩兵第二十九聯隊ハ又モヤ本街道上ヲ前進セシ爲遂ニ第十五師團ノ部隊ト混淆シ此正面ニ於ケル統一指揮ハ全ク不可能ニ陥レリ尋テ午後三時頃敵砲兵一時沈黙スルヤ軍司令官ハ敵兵退却ト判斷シテ總追撃ニ決シ砲兵十一中隊及騎兵三十二中隊ヲシテ Metz 街道ヲ前進セシム此際歩兵第二十九聯隊ハ尙隘路内ヲ前進中ナリシカ先頭ノ砲兵四中隊ハ之ヲ越ヘテ對岸ニ前進セリ此時恰モ佛軍ハ其火力ヲ隘路出口ニ集中セシ爲大混亂ヲ生シ砲兵七中隊及騎兵ハ再ヒ Mance 右岸ニ退却セリ此狀況ニ於テ右翼ニ在リシ第七軍團ノ歩兵第三十九聯隊モ亦 Gravelotte 東南方ヨリ Mance 左岸ニ前進セシカハ St. Hubert 南方地區ニ於テハ更ニ第七第八軍團ノ各一部隊ノ混淆ヲ生スルニ到レリ如此ニシテ獨軍ハ午後三時ヨリ四時ノ間ニ於テ St. Hubert 及其南北ノ線ヲ占領シ得タルモ其維持モ亦甚困難ナルモノアリキ即チ第十五師團ハ全力ヲ擧ケテ此戰鬪ニ參與シ此時殆ント其勢力ヲ傾盡シ其歩兵諸大隊中損害ノ大ナ

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃準備ノ研究

ルモノニ在リテハ將校ノ半數ハ死傷シ爲ニ戰鬪正面ノ連續及各戰鬪群相互ノ連絡ヲ保持スルコト能ハサル部分アルニ到レリ普國參謀本部編纂日本參謀本部譯獨佛戰史第三卷一七二頁
 同日 St. Privat 附近ノ陣地ニ在リシ佛第六軍團長ハ敵兵其正面及右側ニ前進ノ模様アルヲ以テ軍司令官ニ對シ近衛軍團ヲ以テ援助センコトヲ請求シ同軍團ノ到着迄努メテ敵ヲ本陣地ニ近接セシメサラントシ步兵數大隊ヲ以テ Auboué 東方森林及 Ste. Marie ヲ占領セシム Ste. Marie ヲ更ニ一部隊ヲ St. Ail ニ向テ派遣セントス

獨近衛步兵第一師團ハ午後一時頃 Habonville ニ到着シ續テ Ste. Marie ニ向テ前進セントセンカ敵兵 St. Ail 方向ニ前進スルヲ知り前衛ハ之ヲ擊退シテ同地ヲ占領セリ然ルニ近衛軍團長ハ左方ニ進出スヘキ第十二軍團ノ前進遲延スル爲ニ一時此師團ニ停止ヲ命ス之カ爲同師團ハ約一時間前進ヲ中止ス
 午後二時半頃ニ到リ第十二軍團ノ第二十四師團ハ Batilly 方向ヨリ近衛步兵第一師團ト St. Ail 方向ヨリ共ニ Ste. Marie ニ向テ攻撃シ兩師團ノ砲兵合計八十八門ハ西方及南方ヨリ猛烈ナル射撃ヲ集中シテ之ヲ援助ス茲ニ於テ Ste.



Marieノ守兵歩兵二大隊半ハ遂ニ退却スルニ至レリ之ニ對セシ獨ノ歩兵ハ十七大隊ナリ此戰鬪ノ結果ハ佛第六軍團長ニ希望ノ如ク時間ノ餘裕ヲ得セシメタリ即獨近衛師團及第二十四師團ノ前進ハ若干遲滯セラレタルノミナラスMontoisニ向ヒ前進スヘキ獨ノ第十二軍團ニ屬スル第二十三師團ノ前進モ亦之カ爲ニ若干遲滯セリ

由來獨逸兵學界ニ於テハSte. Marieノ効果ヲ認ムル者少キモ吾人ハ之ヲ否認スルヲ得ス又St. Hubertノ效果ニ到リテハ其實績ノ大ナリシ爲之ヲ認ムル者アリト雖是寧ロ獨人カ自己ノ過失ヲ蔽ハントスルニアラサルヤノ嫌ナキ能ハス蓋同地ノ防禦ハSte. Marieニ比スレハ甚シク眞面目ニシテ執拗ナリシト雖獨軍ノ攻撃實行上ノ過失ハSt. Hubertヲシテ成功セシメタル所以ノ最大ナルモノナレハナリ獨人ノ著書ヲ繙クニ際シ誤解ナカラン爲因ニ一言ス

二 歐洲戰場ニ於ケル陣地ニ就テ

歐洲戰場ニ於ケル陣地ハ數線ヨリ成ルヲ常トス
前方防禦線ト後方防禦線トノ距離ハ場合ニ依リ著シク變化スルヲ以テ一定

ノ標準ヲ得難キモ之ヲ決定スル基準トモ看ルヘキモノハ概ネ左ノ如クナルヘシ

- (イ) 二線同時ニ敵砲兵ヲ有効射撃ヲ受ケサルコト換言スレハ敵カ一ノ陣地ヲ攻略シテ更ニ次ノ陣地ヲ攻撃スル爲ニハ是非共砲兵陣地ノ變換ヲ必要トスルコト
- (ロ) 某線カ敵ノ爲ニ攻略セラレタル場合ニ於テ敵ノ蹂躪ニ委セララルル地域ヲ成ルヘク少ナカラシムルコト
- (ハ) 前記二項ヲ要求ヲ斟酌スルノ外成ルヘク防禦ニ有利ナル地形ヲ選定スルコト

防禦線ノ編成一連不斷ノ工事ヨリモ支撐點式ヲ有利トスルコトニ於テハ各國軍共異論ナキモノノ如シ然ルニ事實ニ於テハ屢一連不斷ノ工事ヲ見ルハ左ノ數理由ニ因ルナラン

- (イ) 最前線ハ概ネ長キ散兵線ノ停止シタル線其儘ニ設ケラレタルモノニシテ計畫的ニ編成セラレタルモノニアラス換言スレハ行懸リ上ヨリ生シタ

ルモノナリ

(ロ) 支撐點ノ間隔ハ素質低下セル現今ノ守兵ニハ甚シク不安ノ念ヲ與フル

コト
(ハ) 獨立セル支撐點ハ敵ノ目標トナリ易キヲ以テ敵砲火ニ對シ損害甚大ナ

リ
支撐點式編成ヲ採用スル場合ニ在リテモ各支撐點ノ間隔ハ吾人カ學理的ニ考定セルモノニ比スレハ甚小ナリ是前記(ロ)ト同一ノ理由ニ因ルモノナラン又支撐點ノ縱深ハ勉メテ之ヲ減少スルノ傾向アリ尙各支撐點ハ往々散兵壕ヲ以テ連絡セラル是等ハ凡テ前記(ハ)ト同様ノ理由ニ基因スルモノノ如シ抑、支撐點ヲ連絡スルニ散兵壕ヲ以テセルモノハ單ニ防禦上ノ威力ノミヨリ之ヲ論スレハ甚有利ナリ是外見上一連不斷ノ工事ナルカ如キモ點々防禦ノ核心タルヘキ支撐點ヲ有スルカ故ニ單純ナル一連ノ散兵壕ノ如ク薄弱ナラス又支撐點ノミヨリ成ル防禦線ニ比スレハ中間地ニ於ケル防禦力大ニシテ殊ニ夜間等ニ於テ有利ナレハナリ換言スレハ此形式ノ防禦線ハ一連不斷ノ

散兵壕ト支撐點式トヲ重複セシモノト見做シ得ヘク兩者ノ利益ヲ併有ス但シ守備ニ要スル兵力ノ大ナルヘキハ勿論ナルモ歐洲ノ陣地戰ニ於ケルカ如キ狀況ニ在リテハ敢テ論スルニ足ラサルヘシ蓋シ對抗兩軍ハ單ニ正面ノ防

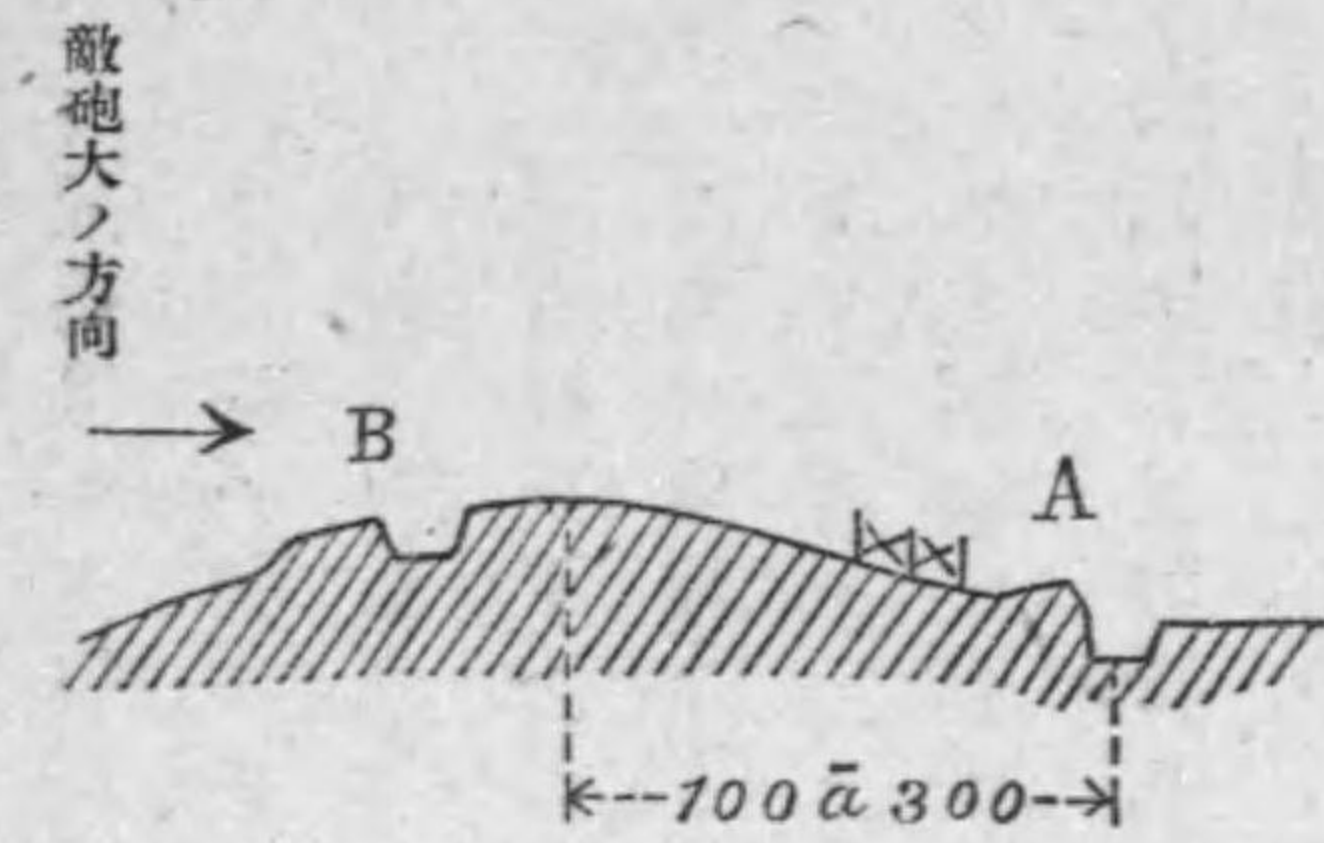
止ニ必要ナル兵力ノミヲ有スルニアラスシテ敵ヲ攻撃スルニ足ルヘキ兵力ヲ以テ陣地ヲ守備スルカ故ナリ然レトモ吾人カ如此陣地編成法ヲ採用スヘキヤ否ヤハ別ニ研究スルヲ要ス運動戰間ノ一時期ニ於ケル陣地トシテハ時間ト勞力トハ先此種編成法ノ採用ヲ否決スヘシ其他我軍隊ノ素質、防禦ノ目的、敵ノ兵力及其攻撃方法等ニ鑑ミ之ヲ決定セサルヘカラス

數線ニ配置セラレタル各陣地特ニ最前方ノ陣地ハ又數線ヨリ成ル獨軍ニ於ケル防禦主線、支援散兵壕線、豫備散兵壕線ノ如キ佛軍ニ於ケル第一散兵壕、支援散兵壕、複郭散兵壕ノ如キ露軍ニ於ケル第一線、援隊線、大隊豫備線ノ如キ是ナリ

數線配備ノ陣地ニ於テ最前線ヲ防禦ノ主線トスルモノト第二線ヲ以テ防禦ノ主線トスルモノトアリ後者ノ理由トスル所ハ左ノ如キモノナルヘシ

(イ) 最前線ハ敵ニ近キ爲堅固ナル工事ヲ施シ難シ
(ロ) 最前線ハ敵砲彈ノ爲顛覆セラレルコトヲ免レス從テ到底之ヲ保持スル
コト困難ナリ

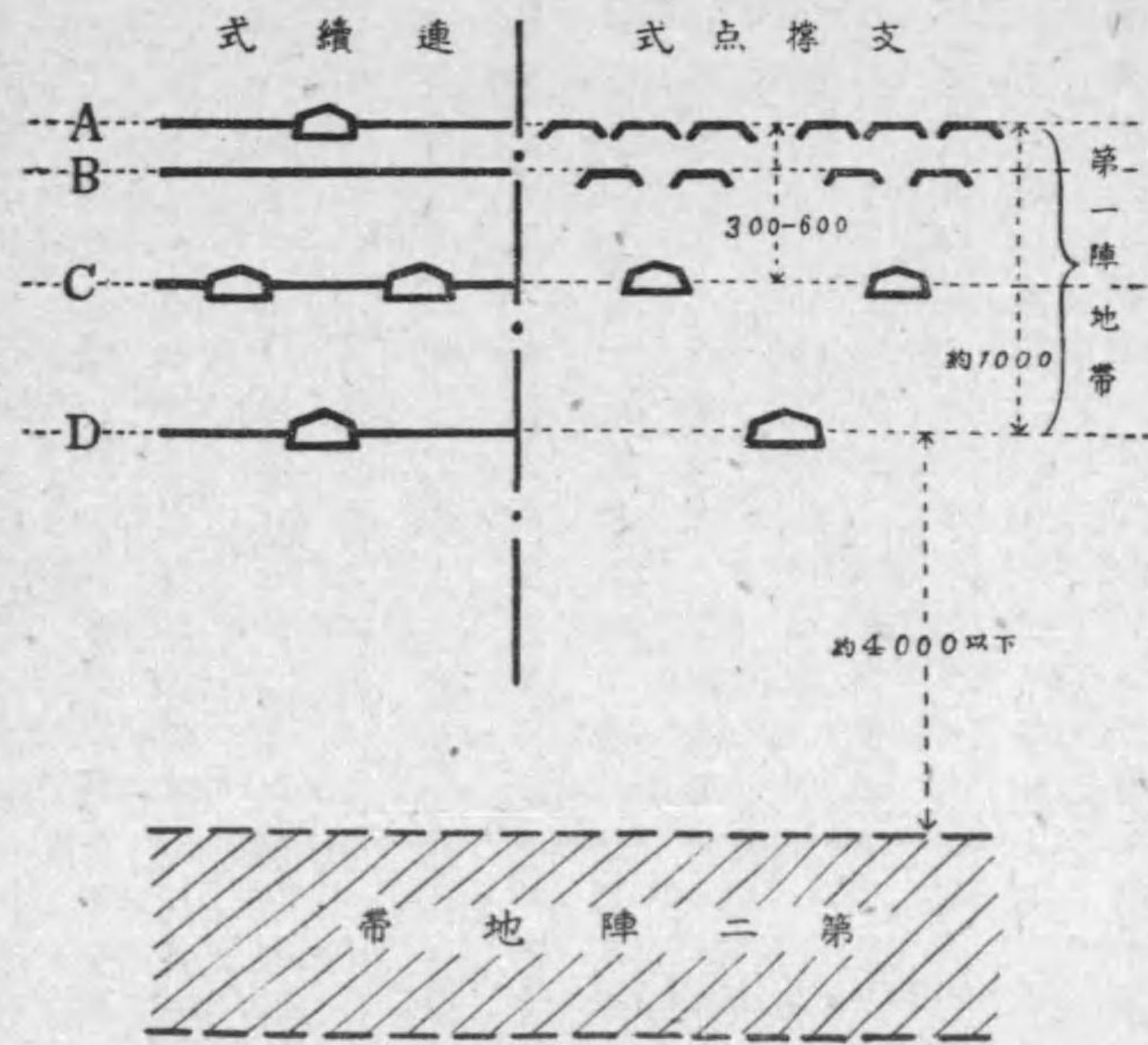
(ハ) 最前線ノ戰鬪ニ因リテ敵ヲ困憊擾亂ニ陥ラシメ以テ第二線ニ於テ眞面目ニ防禦スルヲ有利トス



砲撃ヲ以テ敵陣地ヲ破擢シ步兵ハ空虚ナル敵陣ニ向テ突入スルヲ主義トセル歐洲ノ陣地戰ニ於テハ往々次ノ如ク步兵線ノ位置ヲ選定スルヲ有利トスルコトヲ唱道スルモノアリ即チ步兵線ハ僅小ナル射界ヲ有スルヲ以テ満足シ得ヘシ之カ爲圖ニ於ケルAノ如ク稜線ノ後方ニ選定ス大ナル射界ヲ得ンカ爲圖ニ於ケルBノ如ク稜線ノ前方ニ選定スルトキハ忽チ猛烈ナル敵砲火ノ爲覆滅セラレルノ不利アレハナリ而シテ射界ノ小ナルヲ補ハンカ爲ニハ堅固ナル障礙物ヲ設置スレハ可ナリト

右ノ步兵線選定ノ主義ハ敵砲兵ノ射撃カ甚有効ナリト云フ條件ニ於テハ適當ナルヘシ蓋此主義ハ今日迄永久築城ニ於ケル主堡壘ノ位置ヲ選定スルニ採用セラレタル方針即チ主堡壘ノ位置ハ攻城砲兵ノ有効射撃ヲ受ケサル爲其步兵ノ射界ハ五六百米ヲ以テ満足シ適宜後退セル地點ニ選フヘシト云フト同様ナリ然レトモ敵砲兵ノ射撃効力カ必シモ絶對的ナラサル野戰吾人ノ研究スヘキモノハ通常之ナリニ於テハ此步兵線ノ選定ハ同意シ難シ何トナレハ敵砲火ハ常ニ築城ヲ粉摧シ得ヘキモノニアラサルカ故ニ攻撃步兵ハ我有効小銃火ヲ冒シテ困難ナル攻撃作業ヲ行ヒツツ前進スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ然ルニ防禦步兵ノ射界小ナレハ攻撃步兵ハ僅ニ二三百米若ハ其以内ニ於テノミ攻撃作業ヲ行ヘハ可ナルヘク從テ防者ハ大ナル利益ヲ放擲スルコトトナルヘケレハナリ永久築城ヲ以テスル要塞ニ於テハ攻城砲兵ノ火力ハ絶對的優勢ナルヘキノミナラス防禦ノ初期ニハ要スレハ前方ニ步兵陣地ヲ設ケ得ルカ故ニ自ラ一線配備ノ場合ト趣ヲ異ニス
次ニ歐洲戰場ニ於ケル陣地編成ノ要領ヲ例示ス

例一ノ備配線敷



註記

- 一 第三、第四等ノ陣地線ヲ設ケルモノアリ
- 二 第二陣地帯以後ノ設備ハ第一陣地帯ノモノニ準シ概シテ之ヨリモ簡略ナリ
- 三 A、Bノ距離ハ通常百五十米以下トス五十米以下トスルハ有利ナラサルモ敵トノ距離ノ關係上之ヨリ小ニスルコトアルヘシ
- 四 A、B、Cハ地區守備隊ノ守備スヘキ性質ノモノニシテ本邦ノ原則ニ於ケル單一ナル支撐點ノ線ニ相當ス其以後ノモノハ全ク數線配備ノ特徴ナリ
- 五 A、B、Cヲ一線トシ其後方一乃至二吉ニ一線ヲ設ケルモノアリ重疊配備ノ最單簡ナルモノトス

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル
攻撃計畫ノ研究

狀況

午前十時四十分第一師團長ハ前衛司令官ニ所要ノ命令ヲ與ヘ終ルヤ騎兵旅團搜索隊長ヨリ午前九時四十分上野發左ノ電話通報(高田及箸尾通信所經由)ヲ受領ス

- 一 午前九時稍前小隊ハ敵騎約百島ヶ原ヲ通過シ笠置方向ニ前進スルヲ見ル
- 二 小隊ハ午前九時三十分上野ニ達セシモ未タ敵歩兵ヲ見ス
- 三 上拓植附近ヨリ來レル土人ノ言ニ依ルニ伊勢方面ヨリ前進セル敵ハ諸兵連合ニシテ昨十六日夕上拓植附近ニ宿

營セルコト確實ナルカ如キモ兵力ハ或ハ三千ト稱シ或ハ
一万ト云ヒ確實ナラス

三 櫟本―月瀬―上野道ニ沿フ地區ニ派遣セシ斥候ハ未タ
敵兵ニ會セス

午前十一時第一師團長ハ額田部寺方附近ニ於テ午前十時名張
發騎兵將校斥候ヨリ左ノ電話報告(高田及箸尾通信所經由)ヲ受
領ス

斥候ハ午前九時四十分名張ニ達シタルモ約三騎ノ敵斥候ラ
シキモノ藏持附近ニ在リシ外未タ敵部隊ヲ見ス

午前十一時三十分迄ニ第一師團長ノ得タル諸報告ヲ綜合スレ
ハ概ネ次ノ如シ

一 騎兵中隊ノ主力ハ歩兵第三聯隊ノ一小隊ト共ニ窪庄附

近ニ、又其一部ハ新村南方高地附近ニ在リテ敵情偵察中ナ
リ右縱隊ノ偵察隊ハ井戸野、若槻附近ヲ、左縱隊前衛ノ偵察
隊(一小隊乃至一中隊)ハ杉池ノ内附近ヲ占領シテ敵情地形
ヲ偵察中ナリ

師團主力ノ大部ハ開進ヲ終レリ

二 横井附近ニハ敵騎兵部隊アリ

三 西永井、北之庄南端ニハ何等カ設備アルヤノ疑アルモ不
明ナリ又敵兵ノ有無ハ確實ナラス

四 上三橋、下三橋南端附近ニハ村縁ニ沿ヒ、又兩村中間地區
ニハ約四百米ノ散兵壕アリテ共ニ守備兵アルカ如ク監視
兵ノ存在スルハ確實ナリ

五 下三橋東北方約五百米小池ノ東北側附近ニハ約三百米

- ニ亘リ砲兵掩體ラシキモノノ設備アリ
- 六 下三橋西方佐保川ノ橋梁ト郡山停車場トノ中間地區ニハ同長ノ散兵壕アリ
- 七 郡山町東南端無名祠附近、字岡町南側、新木西北方約二百米ノ獨立丘阜及矢田口附近ニハ敵ノ歩兵小部隊アルカ如キモ工事ハ極メテ疎悪ニシテ僞工事ナラサルヤノ疑アリ
- 八 大職冠及東城附近ノ高地一帶ニハ散兵壕ラシキ設備アリ又大職冠東側高地附近ニハ延長不明ナルモ砲兵掩體ラシキ工事アリ
- 九 富雄川以西ノ地區ニハ敵ノ斥候又ハ監視兵アルモ部隊ノ存否及設備ノ有無ハ未タ不明ナリ
- 一〇 左記ノ道路ハ辛ウシテ重砲ノ通過ヲ許ス

横田―白土―千束道

横田―白土―大江―小美濃垣内―下三橋道

八條―稗田本郷道

額田部北方―今國府―南井―新木道

東安堵―風根―市場道

上街道ヨリ大美濃垣内―稗田本郷道

千束―白土―發志院―番條道

杉―豊浦―池ノ内道

小林―市場道

- 一一 諸小流ハ橋梁ノ外野砲兵重砲兵ノ通過ヲ許サス其他ノ兵種ノ通過ニハ妨ナシ又兩岸ノ堤防、小池ノ堤防及凸道ノ高サハ約一米ナリ(佐保川、富雄川ヲ含ム)

- 一二 米田内、道路及河岸ニ沿フテ點在スル森林及高地上ノ森林ハ展望及射撃ヲ妨ケス但シ樹幹ハ歩兵ノ伏姿ヲ遮蔽ス又所々ニ展望ニ便ナル大樹存在ス
- 一三 村落ハ普通十米ノ高サヲ有ス(大ナル寺院、舊城趾ノ天主閣ノ如キハ別物ナリ)

第十問題(宿題)

第一師團攻撃ノ爲郡山附近地形判斷(要圖答解)

第十問題答解ニ對スル總評

考案ニ就テ

- 一 攻撃ノ時機ヲ示ササルモノハ不可ナリ是本日晝間攻撃ヲナスト明十八日拂

曉攻撃ヲナストニ於テ地形ノ利用法ヲ異ニスルヲ以テナリ

- 二 攻撃點ヲ上下三橋ノ中間散兵隊、下三橋及其西側附近ニ選定シタルハ適當ナラス是平地方面ニ於ケル敵陣地中最モ堅固ナル方面ナレハナリ又初ヨリ上三橋、北之庄ノ中間附近ニ指向セント企圖スル如キハ餘ニ臆測ニ過キテ同意スル能ハス(甲)ハ攻撃ヲ急ク關係(乙)ハ敵翼ヲ包圍スルニ起因スルナラン

- 三 攻撃正面ニ於テ敵線ニ平行シテ攻撃セントスルモノト小規模ナカラ上三橋附近ヲ包圍スル如ク其方向ヲ選定セシモノトアリ操典ノ指示ニヨリ部分的ニテモ包圍ヲナシ得レハ之ヲ企畫スルヲ有利トス

- 四 敵ノ出撃方向ヲ下三橋又ハ其東方敵陣地ノ中間ト豫想スルハ適當ナラス寧ロ外翼側方面ト判斷スルヲ適當トス上柘植方面ノ敵ト相合シ全線ヲ擧テ攻撃ニ轉スル場合ニ在リテモ恐ラクハ其動機ト重點トハ此方面ニアルナラン敵ノ出撃方向ヲ考察セサリシ案ハ不同意ナリ惟フニ敵ハ上柘植ノ敵ト合スル迄持久戰ヲナスナラント判斷セシナランモ敵ハ戰略單位ニ近キ兵力ニシテ我ト懸隔大ナラサルニ受働的防禦ヲナスモノト考フルハ不適當ナリ若夫レ作業

上記述漏ナランニハ不注意ト云ハサルヲ得ス

五 攻撃部署中郡山及其西方高地ニ對セシムル兵力過大ニ失スルモノアリ助攻ノ兵力大ナレハ多々益可ナリト雖此方面ニ多クノ兵力ヲ用フルトキハ決戦方面ノ攻撃力ヲ減殺スルヲ如何セン

此方面ノ部隊ヲシテ郡山市街ニ向テ攻撃セシムル案ハ地形ノ考案及敵陣地ノ判断適當ナラス又佐保川及郡山停車場間ノ敵陣地ニ向テ攻撃部隊ナキ案或ハ何レノ方面ノ部隊ノ擔任ナルヤヲ考察セサリシ案ハ適當ナラス

攻撃目標配當及其他必要上戦闘地域ノ境界ヲ示スハ可ナリト雖主攻撃點ヲ兩部隊地域ノ境界線上ニアラシムルカ如キハ不可ナリ

指揮ノ系統ノ顧慮不十分ナル爲不必要ニ多數ノ區分ヲナシ又ハ建制上殊更ニ不便ヲ忍ハサルヘカラサル如キモノ及隣接部隊ニ關スル疎密ノ度ヲ度外視セシムル如キモノアリ共ニ不可ナリ敵陣地中攻撃ヲ受ケサル部分ヲ生スル如キモノアルモ此研究ノ不十分ナルニモ起因スルナラン

砲兵ノ使用上側射斜射ヲ目的トシテ主攻撃方面ノ地區外若ハ同地區ニ於テモ

遠ク側方ニ逸出シテ使用セシハ不同意ナリ此考案ハ設備陣地等ニ於テ側防機關ノ破壊攻撃等ニハ或ハ適當ナランモ臨時築城ニ據リ虎視眈々トシテ常ニ攻勢ノ機ヲ窺ヒツツアル有爲ノ敵ニ對シテハ不可ナリ多クハ主力方面ニ於テ攻撃點ニ火力ヲ集中シ得ヘク尙戰況ノ變遷ニ應スル爲戰場ノ大部少ナクモ主戰場ノ大部ヲ射撃シ得ル如クナラサル可カラス若夫レ特ニ側射斜射ヲ必要トセハ此目的ノ爲ニハ一小部分ノ砲兵ヲ使用スルヲ適當トス

砲兵ノ稍有力ナルモノ例ヘハ山砲兵大隊全部ヲ控置又ハ豫備トナスカ如キハ不同意ナリ是攻撃砲兵ハ初メヨリ優勢ノ火力ヲ以テ敵ヲ制壓スルヲ要スルモノナレハナリ控置砲兵ニ關シテハ後日説明スル所アルヘキモ本狀況ハ大ナル砲兵ヲ控置スヘキ狀況ニアラス但シ特種ノ目的ノ爲山砲ノ一中隊一小隊位ヲ控置セント企圖スルカ如キハ別ニ大ナル異議ヲ稱ヘス

重砲兵ヲ其名ニ因ミテ遠距離ニ使用セントスルハ過失ナリ此砲種ハ射程上ヨリ云ヘハ野砲ヨリモ敵陣地ニ近接シテ使用スルヲ要スルモノナリ諸官ハ重砲兵操典草案ヲ讀ミ重砲ハ遠距離ニ於テ敵ヲ制壓シ云々等ノ句ニ遭遇セハ十半

加農ニ關スル件ナラサルヤヲ熟考スルヲ要ス抑該操典ノ規定ハ野戰重砲トシテ使用シ得ヘキ各種火砲ヲ有スル砲兵部隊ニ適用スヘキモノニシテ獨リ榴彈砲ヲ有スルモノノ爲ニノミ規定セシニアラス但シ運動性竝一般地形ノ關係ヨリ敵眼敵火ヲ顧慮シ不得已遠距離トナル場合決シテ少シトセス

師團豫備隊ヲ二階堂附近ニ位置セシメ而モ主攻擊ハ上三橋ニ導カントスル如キハ目的ト位置トカ相一致セサルモノニシテ不適當ナリ宜シク豫備隊ハ主攻擊方面ニ行動セシムヘシ我右側方面ニ於テ危險ノ顧慮大ナル本狀況ニ於テ殊ニ然リ

六 攻撃準備位置ノ研究ナキモノハ不可ナリ又此位置ヲ千束、丹後庄、池ノ内ノ線附近ニ出シタルハ危險ナリ予ハ此ノ如ク近距離ニテハ敵砲火ノ爲晝間十分ナル準備ヲナシ得サルモノト認ム

攻撃準備位置ニ於ケル砲兵ヲ集合隊形トナシアルモノアリ恐ラクハ何カノ誤解ナラン何トナレハ攻撃準備位置ニ就ケル砲兵而モ戰鬪初期ヨリ必要ナル砲兵ヲ戰鬪準備ヲナサシメサル如キハ攻撃準備位置ヲ占領スル目的ニ反スルヲ

以テナリ

作業ニ就テ

- 一 表題ノ記載適當ナラサルモノアリ例ヘハ第一師團攻撃展開要圖ト記セル如キ是ナリ此際ハ第一師團攻撃ノ爲郡山附近地形判斷要圖ト記スルヲ可トス
 - 二 表題ノ下方ニ日時ノ記載ナキモノハ不可ナリ然レトモ此場合ニ月日等ハ姿勢ヲ採リ終ル時刻等ノ必要ヨリ來ルニアラスシテ攻撃ノ時機ヲ明ニセント欲スルニ在リ故ニ次ノ如ク記載スルヲ可トス
十二月十七日晝間ノ爲又ハ十二月十八日拂曉ノ爲等
 - 三 判決ノ記載不充分ナルモノ又不明瞭ナルモノアリ例ヘハ師團ハ左圖ノ如ク攻撃スルヲ要ス又ハ師團ハ敵ノ左翼ニ向ヒ攻撃スルヲ要ス又ハ佐保川以東ノ敵ヲ攻撃スルヲ要ス等ノ如キ是ナリ
- 此判決ハ假ニ諸官カ實際第一師團參謀トシテ師團長ヨリ地形偵察ヲ命セラレタル場合ニ想到セハ自然其解決ヲナシ得ヘシ此判決ハ參謀ノ歸來師團長ニ報告スル場合ニ第一ニ告知スル處ノ要點ナリ即チ諸官ハ次ノ如クスヘシ

師團ハ一部ヲ以テ何地附近ニ主力ヲ以テ何地附近ヲ攻撃スルヲ適當トス

詳細ハ地圖上ニ記入シアリ

等是ナリ若此際不明瞭ナル報告ヲナセハ屢反問ニ答フルノ煩アルノミナラス師團長ヲシテ了解ニ苦マシメ延テハ幕僚執務ノ不面目ヲ來スコトアルヘシ注意ヲ要ス

諸官ハ或ハ其記述ノ形式ニ就キ不慣ノ結果茲ニ至リシヤモ測ラレサルヲ以テ今一二ノ例ヲ示スコトトセン

第一師團ハ何地ニ向ヒ主攻撃ヲ行フヲ要ス

第一師團ハ一部ヲ以テ何地ノ敵ヲ主力ヲ以テ何地ノ敵ヲ攻撃スルヲ要ス

等ナラハ即チ其意ヲ盡サン

特ニ遺憾ナルハ判決ト要圖ト一致シアラサル作業アルコト是ナリ此事ニ關シテハ主旨ノ一貫ト稱シ既ニ諸官ニ切言シタル所ナルヲ以テ切ニ熟慮セラレン

コトヲ望ム

四 地形判斷ノ要圖ニ示ス部署ハ兵力ノ配當ヲ知レハ可ナルヲ以テ攻撃展開要圖ノ如ク隊號ヲ以テ記載スルニ及ハス例ヘハ步兵何大隊何兵幾何等ト註記スル丈ニテ可ナリ要ハ兵力分配ヲ見易カラシムレハ可ナリ但シ指揮ノ系統ヲ一目瞭然タラシムルニ便ナル關係上必要ニ應シ此種ノ作業ニ於テモ隊號ヲ以テスルノ可ナルコトアルハ勿論ナリ

然リト雖諸官ハ學習上又將來實務ヲ執ルニ方リテハ縦合作業又ハ報告ニハ隊數ヲ以テスル場合ト雖腹案トシテハ何隊ヲ何レニ使用スルヲ適當トスルヤハ常ニ腦中ヨリ逸セサルヲ要ス是直ニ命令ヲ起案シ實行ニ著手セシムル爲緊要ナレハナリ

五 本作業ニ於テ如何ナル件ヲ記スヘキモノナリヤヲ不問ニ附シテ作業セル者アリ此地形判斷ハ即チ攻撃計畫ノ基礎ナリ從テ攻撃計畫上必要ナル諸件ハ概要要圖ニ現ハレ居ラサルヘカラス屢注意ヲ喚起シタル步兵操典第二部第四十八第一項前段ヲ翫味セハ恐ラク自ラ了解スルヲ得タリシナラン即チ左ノ如シ

- 一 敵陣地ノ判斷及敵ノ出撃方向
- 二 攻撃開始ノ時機
- 三 攻撃點
- 四 攻撃方向
- 五 攻撃部署ノ概要所要ニ應シ各部ノ戦闘任務註記
- 六 攻撃準備位置

第十問題答解上ノ著眼

本問題ノ著眼事項ヲ研究スルニ方リ先ツ研究スヘキモノハ敵情判斷ナリ

敵情判斷

敵情判斷ニ關シ予ハ先ニ其都度狀況ニ應シ目的ノ存スルコトヲ指示セリ本問題ニ於テ行フ敵情判斷ハ何事ヲ如何ナル目的ノ爲判斷スルヲ要スヘキヤ本狀況ニ於テ判斷スヘキ敵情ニアリ曰ク

(A) 上柘植附近ノ敵情

(B) 郡山附近ノ敵情

是ナリ

(A) 上柘植附近ノ敵情

此敵情判斷ハ上柘植附近ノ敵カ何時頃奈良平地ニ進出スヘキヤ又其進出方面ハ何レノ方面ナリヤニ在リ搜索隊ノ通報ニ依ルニ距離ノ關係上此敵ハ何レノ道路ヲ經由スルニ拘ラス本十七日晝間ニハ奈良平地ニハ進出シ得サルヘシ然レトモ明十八日拂曉遅クモ午前中ニハ奈良平地ニ於テ郡山附近ノ敵ト近ク相提携シテ師團ニ對シ得ルモノト思ハサルヘカラス此事ハ師團ノ攻撃計畫上何事ニ關係スルナランカ曰ク攻撃開始ノ時機ノ選定ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナリ

(B) 郡山附近ノ敵情

此敵情判斷ハ即チ敵陣地ヲ判斷スルニ在リ是步兵操典第二部第四十八第二項ニ示ス如ク敵陣地ノ價值ハ攻撃計畫ニ多大ノ影響ヲ與フルモノナレハナリ詳言スレハ敵陣地各部ノ價值ヲ判斷シ攻撃點、攻撃方向(方法)、攻撃部署、攻撃準備位

置等ヲ決定スル爲緊要ナルモノナリ

(I) 敵陣地ノ形狀

郡山附近ノ敵陣地ハ諸報告ヲ綜合スレハ左ノ如クナルヘシ

(a) 西永井及北之庄附近ハ豫備陣地ナリヤ將タ又最左翼ナリヤハ未タ充
分明瞭ナラス

(b) 上三橋ヨリ下三橋ヲ經テ郡山停車場ニ亘ル線ハ敵ノ本陣地ナルコト
略確實ナリ

(c) 郡山東南端ヨリ新木西北方獨立丘阜ヲ經テ矢田口ニ亘ル線ハ此方面
ニ於ケル敵ノ本陣地線ニアラサルヘシ

(d) 大職冠及東城附近ノ高地ハ獨立セル敵陣地ノ支撐點ナルカ如シ
之ヲ以テ觀レハ敵陣地ハ郡山市街及舊城趾ニ依リ二大部分ニ分レ大職冠附
近高地ヲ獨立支撐點ニ編成シ舊城趾及郡山市街ハ障礙ニ利用シテ監視部隊
ヲ配置シ郡山停車場ヨリ上三橋ニ亘ル本陣地ヲ構成シ北之庄西永井附近ニ
ハ豫備陣地ヲ構成セルカ如シ而シテ西九條南方地區ト大職冠高地ニハ其砲

兵主力ナルヤ一部ナリヤハ不明ナレトモ全部ノ砲兵ニハアラサルカ如シヲ
配置シアリ

郡山停車場以東ノ敵陣地ハ三小區ニ分レアルカ如シ即チ佐保川以西ノ部分
上下三橋間ノ本陣地北之庄附近ノ豫備陣地是ナリ此等敵陣地ノ狀態ハ即チ
攻撃計畫ニ至大ノ關係ヲ有スルヤ予ノ解説ヲ要セサルヘシ

(II) 敵陣地設備ノ程度

敵陣地設備ノ程度ハ敵カ本日午前四時木津附近ヨリ發進シテ郡山ニ到著シ
設備ニ著手セルモノナレハ輕易ナル野戰築城ナルコトハ判斷シ得

(III) 攻勢移轉ノ方向

尙一ノ敵情判斷ヲ要ス即チ敵ノ攻勢移轉ノ方面是ナリ此事ハ敵陣地及地形
一般ノ觀察後方部隊ニアラサルヤヲ疑ヒシ敵集團ノ位置等ヨリ考ヘ佐保川
以東ノ地區即チ敵ノ左翼方面ニアルヘキハ何人モ異議ナカルヘシ

右ノ敵情判斷ニシテ大過ナカラシカ之ヲ基礎トシテ攻撃計畫ニ關スル研究ヲ進
メサルヘカラス

(1) 攻撃開始ノ時期(時機)

上栢植附近ノ敵情ハ師團攻撃開始ノ速ナルヲ要スルノミナラス成シ得ヘクンハ本日中ニ敵陣地ヲ奪取スルコトヲ要望ス固ヨリ本日中ニ之ヲ奪取シ得ルヤ否ヤハ判定シ難キモ敵陣地設備ノ程度ハ之ヲ至難ナリト稱スルヲ得ス又敵陣地ノ状態モ略明瞭トナレリ故ニ今ヤ午前十一時三十分ニシテ日没迄ノ時間多カラスト雖師團ハ目下ノ師團ノ姿勢ト全般ノ狀況ニ鑑ミ即刻ヨリ攻撃ヲ開始スルヲ要ス

攻撃開始時機ニ關スル原則的説明

攻撃開始時機ノ選定ハ全般ノ狀況ト敵陣地ノ状態及其判明程度及前進地區ノ地形竝我ノ行フヘキ準備動作、軍隊ノ姿勢、部隊ノ大小等ヲ顧慮シテ決定スヘキモノナリ

歩兵操典第二部第五十二ニ曰ク「我砲兵ノ効力十分ナラス且晝間力攻ヲ要セサルトキハ夜暗ヲ利用シ敵ニ近接スルヲ有利トスルコト多シ」ト之ヲ以テ敵陣地ノ攻

撃ハ拂曉攻撃ヲ以テ唯一ノ方法ノ如ク解シ居ルモノナキニアラサルモ同條ヲ熟讀シ「晝間力攻ヲ要セサルトキ」ナルコトニ想到セハ恐ラクム此ノ如キ誤解ヲ避クルコトヲ得ヘシ換言スレハ晝間力攻ヲ要スルヤ夜暗ヲ利用シテ敵ニ近接シ翌拂曉攻撃ヲナスヘキカハ一ニ狀況ニ關スルモノトス詳シク云ヘハ左ノ事ヲ熟慮セサルヘカラス

- (1) 全般ノ狀況上攻撃開始ノ遲速ヲ要求スルノ程度如何(全般ノ狀況)
 - (2) 我軍隊ノ大小及姿勢ト攻撃開始ノ準備ニ費スヘキ時間ハ如何(我軍ノ状態)
 - (3) 晝間力攻ヲナス爲我ノ受クヘキ損害ノ豫想如何(敵陣地設備、彼我對比的優劣及前進地區ノ地形)
 - (4) 晝間使用シ得ヘキ時間如何(時刻)
 - (5) 爾他ノ關係如何(敵軍志氣ノ關係、素質等)
- 等ヲ顧慮シテ判定スヘキモノナリ

(ロ) 攻撃點ノ選定

(A) 攻撃ノ目的

師團ノ郡山附近ノ敵ヲ攻撃スル目的ハ此敵ヲ殲滅セントスル戰鬪一般ノ目的ヲ達成センカ爲ト謂ハンヨリハ寧ロ郡山附近ノ敵ト上栢植附近ノ敵ト相合スルニ先チ郡山附近ノ敵ヲ同地附近ヨリ驅逐シ以テ兩敵ヲシテ適切ナル協同作戰ヲナシ得サラシメ併テ奈良平地ニ於ケル支作戰ノ有利ナル影響ヲ大阪平地ニ於ケル本作戰ニ及ホサシメントスルニ在リ換言スレハ師團ノ攻撃ハ當面ノ敵ヲシテ郡山附近ノ陣地ヲ撤退セシムルコトヲ以テ第一ノ目的トス戰鬪一般ノ目的タル敵ノ殲滅ヲ期シ得ルト之ヲ敢行スルトハ勿論ナリ尙此際師團ハ郡山附近ノ敵ニ對シ速ニ決戰ヲ強ユルヲ要ス如斯ルトキハ敵ハ機ニ先チテ決戰ヲ餘儀ナクスルカ否ラサレハ郡山附近ヲ撤退スルノ已ムナキニ至ルヘケレハナリ

(B) 敵陣地各部ノ價值

先ニ研究シタルカ如ク敵陣地ハ郡山市街及舊城趾ニ依リ二大部分ニ分タル即チ

(I) 郡山町以西ノ部分

(II) 郡山町(含マス)以東ノ部分

是ナリ

(I)ノ部分ハ郡山町及舊城趾ノ障碍ト相待テ大職冠附近ノ高地ハ堅固ナル支撐點ヲナシ且攻撃地區稍小ニシテ大兵ヲ用フルニ適セス

(II)ノ部分ハ之ヲ更ニ三小部分ニ區分シ得即チ

(1) 佐保川郡山停車場間ノ部分

(2) 上下三橋間ノ部分

(3) 西永井北之庄間ノ部分

之ナリ戰術的ニ此等ノ各部分ノ價值ヲ觀察スルニ(2)ハ陣地ノ中堅トモ稱スヘク最モ堅固ニシテ(1)ハ此陣地ト右翼支撐點(障礙物共)トノ連繫上必要ナルヘク(3)ハ豫備陣地トシテ敵陣地ノ右翼ヲ堅固ナラシムル爲ノ補備手段ナルヘシ

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

以上ノ如クナルヲ以テ(I)ノ部分ハ地形及設備堅固加フルニ地區狹小ニシテ大兵ヲ以テ急速ニ之ヲ奪取スルニハ不適當ナリ然レトモ敵陣地ノ重要ナル支撐點タルノ價值ヲ有ス

(II)ノ部分ハ地形及設備ノ状態前進地區ノ關係等ヨリ見ルニ主力ノ使用方面ニ適スヘク敵ニ決戦ヲ強ユルニモ好都合ナル部分ナリ
 (II)ノ部分カ主力ノ使用方面ニ適ストセハ重點ハ何レニ指向セラルヘキヤ、此方面ニ於テ敵ノ陣地ヲ奪取換言スレハ敵ニ決戦ヲ強ルカ陣地ヲ撤退セシムルニハ上下三橋ノ二支撐點ヲ奪取セサルヘカラサルハ勿論ナリト雖而モ其重點ノ指向セラルル點ナクンハアルヘカラス之ヲ敵陣地ノ状態ニ照スニ上三橋ハ敵陣地ノ外翼豫備陣地アリト雖ニシテ確ニ一ノ弱點ヲナス故ニ攻撃ノ重點ハ此地附近ニ指向スルヲ適當トス

(C)

敵ニ及ス危險ノ影響

本軍トノ關係ニ因レハ敵ヲ北方若ハ西北方ニ壓スルコトハ上柘植附近ノ敵トノ協同作戰ヲ困難ナラシムル利アリト雖如此スレハ敵ヲ其自然ノ退却方向タ

ル木津河谷ニ壓スルモノニシテ而モ生駒山脈ノ存スルアリテ敵本軍ニ直接ノ惡影響ヲ與フルコト大ナラス(間接的影響ヲ與フルハ勿論ナリト雖故ニ寧ロ之ヲ東北方笠置ノ隘路内ニ壓迫シ本軍ヨリ分離シテ作戰ノ自由ヲ失ハシムルノ有利ナルニ若カス

上柘植方面ノ敵トノ關係ヲ研究スレハ利害相反スルモノナリ(此際師團ノ爲ニハ郡山附近ノ敵ヲ西北方ニ壓セントセハ上柘植方面ノ敵ニ對シ師團ハ右側ニ危險ヲ感シツツ行動セサルヘカラサル不利アルコトハ之ヲ覺悟セサルヘカラス)

之ヲ要スルニ戰略的關係ヨリ見ルトキハ敵ヲ東北方ニ壓スルヲ以テ敵ノ爲最モ苦痛ニシテ戰術的觀察ニヨレハ敵ヲ西北方ニ壓スルヲ以テ敵ノ爲苦痛トナスカ如シ

以上數項ノ研究ヲ綜合スレハ左ノ如シ

- (1) 敵陣地ノ弱點ハ上三橋附近ニ在リ又此方面ハ我兵力ノ使用ニ便ナリ

(2) 上三橋方面ヨリ攻撃スルトキハ郡山附近ノ敵ヲ之ト相連繋スルコトヲ努ムルナラント判断セラルル上柘植附近ノ敵ト分離セシムルノ利アリ

(3) 上三橋方面ヨリスル攻撃ハ敵ニ迅速ナル決戦ヲ強ユルノ利アリ

(4) 上三橋方面ヨリスル攻撃ハ全般ノ状況ヨリ觀ルトキハ敵ニ與フル危険ノ度少ナシ

之ニ由リテ判断スルトキハ即チ左ノ如シ

師團ハ上三橋附近ニ向ヒ主攻撃ヲ行フヲ要ス

攻撃點選定ニ關スル原則的説明

攻撃點ノ選定ニ就テハ步兵操典第二部第二六第二項ニ指示スル如ク「攻撃點ハ状況特ニ地形ヲ判断シ陣地ノ弱點若ハ敵ノ爲最危険ナル方向ニ選フ可シ」ト其考察ノ要領ハ先ニ第一師團ノ狀況ニテ一般ヲ示セリ又詳細ノ研究事項等ハ士官學校戰術學教程其他諸戰術書ニ散見スルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

茲ニ一言諸官ニ注意ヲ與ヘント欲スル事ハ世間往々攻撃點選定ニ關シ戰略上ノ利害ト戰術上ノ利害ト相一致セサルトキハ先ツ戰術上ノ要旨ニ從ヒ之ヲ決ス可キモノナリトノ說ヲナスモノアルコト是ナリ此說ハ一面ニ於テ真理ヲ含有シ第一師團ノ狀況モ亦此例ニ類似セル處アリト雖諸官ハ能ク攻撃ノ目的ニ著眼スルヲ要ス即チ敵ヲシテ陣地ヲ撤退セシムルヲ主トスルヤ(支作戰)敵ヲ殲滅スルコトヲ主トスルヤ(本作戰)ヲ熟慮スルヲ要ス諸官ハ將來大會戰ヲ指導スルニ當リ單ニ戰術的ノ小著眼ノミヲ以テ攻撃點ヲ選定セハ大局ヲ誤ルノ虞ナシトセス故ニ特ニ茲ニ一言ヲ附加スル所以ナリ

大會戰殊ニ決戦ニ於ケル攻撃點ノ選定ハ戰略上ノ主旨ヲ第一位トナシ此一戰ヲ以テ敵ヲ殲滅シ茲ニ戰役ノ終局ヲ告ケシメ得ヘキ大打撃ヲ與ヘ得ル如キ敵ノ危険ナル方向ニ選フヲ以テ大原則トナササルヘカラス過去ノ日露戰役ニ於テハ幾多ノ事情ノ存在シタル爲如此殲滅的打撃ヲ缺キシヲ以テ該戰役ハ諸官ノ熟知スル如キ景況ニ終リシニアラスヤ

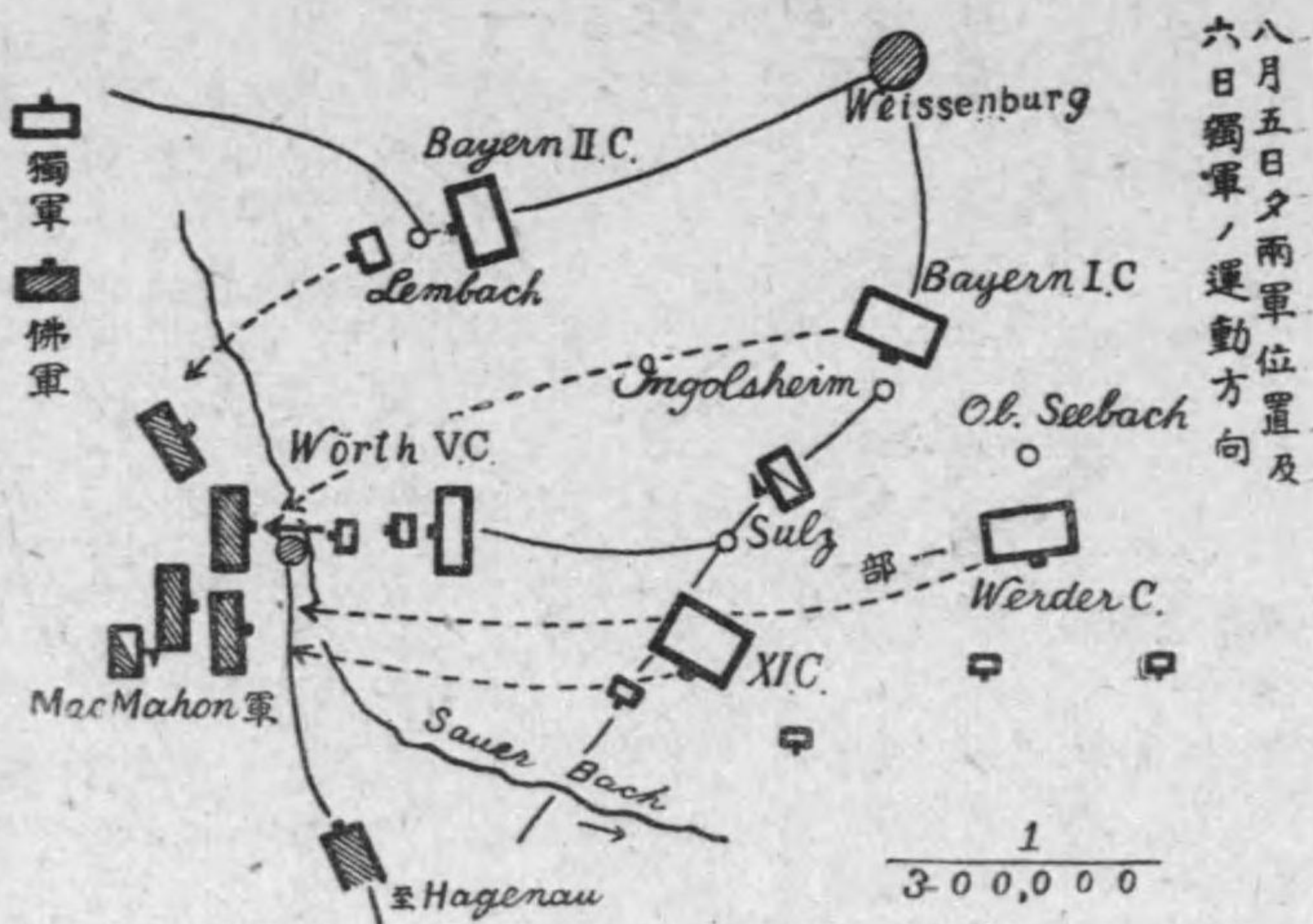
抑モ追撃ハ末ナリ某會戰ニ於テ敵ヲ捕ヘ彼ヲシテ退却スルノ餘地ナカラシメ從

テ追撃ヲ用ヒスシテ戰役ノ終局ニ至ラシムルヲ以テ上ノ上ナルモノトス
 以上ノ如キ大著眼ヲ以テ大勢ヲ遠觀シ次テ其範圍ニ於テ戰術的最良ノ點ヲ決定
 スヘシ若夫レ戰路上最良ノ著眼モ戰術上全ク實行シ得サル如キ場合ニ於テハ茲
 ニ兩者ノ互讓ニヨリ最善ノ道ヲ發見スヘキナリ支作戰ニ於テ敵ノ殲滅(一般目的
 トシテハ固ヨリ希望スルモ)ヨリハ何等カノ事情ノ爲敵ヲシテ某地ヲ撤退セシム
 ルヲ以テ満足スル場合此場合ト雖實ハ戰路上ノ危險ニヨリ其地ヲ撤スル場合多
 シニ於テ稀ニ戰術上ノ小著眼ヲ第一位ニ置キ戰鬪ノ第一歩ヲ踏ムコトナキニア
 ラス之ヲ要スルニ戰略的大著眼ヲ以テ敵ヲ殲滅スル如ク危險ナル方向ヲ選定ス
 ルヲ以テ大原則トナシ特殊ノ場合ニ於テ戰術上ノ著眼ヲ第一位トシテ攻撃點ヲ
 決定スルコトハ事情已ムヲ得サル場合ノ變則ト知ルヘシ

附記 戰略的ニ不適當ナリシ攻撃點ノ一例

千八百七十年八月六日 Wörth ノ會戰

八月五日夜佛 Mac Mahon 軍ノ四師團ハ Wörth 附近ノ陣地ニ在リ又他ノ一師團
 ハ Hagenau ヨリ Wörth ニ向ヒ行進ノ途中ニ在リ之ニ對シ普國皇太子ノ指揮セ

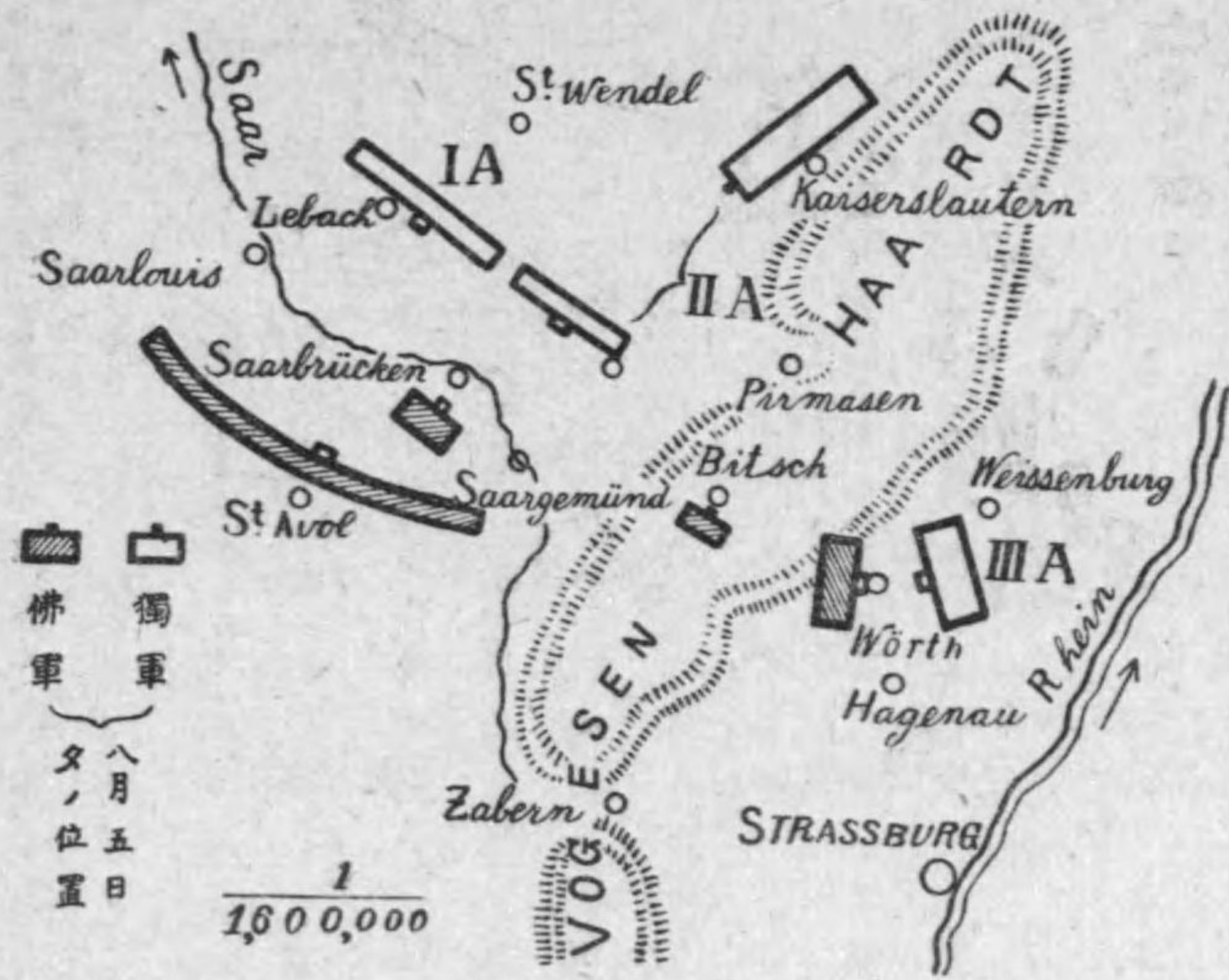


ル第三軍ハ一軍團ヲ以テ Wörth ノ前面
 ニ於テ近ク佛軍ト接觸シ他ノ各一軍團
 フ以テ Lembach 附近、Ingolshelm 北方地
 區、Sulz 南方地區及 Ober Seebach 南方地區
 ニ在リ
 抑 Wörth 附近ノ陣地ハ其正面及右翼ハ
 甚堅固ナルモ左翼ハ步兵ノ近接比較的
 容易ナリ(佛軍モ亦配備上茲ニ著意セシ
 モノノ如シ)然レトモ左翼ハ山地ニシテ
 大兵ヲ用フルニ適セス獨軍トシテハ地
 形上一軍團ヲ此ノ方面ニ使用シ他ノ主
 力ヲ擧ケテ東方ヨリ Wörth ノ正面ニ對
 シ攻撃スルヲ適當トセシナラン加之五
 日夜ニ於ケル各軍團ノ位置モ亦前述ノ

如ク如此攻撃ヲ實行スルニ適當ナリキ故ニ單ニ戰術的ニ之ヲ論スレハ獨軍ノ攻撃ハ Wörth 若ハ其以南ノ地區ニ對シ東方ヨリ西方ニ向ヒ指向セラルルヲ至當ナリトス

偶六日朝戰闘ハ軍司令官ノ意圖ニ反シテ過早ニ突發シ各軍團ノ勇敢ナル協同動作ニ因リ遂ニ佛軍ヲ東方 Vogesen 山脈ニ壓迫シテ勝利ノ榮冠ハ茲ニ獨軍ノ頭上ニ懸レリ此ノ場合ニ於テ獨軍ノ主攻撃ガ東方ヨリ西方ニ向ヒシハ自然ノ狀態ニシテ敢テ怪ムニ

圖 般 一

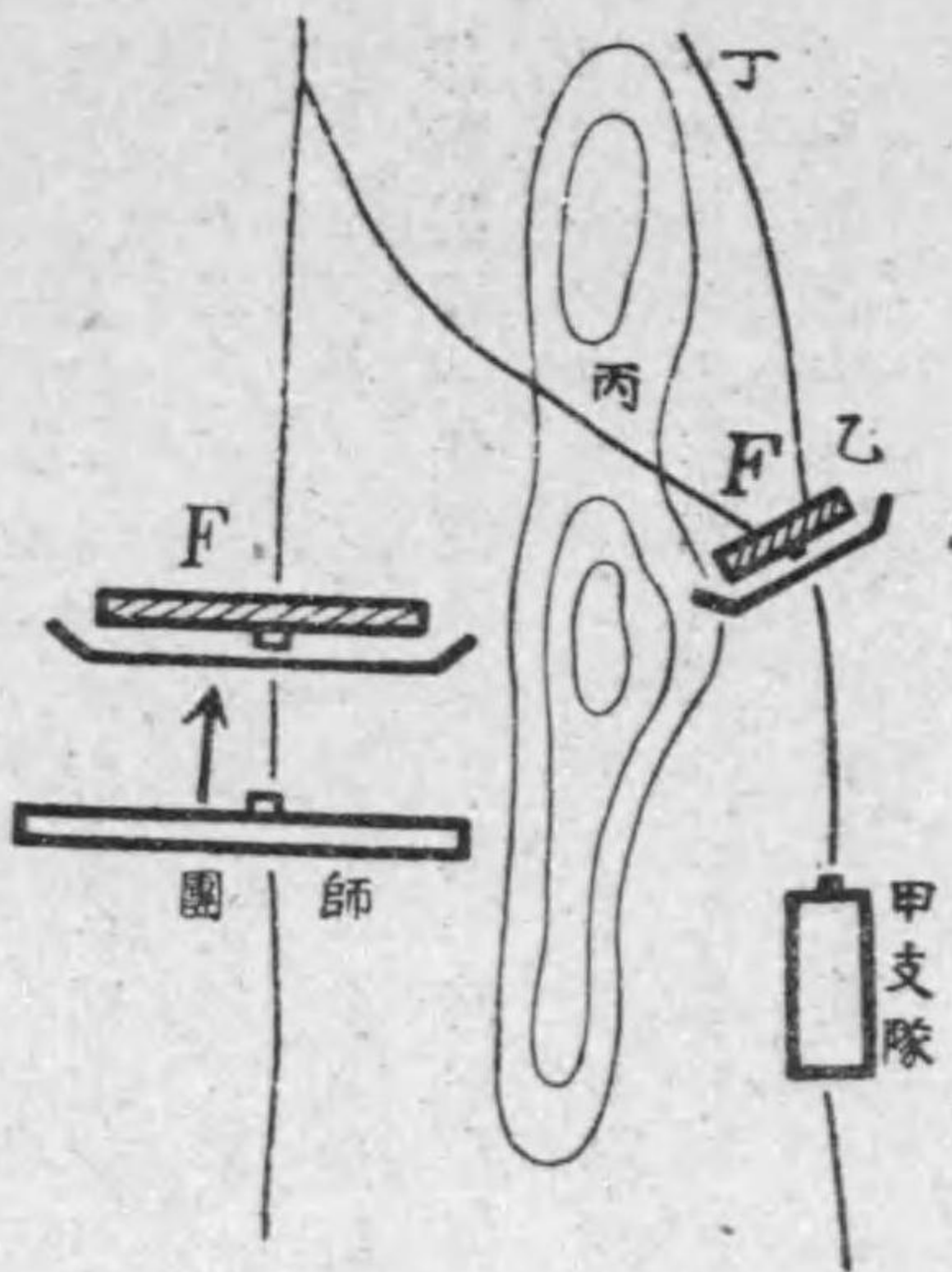


足ラサルノミナラス戰術上亦何等論議ノ餘地ヲ存セス 獨第三軍ノ基礎配備及六日ノ爲軍司令官ノ採リシ處置ハ別問トス

然ルニ此ノ攻撃方向ハ戰略上甚不適當ニシテ之カ爲ニ此後久シク普國大本營ヲシテ苦慮セシムルノ因ヲ爲セリ蓋シ普國大本營ノ企圖ハ Mac Mahon 軍ヲ Rhein 河畔ニ沿ヒテ南方ニ壓迫シタル後第三軍ノ一部ヲ以テ之ニ對セシメ其主力ハ之ヲ Saar 河方面ニ使用スルニ在リシカ此ノ會戰ノ結果ハ單ニ第三軍ノ Vogesen ヲ踰ヒテ Saar 河畔ニ向ヒ進出スル運動ヲ遲緩セシメ開戰初期ニ於ケル作戰指導ニ滯滞ヲ來シ且一時 Saar 河畔ニ在リシ第一第二軍ノ爲ニ危險ヲ感セシメシノミナラス嗣後大本營ヲシテ常ニ Mac Mahon 軍ニ對スル配慮ヲ絶ツ能ハサラシメ作戰指導ノ累ヲ爲セシコト尠ナカラサリシヲ以テナリ此ノ戰例ハ攻撃點選定ニ際シ戰略上ノ要求カ決シテ輕視シ得ヘキモノニアラサルコトヲ證ス

之ヲ要スルニ攻撃點ハ任務ノ解決ヲ主眼トシテ之ヲ選定セサルヘカラス而シテ戰術上ノ要求ニ從ヒテ攻撃點ヲ定メントスルトキハ之カ爲ニ生スル戰略上

ノ損失ハ戰術的勝利ヲ以テ能ク之ヲ償ヒ得ルヤ否ヤヲ熟慮スルヲ要ス今師團ノ攻撃ヲ容易ナラシムヘキ甲支隊カ乙ノ敵ヲ攻撃スルニ方リ戰術上之ヲ丙方
 向ニ擊退スル如ク攻撃スルヲ有利ナリ
 ト假定ス然ルニ戰略上ヨリスレハ此ノ敵ヲシテ再ヒ丙高地ニ於テ抵抗セシメサル如ク丁ノ方向ニ擊退セサルヘカラス故ニ此場合ノ攻撃方向ハ戰略上ノ要求ニ從ヒテ決定セラルルヲ要ス然ルニ若丙高地ナキモノトスレハ戰術上有利ナル方向ヨリ之ヲ攻撃シテ偉大ナル勝利ヲ收ムルヲ可トス蓋シ此ノ場合ニ於テハ乙ノ敵ノ爾後ノ抵抗ハ之ヲ打破スルニ容易ナルカ故ニ速ニ之ヲ擊破スレハ尋テ戰略上ノ効果ヲ收メ得ヘケレハナリ是戰術的勝利ヲ以テ戰略上ノ不利ヲ償ヒ得ヘキ一例ナリ



(ハ) 攻撃方向(手段)

師團攻撃ノ重點ハ上三橋ニ指向セラルルヲ有利トスルコトハ前研究ニ依リ明ナリ而シテ之カ爲左ノ問題ヲ生スヘシ

(I) 上三橋附近敵陣地ハ之ヲ包圍シ得ルヤ否ヤ

上三橋附近ハ敵陣地ノ左翼ニシテ稍突出シ縱ヒ西永井、北之庄附近ニ豫備陣地ヲ構成シ我包圍ニ對向シ之ヲ防支スルノ設備ハアリト雖敵陣地ノ主正面約二吉(豫備陣地ヲ通算スレハ約三吉)ニシテ尙上街道方面ニハ行動地域存スルヲ以テ上三橋附近ニ對シテハ小規模ナカラ包圍ヲ行ヒ得ルモノト云ハサルヘカラス

(II) 包圍ノ爲主力ヲ何レノ方向ニ指向スヘキヤ

包圍實行ノ爲

- (1) 主力ヲ正面ニ、一部ヲ側面ニ、向ハシムヘキヤ
- (2) 一部ヲ正面ニ、主力ヲ側面ニ、向ハシムヘキヤ

ヲ熟慮セサルヘカラス之ヲ決定センニハ敵陣地ノ状態、我軍ノ姿勢、前進地區ノ地

形、包圍ニ使用シ得ル時間其他敵軍ノ素質、戰法等ヲ顧慮セサルヘカラス
 師團ノ主力ハ目下川西村結崎附近即チ敵陣地ノ右翼方面ニ對シテ位置シ敵陣地
 トノ距離ハ尙機動ノ餘地アリ又敵陣地ノ側面ニハ師團主力使用ノ地域ハ不充分
 ナカラ之アリト雖之ヲ側面ニ向ハシムルハ比較的多時ヲ要シ師團カ急速ノ攻撃
 ヲナサントスルノ現況ニ適セス且此際敵ノ爲正面ヨリ攻勢ニ轉セラルトキハ
 頗ル危険ナリ故ニ第一師團ノ包圍ハ主力ヲ以テ敵陣地ノ正面ニ一部ヲ以テ敵陣
 地ノ側面ニ向ハシムルノ方法ニ依ルヲ適當トス

(III) 師團ノ包圍ハ如何ナル手段ニ依ルヘキカ

包圍ニハ (a) 縦隊ノ併進ニ依ルモノ (b) 後方部隊ノ加入ニ依ルモノ (c) 展開セル部隊
 ノ移動ニ依ルモノアルハ諸官ノ熟知スル處ナリ而シテ第一師團ハ二縦隊ニテ前
 進シ目下二集團ニテ開進シアルカ故ニ一見 (a) ノ手段ニ依リ右縦隊ヲシテ敵陣地
 ノ左側ニ、師團ノ主力ヲ以テ敵陣地ノ正面ニ向ハシムルヲ有利トスルカ如シト雖
 仔細ニ考察スレハ指揮ノ系統不良トナリ尙郡山町以西ノ敵陣地ニ對シテ一部隊
 ヲ向クルヲ要スル等ノ關係ヨリ實行上ノ不便少ナカラス且師團ハ敵ノ攻勢移轉

- ト側方即チ上柘植方面ノ敵ニ對スル顧慮ヲモ必要トスヘシ此等ノ關係ヨリ予ハ
- (b) ノ方法即チ後方部隊ノ加入ニ依リテ之ヲ包圍スルノ方法ニ據ルヲ適當ト認ム
- (c) ノ方法カ師團ノ現況ニ適セサルハ今更喋々ヲ要セサルヘシ

(附言)

此際第一師團ノ著眼スヘキモノアリ即チ目下ノ處未タ不明瞭ナルモ敵
 兵若今市附近ニ設備ヲナシアリテ狀況ノ發展ニ應シ之ヲ守備スルカ又
 ハ上柘植方面ノ敵兵ノ一部例ヘハ騎兵砲兵或ハ輕裝セル歩兵等ノ來援
 シテ之ヲ占領スル如キ場合アラシカ師團ノ攻撃ハ包圍變シテ中央突破
 トナルヘシ此事モ亦豫メ腹案中ニ存セサルヘカラス
 然レトモ第一師團長トシテハ目下現實セル敵情ヲ度外視シ己レノ想像
 スル敵ノ爲シ得ヘキ事項ヲ基礎トシテ計畫ヲ立ツル能ハサルハ論ナカ
 ルヘシ初學者往々此點ニ關シテ誤解ヲ懷クコトナシトセス例ヘハ漫ニ
 想像ヲ逞ウシ其假想ヲ基礎トシテ曖昧ナル計畫ヲ立テ萬全ノ策ナリト
 稱スルカ如キ是ナリ研究ノ密ナル敵情想像ノ多種多樣ナル腹案トシテ
 元ヨリ不可ナシ然レトモ單ニ想像ヲ以テ敵ノ爲スヘキ動作ヲ考察シ之

ヲ以テ戰術ノ妙ヲ得タルモノトナスカ如キ淺見ニ陥ラサルヲ要ス
要ハ推理ニヨル理論(理想主義)ト現實ノ徵候ニ基ク事實(實證主義)トヲ能
ク調和推究シテ適切ナル歸著點ヲ求メ之ニ因リ諸計畫ヲ立案スヘキモ
ノナリ

戰術的包圍ニ關スル原則的說明

火器ノ精銳、築城術ノ進歩其他軍用器材ノ發達ニ伴ヒ正面戰鬪(正面ニテ相對スル
戰鬪)ハ著シク鞏固トナリ之ヲ突破スルハ益、困難トナレリ殊ニ火器ノ射程及威力
ノ増進ハ中央突貫ノ困難ヲ一層甚シカラシム之ニ反シ多クノ戰鬪ハ包圍ニヨリ
成效スルノ傾向ヲ生シタルヤノ感アリ是ニ火器ノ精銳ト共ニ側翼ノ薄弱ヲ増
加セシカ爲ナリ之操典ニ攻撃ハ包圍ニ依ルヲ有利トナシアル所以ナラン然レト
モ諸官ハ包圍ヲ以テ唯一ノ決戰方式又ハ戰勝獲得唯一ノ方式ト過信セサルヲ要
ス換言スレハ操典ハ包圍ノ有利ナルヲ認ムト雖、常ニ之ニ依ラサレハ勝利ヲ得難
シト確言セシニアラサルトニ注意スヘシ包圍ハ有利ナルニ相違ナキモ之ヲ過

信スルトキハ其間ニ危機ノ存スルモノナリ見ヨ過去日露戰役ニ於ケル露軍ハ包
圍ノ有利ヲ過信シ從テ日本軍ノ包圍ヲ恐レタル結果喘喘焉トシテ此包圍ヲ受ケ
サランコトノミニ腐心シ其危險ヲ脱スルノ方法他ニ存スルコト即チ包圍ノ短所
ニ乘スルノ處置ヲ取ラサリシハ確ニ敗北ノ一大原因ヲ爲シタルモノト云ハサル
ヘカラス吾人將來ノ戰爭ニ於テハ過去ニ於ケル露軍ノ如キ優柔不斷無能ナル敵
ヲ對手トナスモノニアラサルコトヲ覺悟スルヲ要ス

現今ノ戰鬪ニ於テ彼我共ニ側翼ニ意ヲ用ヒ互ニ戰線ヲ延長スルカ故ニ戰鬪正面
ハ過大ニ擴張セラレ終ニ兵力ノ優勢ナル一方ハ側面ニ溢出シ敵ヲ包圍シ得ルニ
至ル是ニ於テカ包圍ニハ兵力ノ優勢ナルヲ要スルヤ明ナリ包圍ノ距離及包圍ニ
任スル部隊ノ兵力大ナルニ從ヒ愈、其必要ヲ認ム又兩翼ヲ包圍セント欲スルトキ
殊ニ然リ

兵力ノ優勢トハ數ノ優勢固ヨリ可ナリト雖之ノミヲ稱スルニアラスシテ統帥ノ
巧妙ト部隊ノ素質、精神の價值ノ良否、地形ノ援助等ト相待テ生スル對比的(局部的)
優勢ヲモ含ムハ勿論ナリトス、若此等條件ナクシテ而モ包圍ヲ實施シ得ルノ希望

アルハ敵軍素質ノ劣等ニシテ無能ナル場合ナリトス
 諸官ハ過去ノ戰史ヲ緝キ外形ノ美ノミニ著眼セス其真髓ヲ搜ラハ蓋シ其真相ヲ
 自得シ得ルナラシ
 包圍ニ關スル利害實施ノ要領等ハ操典及士官學校教程ニ詳細之ヲ示シアルヲ以
 テ此ニ之ヲ省略ス

戰略包圍ニ關シテハ更ニ學年ノ進ムニ從ヒ他日ヲ待テ之ヲ研究セントス

包圍ニ關スル戰例

第一 千八百六十六年七月三日 Königgrätz

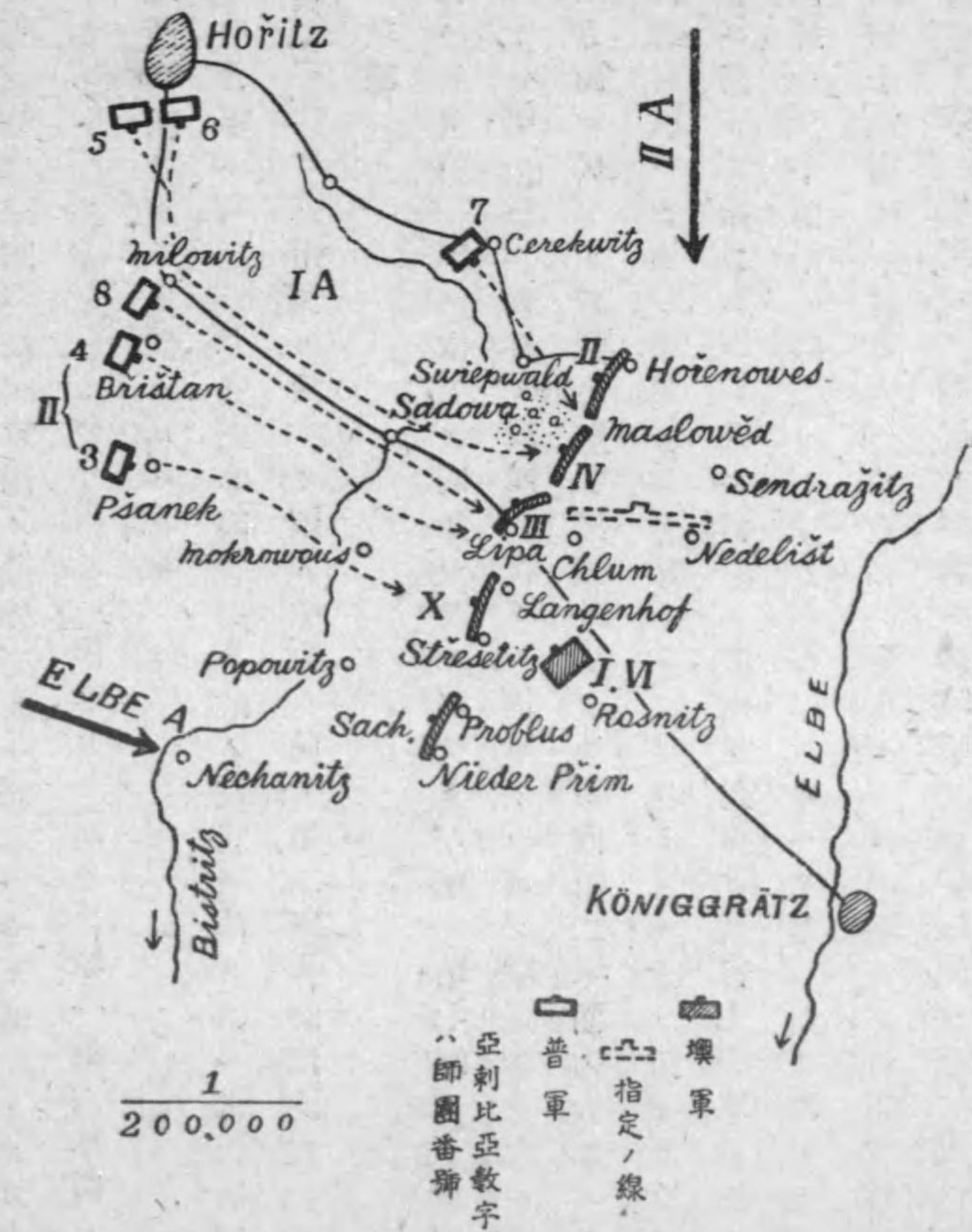
ノ會戰

一 奧軍ハ七月三日朝七時半頃 Sadowa 方面ニ砲聲ヲ聞クニ及ヒ概要次ノ如キ
 配備ニ就ケリ即チ左翼ヨリ索遜軍團ハ Nieder Prim 及 Probus 附近ヲ第十軍團
 Sureschitz ヲツ Langenhof ノ西方ニ互ル附近ヲ第三軍團ハ其右方ニ連リ Lipa ヲ
 ツ Chlum ニ互ル間ヲ占領ス又第四軍團ハ其右方ニ接シテ Chlum, Nedelist 間ノ高

地ヲ占領シ第二軍團ハ第四軍團ノ最外右翼ニ開進スヘキ筈ナリシカ兩軍團共
 獨斷ニテ Maslowed 及 Horenoves 附近ニ前進セリ而シテ第一第六軍團ハ Rosnitz
 西北地區ニ在リテ軍豫備タルヘキ筈ナリ

之ニ對シ普軍ハ其 Elbe 軍(三師團)ヲ以テ敵ノ左翼ニ向ヒ第一軍(六師團)ヲ以テ
 Horiz-Königgrätz 道兩側ニ沿ヒテ敵ノ中央ニ向ヒ第二軍(八師團)ヲ以テ敵ノ右翼
 ニ向ヒ攻撃ス

二 會戰ハ先普第一軍ニ依リテ開始セラル即チ其左翼ノ第七師團ノ前衛カ午前
 八時三十分頃 Swied 森林ノ縁端ニ在リシ奧軍ノ一部ヲ驅逐シテ之ニ進入セシ
 以後該方面ニ於ケル戰鬪ハ漸次激烈トナリ奧第四第二軍團ノ大部ハ殆ト西面
 シテ此森林戰ニ參與シ普軍ハ甚苦境ニ陥レリ然レトモ之カ爲奧軍ノ右翼ハ全
 ク北方ニ對シテ開放セラレ茲ニ當日ノ敗因ヲ爲セリ又普第一軍ノ他ノ正面モ
 逐次前進シテ午前十一時迄ニハ Bistritz 左岸ニ達セリ之ニ對シ奧軍ハ其第二、第
 四第三、第十軍團殊ニ其有力ナル砲兵ヲ使用セシカハ戰況ハ普軍ノ爲甚不利ナ
 リ右方 Elbe 軍ハ稍遅レテ戰場ニ到着シ此時頃ヨリ稍戰況發展ノ見込ヲ生セシ



亞利比亞數字
ハ師團番號
普軍
指定ノ線
奧軍

カ左方第二軍方面ニ於テハ未タ何等戰況ノ變化ヲ生セス實ニ普軍ノ爲ニ一大危機ヲ生スルニ至レリ然ルニ奧軍ハ朝來優柔不斷ニシテ何等此好機ヲ捉フルコトヲ爲ササリシカハ遂ニ拭フヘカラサル敗辱ヲ蒙ムルニ到レリ

三 普第二軍ノ先頭ハ午後一時先 Hohenowes ニ到着シテ同村ヲ占領セリ爾後同軍ハ甚シク薄弱ナル奧軍ノ右翼ニ殺到シテ之ヲ崩壊セシメ以テ會戰ノ終局ヲ告クルト共ニ戰役ノ結末ヲ見ルニ及ヘリ

是ヨリ先奧軍司令官ハ正午第二、第四軍團ノ Swied 森林ノ戰闘ニ熱中シアルヲ見テ指定ノ線ニ退却スヘキコトヲ命シ兩軍團ハ午後二時乃至二時半ノ間ニ於テ所命ノ如ク退却セシモ時既ニ遅クシテ甚シク敵ノ壓迫ヲ受ケテ陣地ヲ支持スルヲ得サリキ

四 教訓

(イ) 包圍部隊ノ戰闘加入ノ遲延ハ正面攻撃ニ任スル部隊ノ爲大ナル危險ヲ生スルニ到ルコト屢ナリ此間該部隊ハ持久戰闘ヲ行フモノナレトモ次項ニ述フルカ如キ理由ニ依リ狀況之ヲ許セハ攻勢ニ依リテ此目的ヲ達シ得レハ甚

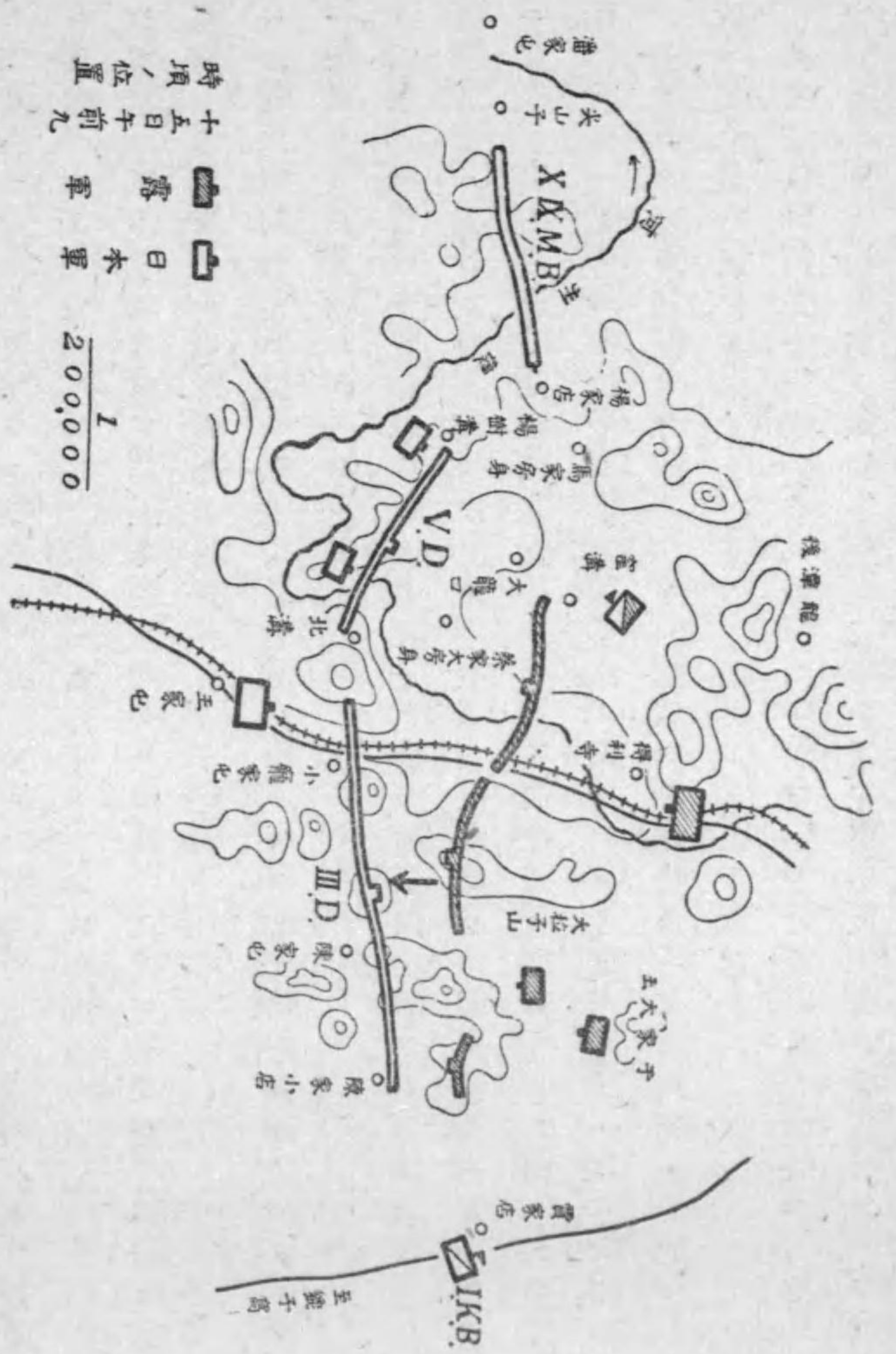
防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

有利ナリ又此部隊ニ屬スル各級指揮官ハ暫時ノ後開始セラルヘキ包圍ニ依リテ大成功ヲ獲得スヘキコトニ想到シテ極力戰鬥目的ノ遂行ニ努力セサルヘカラス

- (ロ) 包圍ハ正面戰鬥ニ依リテ敵ヲ牽制シ得ルニ從ヒ其成功ノ見込益大ナリ巴爾克曰ク「包圍ノ爲ノ豫備條件ハ正面ニ於テ充分ニ敵ヲ檢束スルニ在リ」ト然リ正面戰鬥ニシテ無威力ナランカ敵ハ到ル處ニ於テ我ニ對シ強大ナル正面ヲ成形シ得ヘキヲ以テナリ填軍ニシテ普第一軍ノ正面攻撃殊ニ其右翼タル第二、第四軍團カSwiss森林ノ戰鬥ニ牽制セラルルコトナクシテ軍司令官ノ指定ノ線ニ在リシナラハ普軍ノ攻撃ハ如此容易ニ成功セサリシナラン
- (ハ) 包圍ニ對スル防者ノ最有力ナル處置ハ狀況ニ依リ正面攻撃ニ任スル部隊若ハ包圍部隊ノ外翼ニ對シ大規模ノ決戰ヲ求ムルニ在リ然レトモ狀況之ヲ許ササレハ消極的ニ翼ヲ屈折シ且其後方ニ豫備隊ヲ梯置スルヲ要ス

第二 得利寺附近ノ戰鬥

- 一 明治三十七年六月露ノスタケルベルグ兵團ハ北進スル日本第二軍ヲ邀撃スル目的ヲ以テ東狙兵二師團ヲ以テ得利寺附近ニ陣地ヲ占領ス
- 日本第二軍ハ十四日第三、第五師團ヲ以テ敵陣地ニ近接シテ攻撃ヲ開始セシカ復州平地ニ於ケル第四師團ノ前面ニハ敵ヲ見ス
- 日本第二軍司令官ハ翌十五日續テ敵ヲ攻撃スルニ決シ第四師團ノ少クモ混成一旅團ヲ以テ本戰ニ參與セシム
- 二 露軍司令官ハ十五日早朝ヨリ歩兵十九大隊砲兵四中隊ヲシテ日本軍ノ右翼第三師團ニ對シ攻勢ヲ取ラシム茲ニ於テ第三師團ハ早朝來苦戰甚努メ最右翼ニ在リシ騎兵旅團亦此戰鬥ヲ支持セシモ戰況ハ刻一刻ニ非ナリ而シテ第五師團ノ攻撃ハ敵陣地堅固ニシテ其進捗意ノ如クナラス第四師團一部ノ戰鬥加入ヲ俟ツコト轉々切ナリ然ルニ幸ニモ露軍ノ攻勢移轉ハ其實施統一ヲ缺キシカ故ニ朝來數時間ヲ經過シ今ヤ正午ヲ過クルモ未タ成功セス
- 三 此日第四師團長ハ安東少將ノ指揮スル混成第十九旅團ヲシテ敵ノ側背ヲ脅威セシムルニ決ス仍テ旅團ハ午前七時過潘家屯附近出發輕裝急行シテ午前十



二四二

時馬家房身附近ニ達ス當時露軍ノ右翼ニ於ケル配備ハ甚薄弱ニシテ且其警戒モ甚疎ニシテ主力ハ南面シテ第五師團ト對戰中ナリ茲ニ於テ旅團ハ不意ニ急速ナル攻撃ヲ開始シ午前十一時三十分既ニ窪溝東北方高地ヲ占領セシカ爾後敵兵逐次増加シテ前進困難ナリ此間旅團ノ一部ハ漸次敵ノ右側ニ迂回シ午後二時過遂ニ龍潭後附近ノ高地ニ達シ全ク敵ノ側背ニ迫レリ此間露軍司令官ハ正午頃旅團ノ近接ヲ知り豫備隊ノ大部ヲ舉ケテ逆襲セシモ成功セス午後三時頃ヨリ抵抗ヲ斷念シテ北方ニ向ヒ退却ヲ始ムルニ至レリ

四 教訓

右ノ戰例ハ左ノ諸點ニ於テ前記 Königgrätz ノ會戰ニ酷似ス

- (イ) 包圍部隊ノ戰鬪加入ハ他ノ部隊ノ戰鬪開始ニ比シ甚遅カリシコト
- (ロ) 包圍部隊ノ戰鬪加入前ニ於テ攻者ハ甚シク危殆ニ瀕セシコト
- (ハ) 包圍部隊ニ對スル防者ノ注意疎ナリシコト

故ニ己ニ述ヘタル教訓ハ之ヲ略シ其他ヲ舉クレハ次ノ如シ

- (イ) 數縱隊ニテ前進シ包圍攻撃ヲ行ハントスル時敵ニ遭遇セサル縱隊

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

ハ遠ク敵ノ側背ヲ攻撃スルヲ有利トス

- (ロ) 防者ハ敵ノ包圍ニ對シ充分ナル警戒ヲ要ス配備上翼ノ配備及豫備隊ノ位置急速ニ敵ノ包圍ニ應シ難キ場合ニ在リテハ其搜索ハ特ニ遠距離ニ及ホスヲ要ス露軍ハ右翼ノ配備薄弱ニシテ且豫備隊ノ位置モ右翼ニ應スルニ適セサルニ搜索不充分ナリシ爲其探リシ處置ハ時機ニ遅レタリ

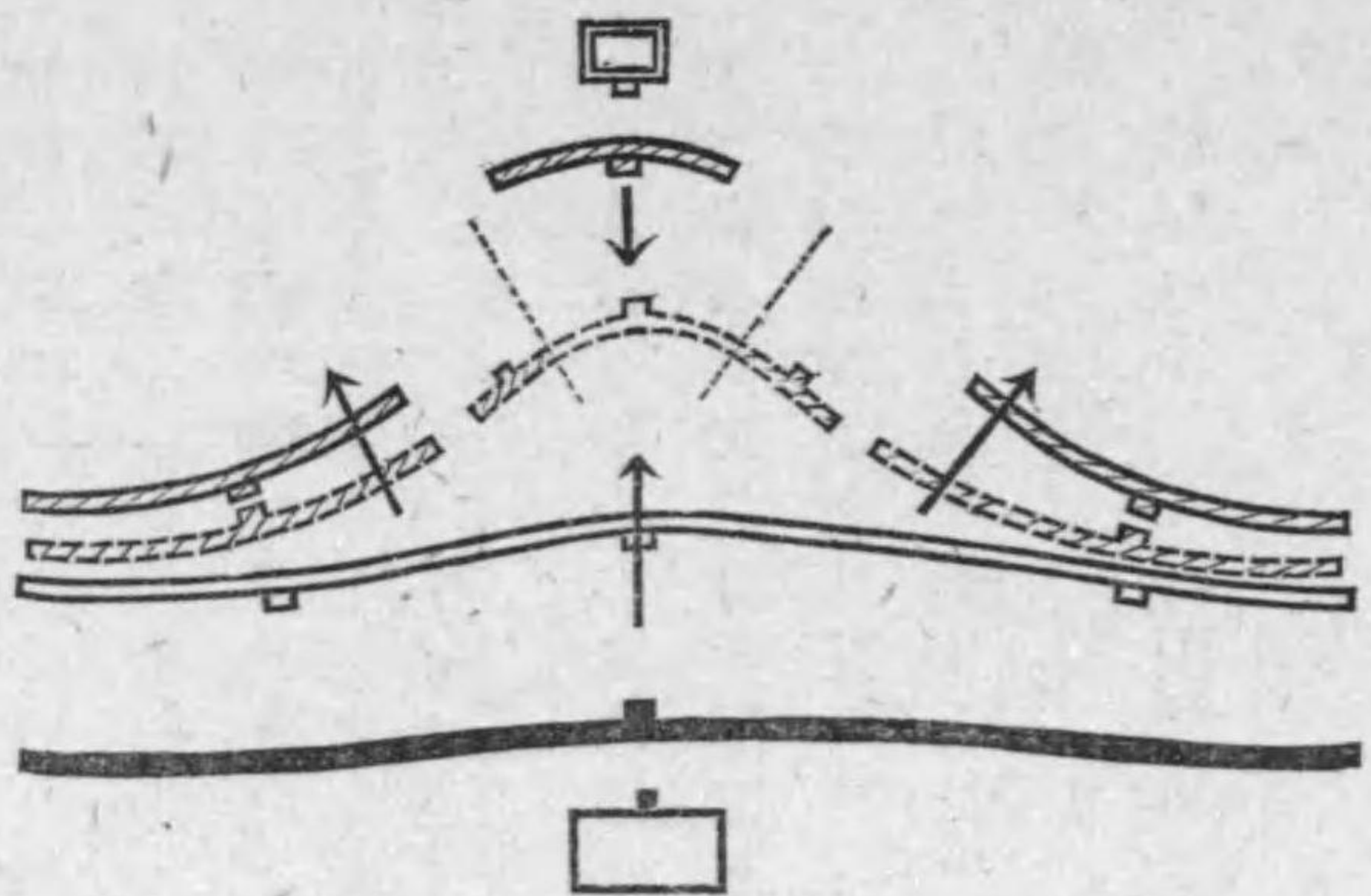
戰術的突破ニ關スル原則的説明

現今ノ火器ニ對シテ戰術的突破ハ頗ル困難ニシテ軍ニ之ノミヲ以テ攻撃成功換言スレハ該戰鬪ノ結末ヲ告クルコトハ殆ント稀有ナリ故ニ此種攻撃ハ大兵團ヲ以テスル大戰場内ニ於テハ應用ノ餘地ナキニアラサルモ小規模ノ戰術行動ノ範圍内ニ於テハ應用範圍縮小セラレタル感アリ之ヲ戰史ニ徵スルニ彼我ノ素質ノ差著シキ時防者非常ニ過大ニ正面ヲ擴張シアルトキ配備上ニ大ナル空隙ヲ存スルトキ防者任意ニ退却セシトキ等ニ成功セル例多シ

然レトモ將來ノ會戰ニ於テ吾人ハ包圍ヲ許ササルコト又ハ包圍ヲ不利トスル狀況ニ遭遇スルコトアリ例ハ地形若ハ要塞等ノ關係ニヨリ敵兵其兩翼ヲ迂回又ハ包圍シ得サル地點ニ托シアル如キ場合ニハ之ヲ擊破スルニハ勢ヒ突破ニ依ラサルヘカラス大兵團内ノ單位部隊ノ戰鬪ノ如キ殊ニ然リ從テ步兵操典第二部第二十七末項ニ正面攻撃ニ關シ注意ヲ喚起シアリ將來ニ於ケル戰鬪(會戰)ノ單位ハ師團ナルヘク師團ハ各擔任正面ノ敵ヲ攻撃シ偶弱點ヲ發見セハ之ヲ占領シ未ダ陷落セサル敵陣地ヲ側射又ハ背射スルコトヲ努ムヘク如斯シテ局部的ノ突破ハ局部的包圍ヲ生シ遂ニ某正面ニ於ケル正面攻撃ヲ成功セシメ決戰的突破ヲ生スルニ至ルヘシ

防者ハ全軍ノ爲攻勢移轉ノ動機ヲ與ヘ全軍ノ攻勢移轉ト相待テ戰勝ノ途ヲ開ク爲正面ヨリ突破即チ部分的ノ攻勢移轉ヲ行フヲ要スルコトアルヘク又追撃ニ際シ敵ノ後衛線(敵後衛)ノ相連絡シテ一線ヲナセルモノヲ云フヲ突破スルヲ有利トスルコトアルヘシ
突破ヲ行ハントハ特ニ左ノ要件ニ著意スルコト緊要ナリ

- (一) 突破スヘキ敵線ノ部分長大ナルコト
此長サハ突破後敵陣地ノ兩外側ヨリ集中火ノ爲多大ノ損害ヲ受クルコトヲ避ケンカ爲ナリ而シテ地形特ニ掩蔽ヲ與フル時ハ最モ可ナリ
- (二) 強大ナル豫備ヲ有スルコト
多大ノ損害ヲ豫期スルト共ニ突破後ハ攻者一時敵陣地内ニ突出部ヲ生シ防者之ニ對シ逆襲ヲナスハ必然ナリ故ニ速ニ強大ナル豫備ヲ以テ之ニ應シ堅固ナル立脚地ヲ占メンカ爲ナリ此際確實ナル據點ヲ得ハ殊ニ可ナリ而シテ此敵ヲ擊退スルコトヲ努ムト雖若能ハスンハ何レカ一側ノ成效スルマテ敵ヲ拒止スルコト緊要ナリ
- (三) 突破點ニ對シ急速ニ大兵ヲ進ムルコト
突破ノ際獲得シタル破綻口ヲ擴大シ以テ戰勝ヲ確實ナラシメシカ爲ナリ
- (四) 突破後兩側ニ向ヒ敵ヲ席捲スルコト
是敵ヲ兩分シ兩敵ヲシテ相連繫シ得サシメ以テ戰勝ノ効果ヲ大ナラシメンカ爲ナリ



防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

- (五) 敵ノ弱點ニ乘スルコト
配備上又ハ兵力上或ハ素質上志氣上等有ユル弱點ヲ探究シ之ニ乘シ第一ノ成功ヲ速ナラシムルヲ要ス
- (六) 陽動ヲ以テ敵ノ豫備隊ヲ移動セシムルコト
大會戰ニ於ケル戰面ハ廣大ナルカ故ニ一度陽動ニ欺レタルモノハ爾後更ニ之ヲ正當ノ方面ニ使用セントスルモ多クハ機ヲ失シ易シ攻者ハ特ニ之ヲ利用シ突破及其後ニ於ケル動作ヲ容易ナラシメンカ爲ナリ
- (七) 突破ノ行動普通ノ攻撃前進ナルコト

昔日ノ突貫攻撃ノ如ク密集兵團ヲ以テ突貫ヲナス戦法ニテハ現今ノ火器ニ對シ成效ノ見込ナケレハナリ而シテ突入部隊ハ正面部隊ト共ニ兩側ニ對シ包圍攻撃ヲ行フモノナリ
戰略突破ニ關シテハ學年ノ進ムニ從ヒ他日之ヲ研究スル所アラントス

戰術的突破ニ關スル戰例

- 一 千八百五十二年十二月二日 Austerlitz ノ會戰ニ於ケル佛軍攻勢移轉ノ例(獨逸步兵操典戰史の說明第二五八頁)
- 二 千八百九年七月五、六日 Wagram ノ會戰ニ於ケル佛軍攻撃ノ例(戰史略)
- 三 明治三十七年十月十二、十三日沙河會戰中日本近衛師團ノ馬耳山附近ノ攻撃ノ例
- 四 同 十月十四日沙河會戰中日本第三師團ノ沙河堡附近ノ攻撃ノ例
- 五 明治三十八年三月九、十日奉天會戰ニ於ケル日本軍第一軍舊站附近ノ攻撃

ノ例

但シ三四、五ノ戰例ノ說明ハ之ヲ省略シテ諸官ノ研究ニ讓リ以下一、二ニ就テ略述ス

一 千八百五十二年十二月二日 Austerlitz ノ會戰

一 會戰參與兵力

佛軍 七五、〇〇〇人(騎兵一四、〇〇〇人ヲ含ム)
聯合軍(露埃)八六、〇〇〇人(騎兵一六、〇〇〇人ヲ含ム)

二 戰場附近ノ地形ノ概要

Pralzen 高地ハ附近ノ最要點ナリ佛軍ニシテ之ヲ保持シ右翼ヲ Litawa 河ニ托スレハ敵ノ迂回ヲ妨ケ敵ヲシテ己ムヲ得ス正面攻撃ヲ爲サシムルニ適ス Gold Baah ハ當時結氷シアリシモ河岸沼澤多クシテ障碍ヲ呈シ佛軍ノ爲ニハ比較的僅少ノ兵力ヲ以テ正面ノ大部ヲ占領スルニ適セリ

三 佛軍ノ配備

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

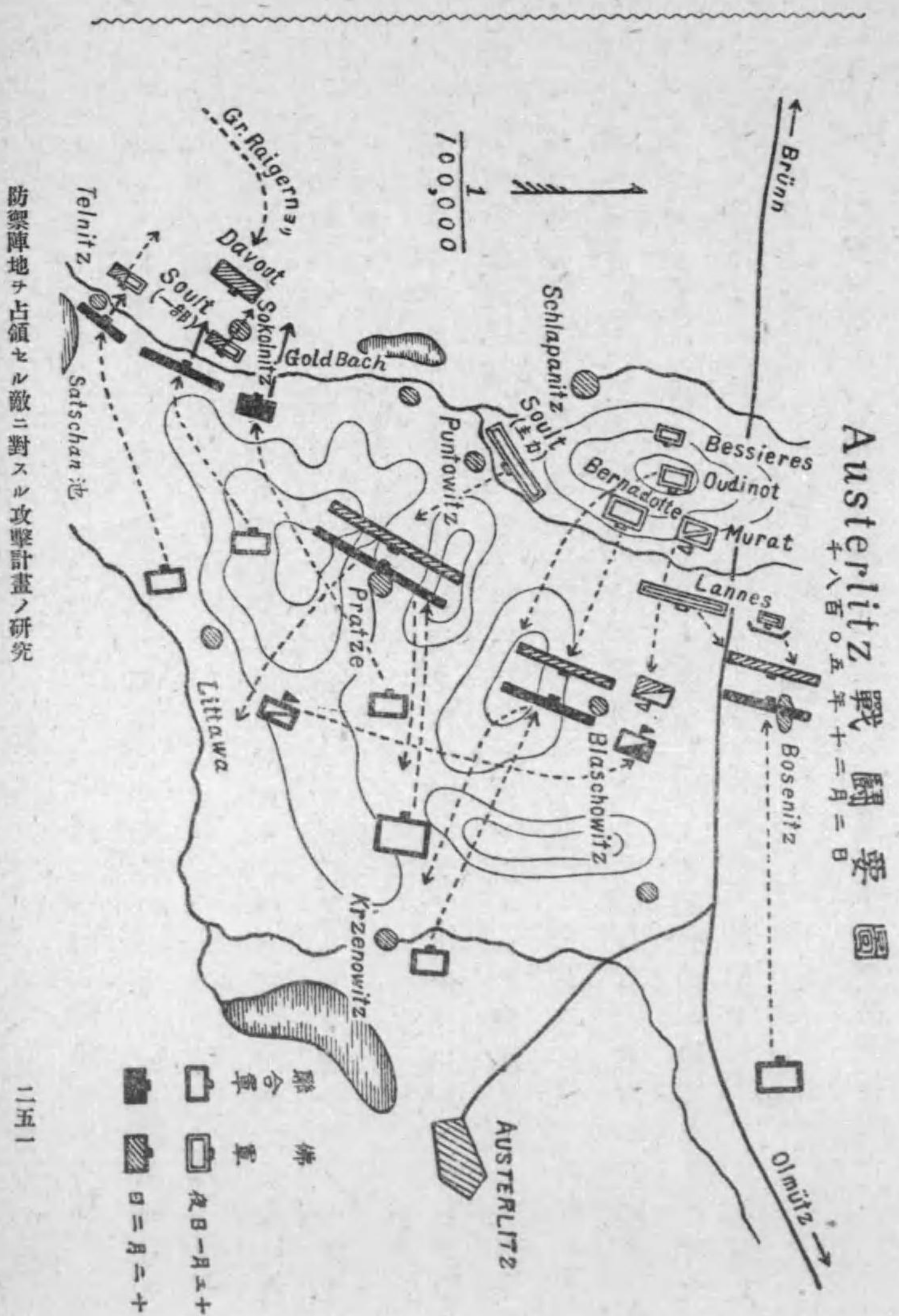
十二月一日ニ於ケル佛軍ノ配備ハ概要挿圖ノ如シ即チ Soult ハ其減員セル三師團ノ一部ヲ以テ Telnitz 及 Sokolnitz 附近ヲ主力ヲ以テ Puntowitz ノ對岸附近ヲ占領シ Lannes ハ其主力ヲ以テ Brünn-Olmütz 道ニ跨リテ陣地ヲ占領ス其左翼ニハ堅固ナル據點ヲ構成シアリ而シテ有力ナル豫備隊ハ Schlapanitz ノ東方及北方地區ニ位置シ又 Davout ハ此夜 Gr. Raigern (Telnitz 東方二里強)ニ到着セリ

奈翁ノ此考案ハ敵ヲシテ其意ノ如ク佛軍ノ右翼ニ對スル包圍運動ヲ實施セシメ自ラ其右側ニ出撃シテ敵ヲ南方ニ壓迫セントスルニ在リ

四 戰鬪

十二月二日朝聯合軍ハ奈翁ノ豫期セシカ如ク其主力ヲ以テ Telnitz, Sokolnitz 間ノ地區ニ對シテ攻撃ヲ實施シ午前九時頃ヨリ Telnitz 及 Sokolnitz ニ於テ渡河ヲ始ム此頃恰モ Raigern 方向ヨリ Davout 軍團到着シ茲ニ Gold Bach 河畔ニ於テ激戰ヲ惹起ス

是ヨリ先奈翁ハ午前七時半頃 Schlapanitz 東北高地上ヨリ Pratzen 高地ノ漸次



防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

空漠トナルヲ見ルヤ Soult ヲシテ Pratzen 高地ニ向ヒ前進セシム乃チ Soult ハ
午前八時頃ヨリ運動ヲ起シ將ニ同高地ニ攀登セントスルヤ恰モ到着セシ聯
合軍ノ縱隊ト衝突ス

尋テ Brünn 街道方面及其南側地區ニ於テモ亦聯合軍ノ四萬二千人ニ對シ佛
軍六萬二千人ト戰鬪ヲ生セシカ Blaschowitz 附近ニ於テ聯合軍ノ一部先敗レ
午前十一時頃東南方ニ退却セリ

更ニ正午頃ニハ Pratze 附近ニ於テ當日ノ勝敗ノ決定ヲ見ルニ至レリ即チ聯
合軍ハ極力奮闘セシモ遂ニ佛軍ノ擊破スル所トナリ斜面ヲ降リテ東方及東
南方ニ退却セリ

茲ニ於テ Gold Bach 河畔ニ於テ戰鬪中ナリシ聯合軍ノ主力ハ其退路ヲ遮斷
セラレ Satschan 池邊 Litawa へ Gold Bach トノ隅角内ニ包圍セラルルニ至レ
リ

五、教訓

一 正面ヨリスル攻勢移轉ノ一例ナルト共ニ中央突破ノ一例ナリ

二 此種ノ形式ノ應用ハ現代ニ於テハ困難ナリ

I 奈翁ノ如ク肉眼的觀察ヲ以テ好機ヲ捉フルコトハ最早困難ナリ

2 火器ノ威力ノ増加セル今日ハ如此高壓的突撃ハ一地ヲ守備セル者ニ
對シテハ殆ント成功ノ見込無シ

三 奈翁ノ動作ハ模範トスルニ足ル

1 會戰前ニ於ケル冷靜ナル觀察、敵軍企圖ノ明察、迅速ナル決心、軍隊掌握
ノ確固

2 專守防禦ニ代フルニ攻勢防備ノ採用

一一 千八百九年七月五、六兩日 Deutsch Wagram 附

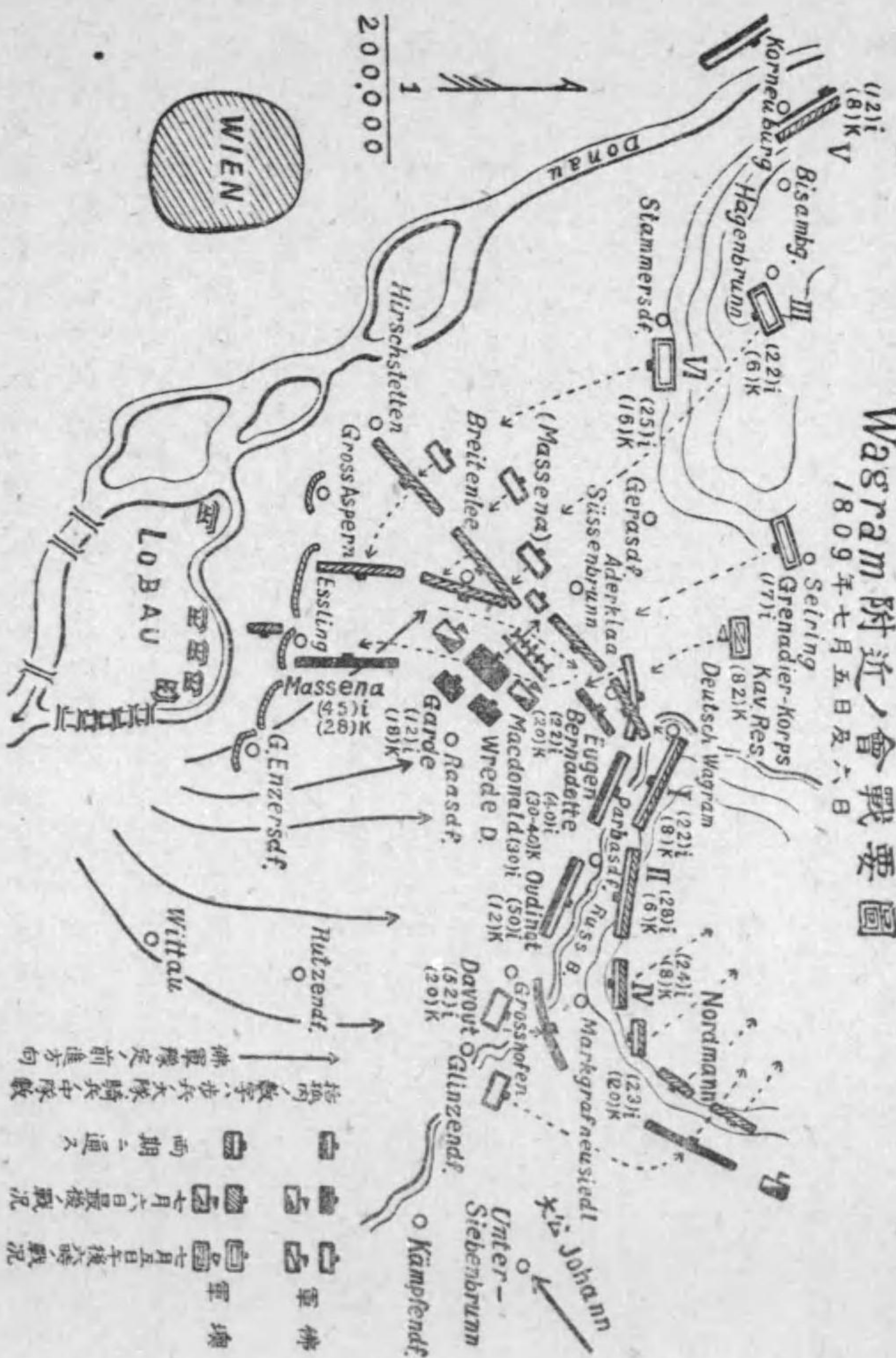
近ノ會戰

一 埃軍總督 Karl 大公ハ六月下旬 Deutsch Wagram 附近ニ於テ奈翁ノ渡河ヲ俟
チ一大決戰ヲ遂行セント企圖シ Johann 大公ノ軍ヲ Pressburg 方面ニ招致ス其
配置概要ハ要圖ノ如シ

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

Wagram附近ノ會戰要圖

1809年七月五日及六日



奈翁ハ六月下旬渡河ニ關スル準備ヲ完整シ其兵力大約十八萬ヲ超過ス

二 佛軍ハ七月四日夜ヨリ渡河ヲ開始シ埃軍ノ大ナル抵抗ヲ受クルコトナク五日午後六時頃迄ニ概シテ Glinzendorf ヨリ Aderklaa ヲ經テ Hirschstetten ニ亘ル線ニ達シ Markgrafneusiedl ヨリ Wagram ニ亘ル Russ 河畔ニ於テハ決戦ノ機既ニ熟シアリ

然ルニ埃軍ハ其約三分ノ一ノ兵力ヲ遠ク Seiring, Gerasdorf ノ線以西ノ地區ニ留メテ敢テ動カス而モ佛軍ノ之ニ對セルモノハ僅ニ Massena 軍アルノミナリ奈翁ハ Markgrafneusiedl, Wagram ノ線ヲ奪取シテ勝ヲ一舉ニ制セントシ午後七時諸軍ニ總攻撃ヲ命セシモ此實行ハ統一的ナラサリシ爲失敗ニ終リ辛ウシテ Russ 川右岸ノ舊陣地ヲ保持シツツ戰鬪交綏シテ夜ニ入ル

三 大公ハ六日全力ヲ擧ケテ攻勢ヲ取ルニ決シテ所要ノ命令ヲ下シ且 Johann 大公ヲシテ Unter Siebenbrunn ヲ經テ戰場ニ急行セシム乃チ午前四時第一軍團ハ先 Aderklaa ヲ攻撃シ第四第二軍團之ニ應シテ亦攻勢ニ轉ス第四軍團方面ニ於テハ一時甚有利ノ狀況ヲ生セシモ右翼方面各軍團ノ攻撃カ此好

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

機ニ投セサリシ爲何等ノ利益ヲ生スルコトナク、又第一軍團ハ Aderklaa ヲ占領センカ右翼各軍團ノ前進遅延セシ爲孤立奮闘ス

是ヨリ先 Massena ハ一師團ヲ Aspern ニ留メ主力ヲ以テ Preitenlee 方向ニ前進セシカ埃軍ノ Aderklaa ヲ占領セシヲ知リ之ヲ奪取セント努メシモ未タ好果ヲ得サルニ先チ背面ニ於テ埃國右翼軍團ハ Aspern ニ殘置セシ一師團ヲ擊破シタル後左方ニ旋回シテ Preitenlee ニ向ヒ又他ノ一軍團モ同地ニ向ヒ擲彈兵軍團ハ Süssenbrunn ニ向ヒテ前進シ之ニ對シタル Massena ノ軍ハ其擊退スル所トナリ又 Bernadotte ハ一日 Aderklaa ヲ占領セシモ再ヒ敵手ニ歸シ其軍隊ハ秩序ヲ亂シテ退却スルニ至リ午前十時頃埃軍ハ Aderklaa 附近以南殆ント全滅セシ佛軍ノ右翼ヲ全ク包圍シ終リシモ其正面廣キニ過キテ中央甚薄弱ナリ

四 此時恰モ奈翁ハ Massena 軍ニ來著シテ狀況ヲ視察シ先 Massena ニ命スルニ其崩解セル軍隊ヲ Aspern 附近ニ退却セシメテ要地ヲ占メ埃軍ノ前進ヲ拒止スヘキコトヲ以テシ新銳ノ兵 (Macdonald, Wrede 師團) 近衛兵及騎兵ノ大部ヲ悉ク Aderklaa 南方地區ニ集結シテ新ニ中央突破ノ策ヲ立ツ之カ爲特ニ

砲百門ヲ決勝地ニ布列セシメテ敵ノ運動ヲ制止シ以テ其攻撃準備ヲ爲スト

同時ニ Massena ノ側面行進ヲ掩護セシム是ニ於テ砲兵集團先猛火ヲ集中シ Macdonald ハ其手兵ヲ提ケテ Süssenbrunn 方向ニ驀進ス

五 是ヨリ先 Davout ハ埃軍陣地ノ左翼ニ猛火ヲ集注シタル後歩兵ハ二團トナリ一ハ前面ヨリ一ハ側面ヨリ之ヲ攻撃シ騎兵四師團其背後ニ迫ル埃軍能ク拒キ屢逆襲ニ轉セシモ諸將相踵テ斃レ加フルニ佛兵九大隊新ニ加ハリテ攻撃スルニ及ヒ遂ニ陣地ヲ棄テテ退却ス

是ニ於テ埃軍ノ全陣地ハ逐次左翼ヨリ席捲セララルヘキ運命ニ陥リ Prince 大公終ニ退却ヲ命ス

六 教訓

- 一 本戰例ハ中央突破ノ不成功ノ例ナリ佛軍ノ勝利ハ中央ニ於ケル成功ニ因ルニ非スシテ敵ノ左翼ニ對スル包圍ノ成功ニ因ル
- 二 五日夕ニ於ケル埃軍ノ配置ハ適時中央及左翼ノ戰況ニ應スルコト不能ニシテ適當ナラス殊ニ火器ノ進歩セサリシ當時ニ於テハ戰鬪ノ決著迅

速ナルヲ以テ然リトス

- 三 塙軍ノ正面過廣ニシテ不利ナリシコトハ前文既ニ述フル所ノ如シ
- 四 奈翁ノ最後ノ中央突破ノ企圖ニ對スル軍隊ノ使用ハ模範トスルニ足ル然レトモ晝間 Massena 軍ヲ Aderklaa 附近ヨリ Aspern 附近ニ移動セシカ如キ動作ハ火器ノ進歩セル今日ニ於テハ實行不可能ナラン

(二) 攻撃部署

攻撃部署ヲ決定スル原則ハ步兵操典第二部第二十六ニ明示シアリ曰ク「攻撃點ニ優勢ノ兵力ヲ使用スルハ攻撃部署ノ要訣ナリ此際一部ノ兵力ヲ以テ敵線ノ他部ニ向ハシメ主力ノ攻撃進捗ヲ容易ナラシムルコト肝要ナリ」ト茲ニ於テ次ノ問題ヲ生スヘシ

- (一) 敵陣地ノ状態及配備正面ニ基キ我兵力ノ按配
- 敵陣地ノ配備正面ハ上三橋ヨリ以西ノミニテモ約四吉、西永井附近ヲモ算入スルトキハ約五吉ナリ然ルニ一師團カ決戰方面ニ於テ擔任シ得ル正面幅ハ普通

三乃至四吉ナリ故ニ郡山附近敵陣地ノ全正面ニ對シ十分ナル兵力ヲ以テ攻撃シ能ハサルヤ明ナリ從テ前述原則ニ從ヒ攻撃點タル上三橋及其附近ニ優勢ナル兵力ヲ、下三橋以西特ニ郡山西方高地附近ニハ一部ヲ以テ之ニ對セシムルヲ要ス郡山南端附近ノ敵ノ監視部隊ノ存在スル地區ノ如キハ殊ニ然リ

(A) 歩兵

攻撃點タル上三橋ヲ奪取センニハ之ニ關聯シテ其西方中間散兵壕及敵ノ豫備陣地ニシテ戰況ノ發展ニ伴ヒ敵ノ現出ヲ豫期スル北之庄附近ノ敵陣地トヲ併セ攻撃セサルヘカラス如斯準備ヲ以テシテ始メテ上三橋附近ニ對スル包圍ヲ行フコトヲ得ヘシ然ルニ北之庄附近ヨリ上三橋ヲ經テ其西方敵散兵壕ニ亘ル延長ハ千二百米乃至千五百米ニシテ決勝方面ノ兵力トシテハ歩兵六大隊ヲ要ス

下三橋附近ヨリ郡山南端附近ニ亘ル線ハ其配備上兵力ノ厚薄ハアレトモ其正面ハ約千五六百米アリ此正面ニ於ケル敵ニ對シ主力ノ攻撃進捗ヲ容易ナラシムルニハ果シテ幾何ノ兵力ヲ要スヘキヤ如斯コトハ固ヨリ數學的ニ算

定シ得ヘキモノニアラスト雖亦多少ノ標準ナクンハアルヘカラス步兵操典第一部第七十九第四項ニ曰ク「各中隊ノ戦闘正面ハ狀況特ニ地形ニ依リ定ムヘシト雖決勝ヲ企圖スル攻撃正面ニ於テ散兵線ノ兵力ヲ適當ニ維持セシメント欲セハ、戰時人員一中隊ノ爲ニハ概ネ百五十米ヲ標準トナスヘシ其他ノ場合ニ在リテハ尙之ヨリ廣キ正面ヲ負擔スルコト多キモノトス」ト而シテ其正面ヲ幾何迄擴張スヘキヤハ狀況特ニ日時及地形ニ關シ指揮官ノ決定ニ一任シアリ本情況ニ於テハ下三橋以西ハ攻撃點附近ノ如ク攻撃力ヲ要セストスルモ尙相等ノ攻撃力ヲ有セシメサルヘカラス茲ニ於テ一中隊ニ約二百米ノ正面ヲ負擔セシムトセハ此敵陣地正面ニハ約八中隊ヲ要スヘク之ニ指揮ノ關係如何ニヨリ第二線乃至第三線ノ豫備隊ヲ合シテ二乃至四中隊ト見積ルトキハ步兵約三大隊ヲ要スヘシ

郡山西方ノ高地ハ敵陣地ノ支撐點ニシテ敵ノ爲ニハ重要ナル價值ヲ有スル地點ナルモ地形錯雜且地區狹小ナルヲ以テ大兵ヲ用フルハ不利ナリ大職冠附近高地ノ敵ヲ目途トシテ敵ノ右翼ヲ脅威シ成ルヘク多ク兵力ヲ牽制シ以

テ主力方面ノ戦闘ヲ容易ナラシムルニ足ル最小限ヲ以テスルヲ可トス而シテ此方面ハ稍、獨立ノ動作ヲ要スルヲ以テ戰術單位以上ノモノニ相等ノ特科兵ヲ配合セルモノナルヲ要ス故ニ予ハ此方面ノ步兵ハ之ヲ一大隊トナサントス

殘餘ノ步兵二大隊ハ即チ師團長ノ豫備隊トナルモノナリ

(B) 砲兵

砲兵ハ前述步兵兵力接配ノ主旨ニ基キ之ト適切ナル協同援助ヲ與ヘ得ル如ク使用セサルヘカラス而シテ其主力砲兵ノ位置ハ樸枝、横田及伊豆七條附近ヲ適當トナス

大職冠方面ノ部隊ハ稍、獨立の行動ヲ要スルト主力砲兵ノ使用方面ヨリ遠隔シアルトヲ以テ此部隊ニハ特ニ砲兵ノ一部ヲ專屬セシムルヲ要ス而シテ予ハ砲兵ノ位置ノ關係等ヨリ從來左縱隊前衛ニ在リシ砲兵大隊ノ内ヨリ一中隊ヲ附スルヲ適當トス

(C) 工兵

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

將來敵陣地設備ノ状態一層明瞭トナラハ我第一線各部隊ニ工兵ヲ分屬スルヲ要スルニ至ルヤモ測ラレスト雖目下ノ處ニテハ地形上第一線歩兵ノ爲特別ニ工兵ノ援助ヲ要スルコトナク又敵陣地設備モ輕易ナル戰場築城ノ程度ナリ且師團主力方面ニ於ケル地域竝地形ノ關係モ必要ニ際シ之ヲ派遣シテ機ヲ失スルコト少ナキヲ以テ師團主力方面第一線部隊ニハ今ヨリ工兵ヲ分屬セサルヲ要ス

大職冠方面ノ部隊ハ之ト其趣ヲ異ニシ敵陣地ノ設備モ堅固ナルヘク又主力方面ヨリ稍獨立シ而モ砲兵ノ一部ヲモ專屬スルヲ要スルノミナラス其砲兵ヲ野砲トスルヲ以テ特ニ工兵ノ一部ヲ分屬スルヲ要ス而シテ其工兵ハ部隊ノ大小ハ兎ニ角將校ノ指揮スルモノタルヲ要スルカ故ニ此方面ノ部隊ニハ予ハ約半小隊ヲ始ヨリ分屬スルヲ適當ト認ム
果シテ右ノ如クナレハ工兵大隊ハ作業ナキヤ曰ク否ラス此際工兵大隊ニハ重大ナル作業ヲ課スルヲ要ス砲兵主力ノ陣地附近ニハ其前方ニ堤防小流アリテ將來ノ進出ヲ顧慮シ之カ通過設備ヲナスコト及砲兵ノ爲遮蔽セル彈藥

補充道(段列車馬ノ通過路)ノ設備ヲナスコト是ナリ故ニ工兵大隊ニハ此設備ヲ命シ作業終リテ豫備隊ニ入ラシムルヲ可トス

(D) 騎兵

主力ハ右翼一部ハ左翼方面ニ在リテ警戒ニ任スルハ現在ノママトナシ其他ハ各隊ニ傳騎トシテ配屬スルヲ適當トス

- 上三橋方面ノ部隊 一分隊
- 下三橋方面ノ部隊 四騎
- 大職冠方面ノ部隊 一分隊
- 師團長直轄 殘餘

(二)

指揮ノ系統

前述ノ研究ニ基キ所要ノ兵數ハ之ヲ概定スルヲ得タリ次ニ之ヲシテ如何ナル指揮ノ關係ヲ保タシムヘキヤヲ研究スルヲ要ス之カ爲ニハ師團現在ノ姿勢ヲ顧慮シテ決定スヘシ又之ヲ要スレハ攻撃準備位置ニ就ク際整理スヘキモノトス是戰鬪指揮ハ他ノ場合ニ比シ特ニ緊要ナレハナリ

主攻撃方面

完全ナル一旅團トナシ第二旅團長ニ指揮セシム
但シ騎兵ノ支援タル歩兵第三聯隊第一中隊ノ一小隊ハ現在
ノママトシ其指揮系統ハ依然旅團長ニ屬セシム

下三橋方面

完全ナル一聯隊トシテ第一旅團長ニ指揮セシム
但シ現在池内附近ニ在ル歩兵第一聯隊第二中隊ノ一小隊ハ
臨時之ヲ大職冠方面隊長ノ指揮下ニ入ル

大職冠方面

歩兵第二聯隊ノ一大隊ヲ派遣シ師團長ノ直轄トス
殘餘ノ歩兵第二聯隊(一大隊欠)ハ師團長ノ豫備トス

豫備隊

砲兵ノ主力ハ砲兵聯隊長ヲシテ指揮セシム

野砲兵一中隊ハ大職冠方面ノ隊長ニ屬ス

(三) 軍隊區分

前二項ヲ綜合スレハ師團攻撃ノ爲ノ軍隊區分ヲ得ヘシ

軍隊區分

右翼隊

長 少將某

歩兵第二旅團

騎兵一分隊

中央隊 (注意 左翼隊ヲ左側支隊ト稱スルトキハ中央隊ハ左翼隊トス)

長 少將某

歩兵第一旅團(第二聯隊及第一聯隊第二中隊ハ一小隊ヲ欠キ傳騎四ヲ附ス)

左翼隊 (注意 左側支隊ト稱スルモ強テ不可ナシ然ルトキハ之ヲ最終

ニ記スルヲ可トス)

長 歩兵少佐某

歩兵第二聯隊第一大隊機關銃一小隊及池内附近ニ在ル歩兵第一聯隊

第二中隊ノ一小隊ヲ屬ス)

騎兵一分隊

野砲兵一中隊

工兵半小隊

砲兵隊

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

長 砲兵大佐某

野砲兵第一聯隊第一中隊及第三大隊欠

山砲兵第一大隊

野戰重砲兵第一大隊

騎兵隊

第一師團騎兵中隊(一小隊ト一分隊欠)(注意 缺キタル兵力中ニハ將

校斥候ノ兵力ヲモ含ム)

豫備隊

歩兵第二聯隊第一大隊及機關銃一小隊欠

騎兵一分隊

工兵第一大隊(半小隊欠)

(注意) 衛生隊、師團電話隊等ハ戰鬪ノ爲ノ軍隊區分ニハ記セサルヲ通常トス

本攻、助攻ニ關スル原則的說明

兵語之解學生ニ分五〇ニ曰ク「主力ヲ以テ行フ攻撃ヲ本攻ト謂ヒ本攻ヲ容易ナラシムル爲一部ヲ以テ本攻前ヨリ若ハ遅クモ之ト同時ニ開始スル攻撃ヲ助攻ト云フ」

之ニ由リテ觀レハ本攻トハ攻撃點又ハ攻撃正面ニ於テ攻撃重點ヲ指向スル方面ノ攻撃ヲ云ヒ助攻トハ此攻撃ヲ容易ナラシムル爲ノ副攻撃ヲ云フナリ

助攻トハ小數ノ兵力ヲ以テ比較的大ナル效果ヲ得ント欲スルモノニシテ理論上成立セサルカ如キモ一度戰史ヲ緝カハ其有効ナルコトハ何人モ首肯スヘシ是人類ハ理性ノ外感情ノ支配ヲ受クルモノニシテ時トシテハ激烈ナル感情ハ理性ヲ超越スルコトアレハナリ

助攻ノ目的ハ其方面ニ多クノ敵兵ヲ牽制シ或ハ攻撃點ヲ誤認セシメ又ハ敵ニ痛痒ヲ與フル等ニ在リ從テ助攻ノ目的ヲ達スルニハ

(1) 陽攻 (欺騙ヲ目的トナス)

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

(2) 眞面目ノ攻撃痛痒ヲ與フルヲ目的トナス

ノ何レノ方法ニ依ルモ可ナルカ如シト雖欺騙ヲ以テ目的トスルモノハ地形特ニ有利ナルカ又ハ敵軍素質不良ナル等特別ノ場合ニ於テ採用セラルルコトナキニアラサルモ普通ノ場合ニ於テハ一時敵ヲ欺キ得ヘキモ戰鬪ノ鞏強通信機關ノ發達等ハ幾何ナラスシテ其假面ヲ暴露シ敵ニ發覺セララルルニ至リ爾後ハ却テ敵ニ致サルルノ不幸ニ陥ルナラン

予ヲ以テ之ヲ觀レハ助攻ハ敵ヲ欺騙シテ目的ノ達成ヲ計ランヨリハ寧ロ敵ニ直接ノ痛痒ヲ與ヘ其目的ノ達成ヲ企圖スルヲ有利ナリト信ス從テ助攻ハ敵ノ痛痒ヲ感スヘキ方面ニ向ヒ眞面目ノ攻撃ヲ行フヲ要ス殊ニ此攻撃ハ猛烈果敢ナルヲ希望ス

助攻部隊ノ攻撃猛烈果敢ナレハ敵モ亦不安ノ念ニ驅ラレ勢ヒ大ナル兵力ヲ之ニ對セシムルノ公算アリ或ハ敵ハ助攻部隊ニ向ヒ大舉攻勢ニ轉スルコトナキニアラサルヘシ果シテ然ラハ何レノ場合ニ於テモ助攻部隊ハ其目的ヲ達シ得タリト云フヘシ

要スルニ助攻ハ困難ナル任務ナルヲ以テ適當ナル方面ノ選擇ヲ要スルハ勿論指揮官ノ手腕ニ待ツコト甚多シ故ニ此任務ニ服セシムル指揮官ハ特ニ人選ヲ要スルモノナリ

(ホ) 攻撃準備位置

攻撃準備位置ニ關シテハ步兵操典第二部第五十第一項末段ニ指示シテ曰ク此位置ハ成ルヘク敵ニ近接セシムヘシト雖敵ノ砲火ノ損害ヲ被ラサル地ニ選フヲ要ス

諸官ハ此原則ヲ基礎トシテ第一師團ノ現況特ニ豫想スル敵砲兵陣地ヲ顧慮シ決定スレハ可ナリ敵ノ砲兵ハ下三橋東北方約五百米無名池附近大職冠附近ニ在ルコト略明瞭ナレハ其他一般ノ地形ヲ斟酌シ敵砲兵ニ對シ損害ヲ受ケサル程度ニ而モ我攻撃經過ノ迅速容易ヲ顧慮シテ成ルヘク敵陣地ニ近接スルヲ要ス而シテ現今ニ於ケル野戰砲ハ其砲種ニヨリ差異アリト雖開濶地ニ在リテハ三千米以內ハ有効射界ト見サルヘカラス而シテ郡山附近ノ地形ハ處々ニ村落ノ點在

スルアリテ小部隊ノ爲ニハ利用シ得ヘキモ敵ハ郡山西方高地ニ於テ我ヲ觀察スヘケレハ晝間前述ノ距離以内ニ大部隊ヲ進メテ攻撃準備位置ヲ占ムルコトハ困難ナリ

尙攻撃準備位置ニハ攻撃前進ノ時機ニ至ル迄ノ間我部隊ヲ掩蔽スルノ地物アルコトヲ希望ス否ラサレハ各部隊内ノ準備ヲナスニ不便ナレハナリ之ヲ現況ニ照スニ第一師團ノ占ムヘキ攻撃準備位置ハ左ノ如キモノナルヘシ

(I) 檜横田北方約五百米學校、筒井北端、西地名北端ヲ連ヌル線

(II) 樺本—横田—筒井—高安道ニ沿フ線附近

(III) 鋒立、伊豆七條、池澤、東椎木ヲ連ヌル線附近

(I) 比較的敵ニ近接シ我砲兵ノ陣地(射距離ノ關係)等ヲ求ムルニ好都合ナルカ如キモ如何セン此附近ニハ掩護ニ利用シ得ヘキ地物乏シク各部隊ノ大部ハ攻撃前述ノ時機ヲ待ツ間空シク米田中ニ位置セサルヘカラス但シ所要ニ應シ一部隊ヲ此線附近ニ出スハ固ヨリ可ナリ

(II) 前者ニ比スレハ少シク遠キモ攻撃準備位置ニ於テ歩砲兵ヲ略同線ニ配置

スレハ我砲兵ハ敵砲兵ヲ距ル三千五百米位ノ所ニ第一陣地ヲ占ムルコトヲ得ヘク又前者ニ比スレハ相等ノ地物ヲ有ス

(III) 現在ノ姿勢ヲ以テセハ比較的早ク且容易ニ攻撃準備位置ニ就キ得ルノミナラス敵砲兵ニ遠カルノ利アルモ此位置附近ニ於テハ我砲兵ノ第一陣地ハ四千米以上トナリ爾後ノ攻撃歩砲兵ノ協同動作上不便ナリ
以上ノ如クナルヲ以テ(II)ノ位置附近ヲ適當ナリト認ム故ニ

第一師團攻撃準備位置ハ樺本—横田—筒井—高安道ニ沿フ線附近ニ選定セラルルヲ適當トス

攻撃準備位置ニ關スル原則的説明

「攻撃準備ノ位置」ナル兵語ヲ廣義ニ解スレハ二様アリ (甲) 攻撃ヲ準備スル爲換言スレハ攻撃計畫ヲ定ムル資料集收ノ爲當初占ムヘキ位置 (乙) 攻撃計畫確定後統一指揮ノ下ニ攻撃ヲ實施スル爲攻撃實行ニ移ル爲ノ諸準備ヲ整フル位置即チ歩兵操典第二部第五十第一項ニ示スモノ是ナリ

(甲) ハ攻撃計畫策定前ノ待機位置ニシテ操典ノ所謂攻撃準備位置トハ全ク別物ニシテ偵察ノ爲開進シタル位置ハ寧ロ此主旨ニ合スルモノナリ。此位置ハ狀況特ニ地形竝部隊ノ大小ニヨリ差異アリト雖攻撃ノ爲ノ諸偵察其他ノ準備ヲナシ得ル程度ニ於テ將來ノ行動ヲ顧慮シ機動ノ餘地ヲ存スルヲ適當トス。

(乙) ハ攻撃實施ノ爲準備待機姿勢ヨリ戰鬥姿勢ニ移ル基礎配置即チ戰鬥ノ爲諸單位ヲ配列スル基礎展開線ニシテ其位置ハ敵火ノ損害ヲ被ラス且整齊確實ニ占領シ得ルノ程度ニ敵陣地ニ接近シアルヲ可トス故ニ敵ノ兵種地形攻撃開始ノ時機天候等ニヨリ差異アルヘシ而シテ普通ノ狀況ニ於テ諸兵種連合ノ敵ニ對シテハ三千米内外ヲ以テ標準トナスヘキカ若夫レ拂曉攻撃ニ在リテハ夜暗ヲ利用シ敵火ノ損害ヲ避ケ得ルカ故ニ勉メテ敵陣地ニ近接シ天明後我前進スヘキ地域ヲ減少スルヲ要ス而シテ其近接程度ハ一ニ敵情特ニ夜間ニ於ケル敵ノ警戒狀態ニ關係ス茲ニ一ノ注意ヲ要スルハ敵ノ監視斥候ノ如キモノナランニハ可ナルモ有力ナル部隊ノ守備シアルモノヲ夜間驅逐シ

テ然ル後攻撃準備ノ位置ニ就ク如キ場合ニハ特ニ熟慮ヲ要ス即チ之ヲ行フノ可否ヲ考察シ又之ヲ行フニハ充分ナル時間ノ餘裕ト周密ナル計畫トヲ要スルコト是ナリ而シテ實際此ノ如キ必要ハ主トシテ砲兵陣地設備ノ爲ニ生ス何トナレハ歩兵ノ爲ニハ其部分ノミハ後退シアリテモ翌拂曉攻撃開始ニ際シテハ該敵ハ當然退却スヘク大ナル顧慮ナケレハナリ若夫レ如斯小部隊ノ多數カ陣地前ニ在リテ夜間ノ接近困難ナルトキハ寧ロ晝間ノ攻撃準備ノ位置(A)ニ就テ先一部隊ヲ以テ敵ノ前進部隊ヲ驅逐シ後本陣地攻撃ノ爲ノ拂曉準備位置(B)ヲ占ムルコトアリ此際ハ形體上ニ於テハ恰モ晝間及拂曉攻撃ノ爲二個ノ攻撃準備ノ位置アルカ如キ觀アルモ決シテ否ラス予ノ説明シタルカ如ク指揮官ノ意志發動ニ基ク基礎展開ノ線ハ當然(A)ナルトキハ之ヲ攻撃準備ノ位置ト稱シ(B)ハ攻撃經過中某日拂曉ニ於ケル諸隊ノ位置ト見ルヲ適當トス又指揮官ハ始メヨリ拂曉攻撃ヲ豫定シ前日ハ主力ヲ集結シ各一部ヲ以テ敵ノ前進部隊ヲ驅逐シ翌拂曉展開ノ基線ヲ(B)ニ定ムル主旨ナルトキハ之ヲ以テ攻撃準備位置ト見ルヘシ。

攻撃ニ關スル研究中左記ノ事項ハ學生講話(各題約十五分間)ニ讓ル

- 一 歩兵各部ノ攻撃戰鬪法
- 二 攻撃ニ於ケル歩兵機關銃ノ用法
- 三 攻撃間ニ於ケル師團騎兵中隊ノ用法
- 四 攻撃ニ於ケル野砲、山砲野戰重砲(十五榴)ノ用法
- 五 野砲及野戰重砲(十五榴)ノ射法
- 六 攻撃ニ於ケル工兵ノ用法

(へ) 各部ノ戰鬪任務

各部ノ戰鬪任務ハ即チ攻撃ノ爲ノ第一師團命令ノ基礎トナルモノナリ之ヲ決定スル爲主トシテ考慮スヘキモノハ次ノ如シ

- (1) 攻撃目標又ハ攻撃ノ爲敵陣地ヲ如何ニ配當スヘキヤ
- (2) 攻撃ノ爲ノ地域ヲ如何ニ指定スヘキヤ又指定ノ要否如何
- (3) 攻撃準備位置ニ於ケル展開區域ヲ如何ニ配當スヘキヤ

- (4) 砲兵ニハ如何ニシテ歩兵トノ協同ヲ適切ナラシムヘキヤ
- (5) 兩側ノ警戒搜索ハ如何ニスヘキヤ
- (6) 豫備隊ハ如何ニ行動セシムヘキヤ
- (7) 其他特別ニ分擔セシムヘキ事項ナキヤ

(A) 攻撃目標

第一師團ノ現況ニ由リ案スルニ已ニ部署ニ就テ研究シタル如ク各部隊ニハ左ノ如ク敵ヲ攻撃セシムルヲ至當トス

右翼隊 上、下三橋中間散兵壕(含ム)以東ノ敵

中央隊 下三橋、郡山間ノ敵

左翼隊 大職冠附近ノ敵

(B) 戰鬪地域

左翼隊ハ稍、獨立的ニシテ行動上他ニ累ヲ及ホス虞少ナキヲ以テ或ハ此地域ヲ示ササルモ可ナリ然レトモ右翼隊中央隊ニハ之ヲ示ササレハ混雜錯誤ヲ惹起スルノ慮アリ故ニ之ヲ示スヲ適當トス

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃計畫ノ研究

右翼隊 北柳生西端、横田西北方四百米ニツ池西北端、大江西端、出屋敷西端、
中央隊 西九條西端ヲ連ヌル線
左翼隊 ニモ示ストスレハ郡山—額田部道(下街道)以西ノ地區トス

戦闘地域ノ指示ニ關スル原則的説明

戦闘地域ヲ指示スルノ必要ハ實戰ノ結果敵火ニ因ル地物ノ誘惑、目標現出ノ際ニ於ケル擔任上ノ責任等ヲ明ニスル等ヨリ生シタルモノナリ
我歩兵操典ニハ第一部第九十九ニ「攻撃ニ在リテハ通常各大隊ニ聯隊ノ攻撃目標及大隊ノ戦闘地域ヲ示シ云々」トアルノミニシテ中隊、大隊及旅團ノ戰鬥法ニハ別ニ此事ヲ指示シアラス故ニ往々初學者ヲシテ誤解セシムルコトナシトセス

中隊及大隊ハ部隊小ニシテ從テ戰鬥正面ノ小ナルト平時訓練ノ方針ニ基キ其必要ナキモノト認メ聯隊ニ於テハ同一ノ攻撃目標ヲ各大隊協同シテ攻撃シ而モ戰面稍大ニテ途中ニ於ケル錯誤ハ之ヲ修正シ難キ關係ヨリ地域ヲ以テ之カ基準ヲ示シ又旅團ニアリテハ各聯隊ハ通常一方面ノ戰鬥ヲ擔任スルモノニシテ其目標ヲ異ニスルハ勿論地域ト雖相互混雜ヲ生スルノ虞ナキ範圍ノ地區ニ行動スルモノナルヲ以テ其必要ヲ認メサルモノトナセシカ如シ以上ノ事項ヲ更ニ反言スレハ攻撃目標ヲ共通トナシ之ヲ攻撃スルニ際シ諸隊ノ混雜ヲ生スル虞アルトキハ戰鬥地域ヲ示シ攻撃目標ヲ異ニシ又行動方面ヲ異ニスル等他隊トノ混雜ヲ全然惹起セスト信スルトキハ之ヲ示スノ必要ナキ意ナリト解シ得ヘシ故ニ大部隊内ニアル旅團ノ攻撃ニ於テ兩聯隊ニハ目標及展開區域ヲ示スヲ本旨トナシ要スレハ尙外ニ戰鬥地域ノ境界ヲ示スコトアルモノト解シテ可ナリ又反對ニ聯隊ニ於テモ大隊ニ之ヲ示スヲ要セサルコトアルハ歩兵操典第一部第九十九ノ意味ニテ明ナリ
戰鬥地域指示ノ要否ヲ決定スルニハ操典ノ形式ニ拘泥セス能ク精神ヲ翫味シ其應用ヲ誤ラサランコトヲ切望シ特ニ一言スル所以ナリ
師團以上ニ於ケル作戰地境ニ關スル事項ハ學年ノ進ムニ從ヒ後日之ヲ研究セン

(C) 展開地域

展開地域ノ指示法ヲ左右ノ位置迄ヲ示スカ何レカ一方ノ點及線ヲ示スカ又ハ何地附近ト示スヲ適當トナスヤハ狀況殊ニ隣接部隊トノ關係ニ依ルモノトス

本狀況ニ在リテ展開地域ハ左右兩翼隊ノ境界點ト其線ヲ示スヲ以テ足レリトセン

又左翼隊ニハ強テ之ヲ嚴密ニ示ササルモ某地附近ニ於テ攻撃ノ準備ヲナスヘキコトヲ命スレハ可ナリ

右翼隊 横田西北方約二百米標本—筒井道上三叉路附近ヲ左翼トシテ

同道ニ沿フテ展開(右翼ハ之ヲ右翼隊長ニ一任シテ可ナリ)

中央隊 前記ノ點ヲ右翼トシテ同道ニ沿ヒ展開(左翼ハ中央隊長ニ一任

シテ可ナリ)

左翼隊 小林附近ニ於テ準備

(D) 砲兵ノ任務

砲兵ニハ概略ノ位置ヲ指示シ主トシテ射撃スヘキ地域(射撃目標)ヲ命スレハ可ナリ此際砲兵ノ爲敵陣地ノ全幅ヲ示シテ射撃ヲ命スルカ如キハ無意味ナリ又主力ヲ以テ何々間一部ヲ以テ何々間ト示スモ通常ハ其必要ナキモノナリ是如此事項ハ通常砲兵隊長ノ戰術上ノ判斷ニ任シ得ヘケレハナリ又砲兵隊ハ主力ヲ以テ何隊ノ攻撃ヲ援助シ得ル如ク何地ニ陣地ヲ占領スヘシ等ト命スルモ意味廣漠ニシテ適切ナラス世間往々砲兵ト雖任務ニ從ヒ行動セシムルヲ適當トスルカ故ニ手段ニ屬スル主トシテ何地ヲ射撃云々ノ如キハ示ササルヲ可トスト唱フルモノアリ一應首肯セラルル議論ナルモ少數ノ砲兵ヲ軍隊指揮官ノ意圖ノ如ク使用スルニハ其意圖ノアル所ヲ綿密ニ示ス必要アリ從テ「主トシテ何地ヲ射撃シ云々」ハ砲兵ニ手段ヲ命シタルニアラスシテ指揮官ノ意圖ヲ綿密ニ示シ砲兵隊長ヲシテ動作ノ憑據ヲ得セシムルモノト謂フヘシ故ニ予ハ左ノ如ク示サントス

砲兵隊ハ標本横田及伊豆七條附近ニ於テ主トシテ上三橋附近ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領シ師團ノ攻撃ヲ援助スヘシ

(E) 豫備隊及騎兵隊其他

豫備隊ハ小路附近ニ位置シ後右翼隊ノ後方ニ續行但シ工兵大隊ハ砲兵ノ陣地占領ヲ援助シ且進出路ノ設備ヲナシタル後豫備隊ノ位置ニ到ラシム
 騎兵隊ハ現在地附近ニ在リテ主力ヲ以テ右側ノ一部ヲ以テ左側ノ警戒ニ任セシム
 衛生隊ハ各半部ヲ以テ六條南端及額田部北方東端附近ニ開設セシム(開設ヲ命スルコトナク第一線ノ前進ニ伴ヒ戰線ニ近ク開設セシムルモ一法ナリ)
 師團電話隊ニハ所要ノ通信設備ヲ命ス(詳細ハ後ニ研究ス)
 師團輜重ノ行動ニ關シテハ省略ス

各兵種戰鬪原則中要項ノ説明

各兵種ノ戰鬪原則ハ操典及其他ノ書籍ニ詳細ニ示シアルヲ以テ全部ニ亘リ講述スルノ必要ヲ認メサルノミナラス講授時間ノ關係モ亦之ヲ許ササルヲ以テ茲ニ諸官ノ了解困難ナルカ或ハ誤解ヲ招キ易キ事項等典令範ノ研究上特ニ注意ヲ要スル二三ノ事項ノミヲ摘講スルニ止メントス乞フ之ヲ恕セヨ

歩 兵

第一 隊形ノ選擇

散開隊形カ歩兵ノ主要ナル戰鬪制式タルコトハ歩兵操典第一部第九ニ明示セル所ナリ往昔密集隊形ヲ以テ戰鬪ヲ終始セシ場合ハ暫ク措キ輓近ニ至ル迄突撃ノ爲ニハ密集隊形ヲ以テスルヲ可トストノ論アリタリ敵火ノ効力ヲ度外ニ置キ單ニ突撃ノ威力ノミヨリ論スレハ其可ナルハ勿論ナリト雖現時火器ノ効力ノ進歩セルカ爲敵ノ有効射界内ニ於テハ既ニ密集部隊ノ露出スルコトヲ許サス況ンヤ之ヲ以テ敵ニ突撃スルコトオヤ故ニ密集隊形カ戰鬪ニ採用セラルルハ單ニ特別ノ場合例ヘハ森林内夜間濃霧ノ時等ニ限ラルヘシ
 故ニ密集隊形ハ戰鬪實行前即チ集合及運動ニノミ用ヒラル就中縱隊ニ於テ然リ然レトモ縱隊ハ指揮官ノ掌握ニ便ニシテ集結力大ナルノミナラス運動ノ爲甚便利ナルカ故ニ敵火ノ効力之ヲ許ス限リ採用スヘキモノトス地形ヲ利用シテ敵火

ノ損害ヲ減少スル爲ニ横隊縦隊何レヲ有利トスヘキヤハ一ニ利用スヘキ地區地物ノ状態ニ關スト雖一般ニ行進間ニハ縦隊ヲ有利トスル場合多シ

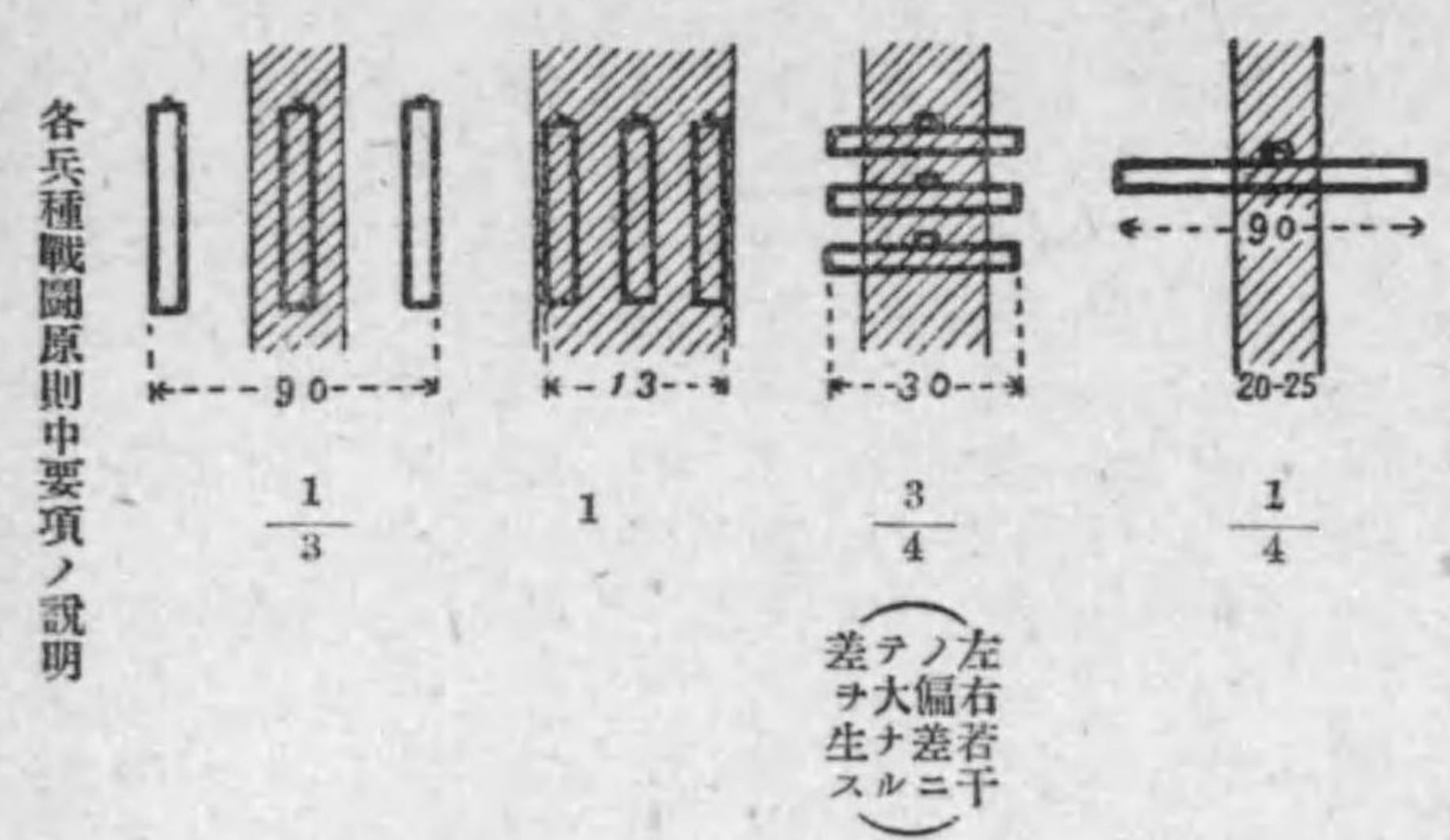
砲兵火ニ對シ損害ヲ減少スヘキ隊形選擇上ノ注意次ノ如シ
(イ) 現時各國ニ於テ採用スル野砲ノ彈丸ハ其步兵ニ對スル効力略同一ニシテ概要次ノ如シ

曳火榴霰彈ノ一彈ノ有効地帯ノ縱長ハ射距離ニ依リ大差アルモ三、四千米ニ於テ約三百米幅ハ二十乃至二十五米ト見做セハ大差ナカラシ
曳火榴霰彈ハ破裂點附近ニ於ケル威力大ナルモ破裂點ヨリ五十米ヲ距レハ其効力極メテ小ナリ

山砲ノ彈丸効力ハ略野砲ノモノニ等シキモ榴霰彈ノ有効地帯ノ縱深小ナリ野戰榴霰彈ノ活目標ニ對スル彈丸効力ハ野砲ノモノヨリモ概シテ大ナルモ榴霰彈ノ有効地帯ノ縱深ハ小ナリ

(ロ) 狹正面ニシテ縱長過度ニ大ナラサル隊形ハ砲兵ノ試射ヲ困難ナラシム故ニ側面縦隊ヲ大間隔ニ併列セシ如キ隊形ハ最有效ナリ然レトモ二千五百米

以內ニ於テハ屢不利ナルコトアリ是敵砲兵ノ試射容易ナルカ故ナリ故ニ如此場合ニ於テハ隊形ヲ變換セサルヘカラス
隊形 損害ノ比



各兵種戰闘原則中要項ノ説明

左右若干ノ偏差ニテ大ナル差ヲ生ス

(ハ) 前項ノ隊形ハ側方ヨリ砲兵火ヲ受クル場合ニハ損害大ナリ
(ニ) 試射完了後野砲一曳火榴霰彈ノ中隊ノ各種隊形ニ與ヘ得ヘキ損害ノ比ハ上圖ノ如シ
右ハ中隊カ正シク射彈ヲ被リタル場合ナリ敵砲兵カ試射ヲ完了セサル場合又ハ其後ノ射擊指揮ノ不適當ナル場合ハ勿論射擊方向ノ偏違ハ大ナル差異生ス

(ホ) 要スルニ步兵ノ隊形選擇ノ要件ハ敵砲兵カ試射ヲ終リタルヤ否ヤニ關ス敵砲兵カ試射ヲ終リタル後ニ在リテハ其有効射擊ヲ受クルモノトシテ之ヲ受クルモ損害少キ隊形ヲ選擇ス

ヘク試射未タ終ラサル間ハ試射ニ困難ナル隊形運動モ同様ナリヲ選擇スヘシ往々近距離(二千米附近以內ニ在リテハ最初ヨリ連續有効ナル射彈ヲ受クルコトアルヘシ故ニ此場合ハ敵砲兵カ試射ヲ終リタル場合ト同様ナリ以上隊形選擇ニ關シ特ニ注意スヘキハ徒ニ敵砲火ニ對スル損害ノミヲ減少セントスレハ指揮掌握ニ不便ヲ來スコトアルヘシ故ニ敵砲火ニ對スル願慮ハ適宜斟酌スヘキコト是ナリ又損害ヲ避ケンカ爲頻繁ニ隊形變換ヲ行ヘハ指揮ノ混亂ヲ來スコト明ナリ

歩兵火特ニ機關銃火ニ對シテハ砲兵火ニ對スル場合ト趣ヲ異ニス。是試射ニ關スル條件ナキヲ以テナリ故ニ疎散ナル隊形ハ損害ヲ減少スルニ適シ稠密ナル隊形ハ損害ヲ増大スルコト明ナリ然レトモ射距離ノ増加スルニ從ヒ正面狹小ニシテ縱長過大ナラサル隊形ヲ右利トスルコト多シ

歩兵火ニ對シ隊形選擇上ノ參考トナルヘキ若干ノ實驗左ノ如シ

(イ) 佛國ニ於ケル某試驗ノ結果ニ依レハ各種隊形ニ對スル命中百分數左ノ如シ(巴爾克戰術書第一卷)

隊形	射距離(米)	一四〇〇	一六〇〇	一八〇〇
小隊(一列)	四、四	三、四	二、二	一、四
三步間隔ノ散兵線	一、二	—	—	—
小隊ノ四列側面	六、六	三、八	二、二	一、三
小隊ノ橫隊	五、六	三、二	一、九	一、一
中隊縱隊	二二、〇	一八、〇	一四、〇	一〇、〇

(ハ) (ロ) 三八式歩兵銃ノ部隊射撃ノ命中効力ニ關シテハ歩兵射撃教範參照獨國ニ於ケル成績(巴爾克戰術書第一卷)千二百米ニ於ケル百分數

隊形	立姿	伏姿
中隊縱隊	一六、〇	六、五
橫隊	一一、六	二、〇
行軍縱隊	九、八	七、二
併立縱隊	三、九	二、五

各兵種戰術原則中要項ノ說明

由是觀之遠距離ノ運動間ニ於テハ併立縦隊ノ如キ隊形ヲ有利スルモ停止間
伏姿ヲ探ルトキハ縦深ノ小ナルモノヲ有利トスルカ如シ

第二 戰鬪手段

第十九世紀ノ末葉ヨリ一般兵學界ニ於テ火力崇拜熱熾盛トナリ殊ニ第二十二世紀
ノ初頭英杜戰爭ノ終結セル頃ニハ火戰ハ戰鬪ヲ終始スルモノナリトノ論者ヲ生
スルニ到レリ吾人ハ如此火力萬能主義ノ時ニ方リ而モ操典ノ「火戰ハ通常戰鬪ニ
決ヲ與フルモノニシテ突擊ハ多クノ場合敗殘ノ敵若ハ火力ニ依リテ動搖ヲ惹起
セシ敵ニ對シテ行フモノナリ」戰鬪ハ先砲兵ニ依リテ開始セラル步兵ハ我砲兵カ
敵砲兵ヲ制壓シタル後ニ前進ヲ開始ス等ノ主義ニ依リテ訓練セラレテ日露戰役
ニ遭遇セリ然ルニ劈頭我砲兵ハ敵砲兵ヲ制壓セス次テ突擊ハ敗退スヘキ敵ニ對
シテ行フモノニアラスシテ頑強ニ防守セルモノヲ擊退スル爲ニ必要ナルコトヲ
覺知スルニ至レリ爾後現行操典ノ發布セララルヤ右ニ對スル主義方針ハ明示セ

ラレタリ然ルニ此結果ハ日常看過シ難キ一現象ヲ目撃スルニ至レリ何ソヤ火力
萬能主義ニ對スル反動トシテ白兵萬能主義ノ勃興是ナリ多クノ演習ニ於テハ敵
火ノ効力ニ關係ナク暴進スルノ傾向アリ蓋間斷ナク敵ニ向ヒ前進スルヲ最良ノ
手段ナリトセル原則ヲ誤用セルモノナルヘシ如此ハ隊形ニ於テ縦隊ト散開トノ
差異アルノミニシテ全ク前々世紀以前ノ戰法ニ等シト謂フヘシ此傾向タルヤ開
戰後第一ノ戰鬪ヲ俟テ悲惨ナル經驗ニ依リ矯正セラルヘキモノニアラス史上ノ
教訓ト理論トニ照シテ平衡ヲ失セサルヘキモノナリ抑戰鬪手段ハ敵軍ノ素質其
戰鬪方式及彼我兵器等ノ關係ニ依リ變化スヘキモノナリト雖一方ニ偏スルハ大
ナル弊害アリ將官 Von Bernhardi ハ其著書現今ノ戰爭ニ於テ述ヘテ曰ク「今茲ニ
Friedrich 大王以來ノ射擊戰術ノ發達ヲ觀察セハ付度ス可ラサル精神上ノ要素ヲ
暫ク不問ニ措キ攻撃ノ結果カ二個ノ要素即チ射擊効力及突擊力ニ基因セルコト
ヲ發見スヘシ而シテ此二要素中一方ヲ犠牲ニシテ一方ノミ偏頗ノ發達ヲ見タル
場合ニ於テハ攻撃ハ屢々失敗ニ終ル徵アリ彼ノ橫隊戰術ノ淺薄ナル隊形ハ奈翁式
縦隊ノ突擊ニ對シテ一步ヲ讓リ又 Belle Alliance 附近ノ集團攻撃ハ敵軍ノ散兵火

ニ對シテ失敗ニ終リ塙國軍ノ突擊縱隊ハ普國擊針銃火ノ破ル所トナレリ然レトモ射撃力ト突撃力ト相互ニ補足シ其調和協力ヲ見タル場合ニ於テハ攻撃ノ成功ヲ認メタリ例ヘハ重複縱隊ニ於テ攻撃ヲ試ミタル普國近衛軍團ハ *Sf. Privat* ニ於テ稍、薄弱ナル敵兵ニ對シ甚大ナル犠牲ヲ拂ヒシモ遂ニ成功ヲ擧ケ又中隊縱隊ニテ戰闘セシ普國第三軍團ハ *Mars-la-Tour* 附近ニ於テ遙ニ優勢ナル敵兵ヲ蹂躪セリ予ヲ以テ之ヲ看ルニ射撃戰術ノ本性ハ斯ノ如ク射撃力ト突撃力トヲ以テ調和的ニ協同動作ヲ行フニ在リ是射撃戰術ノ法則ニシテ此法則ノ實行ヲ期スヘキコトハ戰術ノ任務ナリ此兩要素中獨リ一方ノミ發達セハ常ニ失敗ヲ見ルニ至ルヘキコトハ從來ノ歴史ニ徴シテ明白ナリ而シテ此狀況ハ今日ノ關係ニ於テモ適用スヘキモノトス』ト以テ味フ可シ

以上ノ如ク論スルモ吾人ハ火力萬能論者ニアラス只徒ニ突撃ヲ偏重セサランコトヲ望ムノミナリ步兵操典綱領ニ曰ク「步兵戰團ノ主眼ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ突撃ヲ以テ之ヲ破摧スルニ在リ」ト射撃ニ依ル制壓ト突撃ニ依ル破摧ト何レカ一ヲ缺クモ勝利ヲ得ヘキ所以ニアラサルコトヲ銘心ス可シ

第三 散兵戰ノ密度

濃密ナル散兵線ニ對スル敵火ノ損害カ稀薄ナル散兵線ニ對スルモノニ比スレハ大ナルコトハ勿論ナレトモ損害ノ百分比ハ散兵線ノ密度ニ關セス同様ナリ例ヘハ左表ノ如シ(詳細ハ步兵射撃教範參照)

目	標	射距離	射彈千發ニ對スル命中數	命中百分數	命中セサル數
間頭隔的	一〇九〇〇 ^米	八〇〇	三四	一八	一五六
間頭隔的	一九〇〇〇 ^米	八〇〇	一八	一八	八二

但シ右表ハ散兵線ノ密度ニ關係ナク敵ノ射撃力之ニ向ケラレタル場合ノ結果ニシテ散兵線カ稀薄ナル爲敵ノ注意ヲ惹クコト少ナキ場合ニハ其趣ヲ異ニス之ニ反シ彼我已ニ眞面目ノ射撃ヲ交換スルヤ稀薄ナル散兵線ト雖敵火ヲ免ルルヲ得サルヤ明ナリ果シテ然ラハ持久戰等特別ナル場合ノ外ハ必要ニ應シ濃密ナ

ル散兵線ヲ構成スルヲ有利トス何トナレハ我散兵線ノ射撃ニ依リ敵ニ與ヘ得ヘキ損害ハ概シテ散兵線ノ密度ニ比例スヘキヲ以テ濃密ナル散兵線ハ稀薄ナルモノニ比シ短時間ニ精神上及物質上ノ大ナル損害ヲ與ヘ得ヘキヲ以テナリ是常ニ敵ニ優ルノ火力ヲ發揚シ以テ火戰ニ依リ敵ヲ制壓スヘキ唯一ノ手段ニシテ步兵操典第二部第二十ニ示ス所ノモノハ實ニ此趣旨ナリ

然レトモ持久ノ意義ヲ有スル場合ニ在リテハ稀薄ナル散兵線ヲ有利トスルコト多シ何トナレハ稀薄ナル散兵線ハ同一時間内ニ受クル絶對的損害少キヲ以テ兵力ヲ逐次ニ使用シ長時間ノ戰鬪ヲ遂行スルニ適スレハナリ而シテ此場合ニ於テハ散兵線ハ火力ヲ發揚センカ爲豐富ナル彈藥ヲ要スルヲ常トス

第四 戰鬪正面及縱長區分

現今ノ戰鬪ニ於テ戰鬪正面及縱長區分考察ノ必要ナル所以ハ今更之カ解説ヲ要セサルヘシ抑此戰鬪正面及縱長區分ハ戰鬪ノ主兵トシテ戰場ニ於テ主要ノ任務ヲ負擔シ戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フヘキ步兵ニ就テ研究スルコト最必要ナリ蓋シ諸

兵連合ノ戰鬪ニ於テハ他兵種ハ此步兵ノ任務達成ヲ主眼トシテ協力スヘキモノナレハナリ

A 戰鬪正面及縱長區分ノ意義

(1) 戰鬪正面ノ意義

戰鬪正面ナル語ハ一見甚明瞭ナルカ如キモ仔細ニ研究スレハ其意義明瞭ヲ缺キ初學者ヲシテ疑惑ヲ生セシムルコトナシトセス步兵操典ニ散見スル所ニ就キ考フルモ左ノ如キ意味ヲ有スルカ如シ況ンヤ個人ノ著述ニ於テオヤ

(1) 火力保持ノ爲適當ナル正面幅ヲ意味スルモノ

詳述スレハ戰鬪ヲ始終スル爲某單位ノ占領シ得ヘキ正面幅換言スレハ某部隊カ適當ナル散兵ノ密度ヲ以テ火戰ヲ始終スル爲一般ニ認メテ正面トスル占領正面ノ幅員ヲ謂フ例ヘハ步兵操典第一部第七十九第四項ノ如シ

(2) 正面展開換言スレハ第一線ニ出シ得ル兵數ヲ意味スルモノ

某單位部隊カ次級單位部隊ヲ自己ノ正面内ニ排列シ得ル數ヲ謂フ例ヘハ步兵操典第一部第七十九第一、第二、第三項及同第二百ノ如シ

(3) 左右ノ關係位置及正面ノ方向ヲ意味スルモノ

某部隊敵ニ對シ展開スルニ方リ第一線左右ノ關係位置カ敵線ニ對シ適當ナリヤ否第一線ノ正面線カ敵ニ對シ適當ナル方向ヲ以テ交戦シ得ルヤ否ヲ意味スルモノ例ヘハ步兵操典第一部第二百二第二項ノ如シ

以上例示スル如ク戦闘正面ナル文字ハ其用所ニ隨テ其意味ヲ異ニスルヲ以テ諸官カ戰術書ヲ研究スルニ方リ前後ノ關係等ニ依リ其意味ノ何レニ在ルカヲ判定スルコト必要ナリ翻譯書又ハ古キ著書等ヲ研究スル場合ニ於テ殊ニ然リ

予カ後ニ講述スル戦闘正面ナルモノノ意味ハ主トシテ正面展開即チ第一線ニ出シ得ヘキ兵數ノ多寡ヲ謂フモノナリ

附記 戦闘正面ノ意義ヲ平易ニ解釋スレバ「戦闘實行ノ爲各部隊ノ領有スル正面」ナリ此解釋ニ依レハ右(2)ノ場合ハ戦闘正面ト縦長區分トノ關係ヲ説クモノニシテ(3)ノ場合ハ正面ノ偏移及變換ノ困難ヲ教フルニ過キスト見レハ大ナル支障ナカラシム但シ戦闘正面ハ左右兩端及方向ニ於テ定メラレタルモノタルコト勿論ナリ又單ニ「正面」ト「正面ノ強弱」トヲ混同セサルヲ要ス

(ロ) 縦長區分ノ意義

縦長區分トハ第一線ノ後方ニ於テ幾何ノ兵力ヲ如何ナル區分ニ基キ控置スルヤヲ謂フモノニシテ其部隊ノ關係位置及隊形ハ之ト密接ナル關係ヲ有ス而シテ其目的トスル處ハ主トシテ正面幅ト相待テ散兵密度ヲ適當ナラシメントスルニ在ルヤ明ナリ

附記 一般ニ豫備隊ノ目的トスル所ハ步兵操典第二部第八ノ意味ニテ明ナラン又縦長區分ノ意義ヲ平易ニ解釋スレバ「縦方向ニ於ケル兵力ノ分配」ニシテ換言スレハ縦長區分ヲ決定スルトハ第一線(廣義ニ於テ)ニ幾何ノ兵力ヲ出スヘキヤ豫備隊トシテ幾何ノ兵力ヲ控置スヘキヤヲ決定スルコトナリ

B 戦闘正面ト縦長區分トノ交互作用

現今ノ戦闘ハ火戦ヲ以テ主要ナル戦闘手段トナスカ故ニ戦闘ノ當初ヨリ多數ノ兵力ヲ第一線ニ排列シ以テ兵力ノ優勢ヲ占ムルコト極メテ必要ナリ單ニ此點ヨリ論スレハ縦長區分ナルモノハ餘リ必要ナラサルカ如シ然レトモ戦闘ハ通常至短時間ニ始終スルモノニアラサルヲ以テ戦闘初期ヨリ過早ニ第一線ノ兵力ヲ増

大シ戰面ヲ擴張スル時ハ軍隊ノ掌握ニ困難ナルノミナラス我動作ノ自由ヲ失フ又戰鬪間ニ於ケル損害ノ補充戰況ノ變遷ニ應スル臨機ノ處置ヲ爲シ得サルハ實驗ノ證明スル所ナリ

由是觀之戰鬪ニハ戰鬪正面ニ重ヲ置クヘキ時期ト縱長區分ニ重ヲ置クヘキ時期ト存スルコトヲ推知シ得ヘシ此兩者ノ節調其宜ヲ得ルハ一ニ指揮官其人ノ眼識ニ待タサルヘカラス之ニ關シ我步兵操典第二部第八ハ指揮官ノ爲必要ナル準繩ヲ教示スルモノナリ今少シク之ヲ敷衍シテ諸官ノ參考ニ供セントス

C 戰鬪正面及縱長區分決定上願慮スヘキ要件

戰鬪正面ト縱長區分トノ交互作用ヲ適當ナラシムル爲願慮スヘキ要件概ネ左ノ如シ

- (イ) 狀況ノ明不明
- (ロ) 戰鬪目的(任務)及其時機
- (ハ) 地形
- (ニ) 獨立及併立

- (ホ) 兵力ノ大小
- (ヘ) 敵情(狀態)

(イ) 狀況ノ明不明

狀況不明ナル時ハ戰況ノ變遷ニ適應スル準備ヲ充分ナラシメ兼テ我行動ノ自由ヲ保持スル爲縱長區分ニ重ヲ置カサルヘカラス

戰鬪初期ハ通常狀況不明ニシテ將來ノ戰況ヲ豫察シ得サルカ故ニ縱長區分ニ重ヲ置クヲ一般トス是步兵操典ノ各所ニ戰鬪初期ニ於テ第一線ノ兵力ヲ節約スヘキコトヲ教示スル所以ナリ

之ニ反シ狀況明瞭ナルトキハ戰鬪ノ當初ヨリ成ルヘク多數ノ兵力ヲ第一線ニ排列シテ常ニ優勢ナル火力ヲ以テ交戦スルヲ有利トス步兵操典ニ所要ニ充タサル兵力ヲ逐次増加スルノ不利ヲ戒メアルハ半面ニ於テ正面展開ト縱長區分トノ交互作用ニ關シ指揮官ノ注意ヲ促スモノナリ而シテ狀況明瞭ナル場合ノ縱長區分ハ主トシテ火力ノ維持ト決戦トニ必要ナル兵力ヲ控置スルヲ以テ足レリトス

(ロ) 戰鬪ノ目的(任務)及其時機

- (1) 決勝攻撃ニ在リテハ一度攻撃點ヲ決定セハ之ニ對シ防者ニ優ル兵力數上ノ兵ノ意ニアラズ戰鬪上ヲ第一線ニ使用セサルヘカラス
- (2) 決戦防禦ニ在リテモ火力ノ熾盛ヲ期スル爲第一線ノ兵力ヲ増大スルノ必要ナルハ勿論ナリト雖元來防禦ハ如何ナル手段ヲ以テスルモ某程度迄ハ受働的ノモノニシテ側方ニ於ケル危險發生ノ有無等ヲ豫察スルコト困難ナリ故ニ比較的大ナル兵力ヲ控置セサルヘカラサルコト多シ縱令第一線ニ多數ノ兵力ヲ排列スル場合ニ於テモ其時機ハ攻者ニ比シ遲キヲ通常トス是地形ノ利用人工ノ施設等ニ依リ控置シ得タル兵力ヲ攻者ニ先ンシテ適當ナル時機ニ適當ナル位置ニ展開シ以テ受働的戰鬪ヲ一轉シテ加働的ニ導クコトハ通常困難ナルカ爲ナリ攻勢防禦カ理論上有利ナルニ拘ラス實際成效セル例ノ少ナキモ亦之ニ基因ス此點ニ關スル防禦戰鬪ノ指導ニ就テハ切ニ諸官ノ練磨ヲ望ム
- (3) 長時間ノ餘裕ヲ得ントスル持久防禦例ヘハ優勢ナル敵ニ對シ固定物ノ掩護又ハ一地ヲ占領シテ長時間敵ヲ拒止シ後續兵團ノ來著ヲ待タントスルカ如キ場合ノ戰鬪ニ在リテハ控置兵ヲ大ニシ敵狀ノ變化ニ應シ逐次其兵力ヲ第一線

ニ展開ス

- (4) 短時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦例ヘハ短時間敵ヲ拒止セントスル警戒線或ハ收容隊等ノ戰鬪ニ在リテハ最初ヨリ第一線ニ多數ノ兵力ヲ配置スルヲ有利トスル場合多シ
 (附言) 持久戰ニ於テモ指揮官爾後ノ決心ニ基キ更ニ軍隊ヲ區分セントスルトキハ後方ニ多クノ兵力ヲ控置スヘキハ言ヲ待タス步兵操典第二部第九十二參照
- 此際ハ刻下ニ於ケル戰鬪目的ノ爲後方ニ兵力ヲ控置スルニアラスシテ爾後ノ行動ヲ豫察シ次ノ決心ヲ實行スルノ準備ナルコトニ著意セサルヘカラス但シ此場合ト雖刻下ノ戰鬪ニ支障ヲ生セサル範圍ニ於テ後方ニ兵力ヲ控置スヘキモノナルハ勿論ナリトス後ニ述フル戰鬪ヲ交ヘツツ退却スル場合ノ如キ其一例ナリ
- (5) 追撃戰ハ我ニ最有利ナル攻撃戰ノ一種トモ看做スヘキモノニシテ全般ノ狀況我軍ニ有利ニシテ損害ノ補充戰況ノ變遷ニ應スル願慮少ナク一意敗走スル

敵ニ對シ多大ノ損害ヲ與ヘ成シ得レハ之ヲ殲滅スルヲ以テ主眼トス故ニ初ヨリ第一線ニ多數ノ兵力ヲ用フルヲ有利トス

(6) 戰鬪ヲ交ヘツツ退却スル場合往々退却戰鬪ト稱スル學者アリニ於テハ狀況ノ許ス限リ常ニ後方ニ大ナル兵力ヲ集結セサルヘカラサルノミナラス第一線ノ退却動作ヲ容易ナラシムル爲ニモ第一線ノ兵力ハ成シ得ル限リ小ナルヲ有利トス

附言

茲ニ注意スヘキハ退却行ニ於ケル後衛ノ戰鬪法ナリ元來後衛戰ハ陣中要務令第二百二十九、同第三百三十一ニ示ス如ク諸種ノ場合アリ

- (I) 目的ノ達成上眞ノ戰鬪ヲ爲サス且歩兵ヲシテ戰鬪ニ全ク參與セシメサルカ或ハ參與セシムルモ至短時間ニテ可ナル場合換言スレハ短時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦
- (II) 非常ノ時機ニ際シ柔軟ノ抵抗ヲ爲ス場合換言スレハ一定地ニ於テ長時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦時トシテ自ラ犠牲トナリ逆襲スルコトアルハ勿論ナリ

(山) 後衛ノ兵力本隊トノ距離及地形等ニ依リ後衛自身交戦シツツ退却スル場合即チ所謂退却戰

等はナリ故ニ後衛戰鬪ニ於ケル戰鬪正面ト縦長區分トノ關係ハ一ニ其戰鬪目的ニ從ヒ前述ノ要旨ニ準據シテ決定スルヲ要ス諸警戒隊支隊等ニ在リテモ亦然リ

(7) 戰鬪ノ時機ニ關シテ云ヘハ決戰ノ機近クニ從ヒ戰鬪正面ヲ大ニシ之ニ反スル時ハ縦長區分ヲ大ニス

(ハ) 地形

展望自在ニシテ狀況ノ看破容易ナル時ハ戰鬪正面ヲ大ニス地形上側方ノ顧慮少キ時モ亦然リ否ラサルトキハ縦長區分ヲ大ニス附記本項ノ戰鬪正面ナル語ハ全第一線ニ於ケル兵力ノ義ナリ

(ニ) 獨立及併立

獨立シテ戰鬪スル場合ニ於テハ單獨ニテ戰況ノ變遷ニ應シ自ラ第一線ヲ補充シツツ戰鬪ヲ終結シ且側方ノ警戒ヲ擔任スルカ故ニ戰鬪ノ初期狀況ノ不明ナル間ハ第一線ニ多クノ兵力ヲ使用スルコト能ハス然レトモ戰鬪ノ終期ニ在リテハ他

隊ノ爲展開地域ヲ制限セラルル事ナキヲ以テ戰鬪正面ヲ擴張スルヲ得
併立ノ場合ニハ全ク之ニ反ス

本項ノ要旨ハ側方ニ於ケル地形上ノ依托物ノ有無ニ關シテモ亦同様ナリ

(ホ) 兵力ノ大小

兵力大ナルトキハ大ナルニ從ヒ縱長區分ヲ大ナラシムルヲ一般トス是大部隊ノ
戰鬪經過ハ其時間長ク從テ戰線ノ補充ニ要スル兵力大ニシテ且戰況ノ變遷モ甚
シカルヘク尙正面大ナルヲ以テ各局部ニ於テ生スヘキ戰況ノ變化モ從テ多カル
ヘキハ勿論翼側ニ對スル顧慮モ亦其規模大ナレハナリ然レトモ兵力ノ大小ニヨ
リ生スル主要ナル差異ハ戰鬪正面ト縱長區分トノ交互作用ヨリモ寧ロ縱長ニ於
ケル區分ノ數各部ノ目的及其位置等ニ於テ更ニ大ナルモノアリ

(ハ) 敵情(狀態)

敵情殊ニ敵ノ正面幅及其方向又ハ敵兵ノ素質等ニ依リ或ハ一翼包圍ノ爲若ハ中
央突破ヲ行フ爲所要ノ區分ヲ行ヒ或ハ全ク出撃ノ顧慮ナキ爲僅少ノ兵力ヲ以テ
一方面ニ對セシメ主力ヲ以テ他方面ニ主攻撃ヲ實行セント欲シ特殊ノ區分法ヲ

採用スル等敵情ノ如何ニヨリ戰鬪正面縱長區分ニ變化ヲ及スヘキハ勿論ナリト
ス

D 各單位ノ戰鬪正面(擔任シ得ヘキ正面幅ヲ云フ)

(イ) 中隊

中隊戰鬪正面ノ決定ハ步兵操典第一部第百十、第百十一ノ主旨ニ基クモノニシテ
中隊獨立シテ戰鬪スル場合ト大隊内ニ在リテ戰鬪スル場合トニ於テ差異アリト
雖要ハ火力ノ發揚ト之カ維持トヲ以テ主要ノ條件トナス之カ爲實驗上決戰ヲ企
圖スル攻撃正面ニ於テ一中隊ノ擔任正面幅ハ百五十米即チ二百步ヲ適當トス(步
兵操典第一部第百七十九參照)但シ決戰ヲ企圖セサル場合ノ正面幅ニ關シテハ步
兵操典同條ニ別ニ示ス所アリ

(ロ) 大隊

步兵操典第一部第百七十九第三項ノ主旨ヲ翫味セハ特別ノ場合ヲ除ク外決勝ヲ
企圖スル攻撃正面ニ於ケル大隊ノ戰鬪正面ハ三中隊面即チ四百五十米ヲ以テ最
大限トナスヲ得ヘシ

(ハ) 聯隊

中隊及大隊ハ必要ニ應シ他隊ヨリ援助ヲ受クルコトヲ得此等ノ隊長トシテハ縱令如何ナル苦境ニ際シテモ決シテ他隊ノ援助ヲ期待セス自己獨力ヲ以テ任務ヲ遂行スルノ意氣アルヲ要スト雖然レトモ聯隊ハ教育ノ統一將校團ノ團結編制及歴史ニ基キ獨立シテ一方面ノ戰鬥任務ヲ遂行シ決シテ他隊ノ援助ヲ期待スヘカラス(步兵操典第一部第九十五從テ其戰鬥正面モ亦中隊大隊ノモノト趣ヲ異ニス則チ一方面ノ戰鬥任務ヲ獨立シテ遂行スヘキ聯隊ハ最後ノ時期迄若干ノ部隊ヲ聯隊長ノ手裡ニ貯ヘ步兵操典第一部第二三參照狀況ニ應シ有利ニ戰鬥ヲ始終セサルヘカラス而シテ大隊ハ戰場ニ於ケル一部ノ任務步兵操典第一部第六十七參照ヲ遂行シ得ルニ過サルヲ以テ戰鬥法決定上聯隊ノ第一線ハ一大隊ノミニテハ自然其兵力過小ナリ故ニ許多ノ場合ニ於テ二大隊ヲ第一線トスヘク從テ聯隊ノ戰鬥正面ハ約九百米ト見ルヲ得ヘシ

(ニ) 旅團

兩聯隊ヲ併立シテ使用スルハ旅團戰鬥法ノ原則ナリト雖之ヲ以テ直ニ戰鬥正面

ハ聯隊ノ二倍ト速斷スルヲ得ス先ニ述ヘタル如ク兵力ノ大ナルニ從ヒ戰鬥耐久力ノ大ナルヲ要スルノミナラス旅團ニ在リテハ單ニ當面ノ戰鬥ヲ始終スル以外ニ他ノ部署ヲ要スルコト多キヲ以テナリ本邦操典ニハ別ニ規定ナキモ獨逸操典ニハ千五百米トアルヲ參照シ過去實戰ノ結果ニ鑑ミ千二百米乃至千五百米(聯隊ノ約一倍半ニ相等ス)ヲ以テ適當ナル擔任正面トセン

(ホ) 師團

師團ノ戰鬥正面ヲ步兵ノ部ニ於テ研究スルハ當ヲ得サルヘキモ便宜上左ニ述フ大部隊ノ戰鬥正面ヲ戰史ニ徵スレハ次ノ如シ(巴爾克戰術書ニ據ル)

戰 團	攻 擊 正 面 一 米 ノ 銃 數	防 禦 正 面 一 米 ノ 銃 數
Wörth	一〇七	七〇
Spicheren		四〇
Gravelotte	七〇	一一〇
Coulmiers	獨 佛 戰 役	一八
Hallue	七〇	一一〇

各兵種戰鬥原則中要項ノ說明

遼陽

三、九

五、九

沙河

(日) 三、〇

(露) 五、〇

奉天

二、六

三、四

但シ右ハ決戦正面ノミニ就テ計算シタルモノニアラス

巴爾克ハ其戦術書ニ於テ戦闘正面ニ關スル要點ヲ次ノ如ク述フ

- (1) 各部隊ノ戦闘正面ニ關シテハ一定ノ標準ヲ與フルコトヲ得ス戦闘目的及狀況ニ依リ變化ス
 - (2) 地形有利ニシテ掩護物存在シ且防禦工事ヲ實施セル場合ニ於テハ寡少ノ兵力ヲ以テ大ナル正面ヲ頑強ニ防守スルヲ得
 - (3) 正面ハ兵力ニ比例シテ増加スルコトナシ
 - (4) 團結内ニ於テ戦闘スル部隊ハ獨立シテ戦闘スルモノニ比スレハ強大ナル正面展開ヲ行フヲ得
- 兵力及單位ノ増加スルニ從ヒ縱長配備ノ需要モ亦増加ス狭正面ト廣正面トノ

何レヲ適當トスヘキヤハ單ニ成功ニ由リテ決定スルアルノミ指揮官ハ戦線ノ諸部分ニ於テハ微弱ナル配備ヲ以テ満足シ以テ他ノ點ニ於テ全兵力ヲ擧ケテ決戦センコトヲ勉ムルナラン

蓋シ適切ナル觀察ナリ

之ヲ要スルニ戦史ニ鑑ミ理論ニ照スニ決勝正面ニ於ケル一師團ノ戦闘正面ハ概略三千乃至四千米トセハ大過ナカラン

E 縱長區分ノ研究事項

縱長區分ニ就テ主要ナル研究事項左ノ如シ

- (イ) 區分ノ數及各部ノ目的
- (ロ) 各部ノ兵力
- (ハ) 各部ノ位置
- (ニ) 各部ノ隊形

(イ) 區分ノ數及各部ノ目的

獨立シテ戦闘ニ任スル部隊ハ通常三部ニ區分セララルモノナリ其任務ハ次ノ如

シ

第一線 戦闘開始ニ任シ次テ第二線ト協力シ戦闘ヲ實行ス

第二線 第一線ヲ援助シ戦闘ヲ實行ス

第三線 決戦ヲ有利ニ指導シ又不時ノ事變ニ應ス

(ロ) 各部ノ兵力

第一線ハ當初即チ多クハ狀況不明ノ際ヨリ戦闘ニ從事スルモノナリ此等ノ部隊ハ成シ得ル限リ兵力ヲ節約スヘキハ歩兵操典ノ所々ニ散見スル所ナリ狀況不明ノ度大ナルニ從ヒ益然リ然レトモ所要ニ充タサル兵力ヲ逐次ニ使用スルハ操典ノ嚴禁スル所ナリ宜シク節約ト逐次使用トノ分界ヲ誤ラサルヲ要ス

第二線ハ第一線ノ損害ヲ補充シ之ヲ推進スルニ使用スルモノナレハ之ニ適應スル兵力ヲ控置シアルヲ要ス

第三線ハ成ル可ク兵力ノ大ナルヲ希望スト雖第一第二線ニ必要ナルニ拘ラス其兵力ヲ減シテ以テ第三線ヲ大ニスルハ一般ノ場合ニ於テ不合理ト謂フヘシ

(ハ) 各部ノ位置

位置ハ主トシテ使用ノ目的、時機、地形ニ依リ決定スヘキモノニシテ爾他ノ關係之ヲ許ストキハ敵火ノ損害ヲ受ケサルコトニ顧慮スルコト緊要ナリ

第一線即チ戦闘開始部隊ノ位置ニ關シテハ其範圍廣キヲ以テ茲ニ論述ノ限ニアラス第二線ノ位置ハ適時第一線ヲ援助シ得ルヲ要件トス之カ爲概シテ歩兵操典第一部第百八十三大隊豫備隊ノ位置ニ準スルヲ要ス依托セサル翼アルトキハ通常其翼後ニ位置スルモノトス

第三線ノ位置ニ關シ主要ナル事項ヲ掲クレハ次ノ如シ

- (1) 決戦ノ目的ヲ有スルトキハ決戦ヲ豫期スル方面ニ置クヘシ
稀ニ決戦ニ於テモ狀況不明ナルトキ又ハ兩翼ノ顧慮相等シキトキハ最初之ヲ中央後ニ置クヲ可トスルコトアリ
- (2) 持久戦ニ於テハ全ク之ヲ使用セントスル目的ニ關シ其位置ヲ定ム
- (3) 一般ニ使用セント欲スル方向ニ對シ交通便利ナル位置ヲ選フヘシ特ニ地形上豫備隊ノ運動困難ナルトキハ豫備隊ヲ二個所若ハ其以上ニ分置スルコトアリ

- (4) 最初第一線ノ正面僅少ナルトキハ爾後ノ正面擴張ヲ顧慮シ且動作ノ自由ヲ得ル爲遠ク翼側後ニ位置セシム兵力ノ大ナルニ從ヒ益然リ
- (5) 決戦ノ時機切迫スルニ從ヒ第一線ニ近ク之ニ反スル間ハ遠ク位置セシム
- (6) 地形開濶ナレハ遠ク蔭蔽ナレハ近ク位置セシム
- (7) 後方部隊ト第一線前方部隊トノ距離ハ戰鬪目的ニ從ヒ機ヲ失スルコトナク之ヲ使用シ得ルヲ主眼トシ次ニ敵火ノ損害ヲ滅殺スルコトヲ顧慮スヘキモノトス(敵火ノ損害ヲ減少スル爲ニハ既ニ一般隊形ノ部ニ於テ述ヘタル事項ヲ參照スヘシ)

(二) 隊形

各線ノ採ルヘキ隊形ニ就テハ既ニ一般ニ述ヘタルヲ以テ之ヲ省略ス

F 各單位ノ縦長區分

中隊、大隊及聯隊ニ於ケル區分ハ操典ニ明示シアルヲ以テ之ヲ贅セス
旅團豫備ニ關シテハ往々疑問ヲ有スル者ナキニアラサルヲ以テ之ヲ略說セントス抑、旅團ハ兩聯隊ヲ併立シテ使用スルヲ本則トナシ一方面ニ於ケル戰鬪遂行ハ

之ヲ聯隊長ニ一任ス(步兵操典第一部第二百十參照)故ニ併立シテ兩聯隊ニ戰鬪任務ヲ課シタル後ニ於テ旅團長ハ單ニ之ヲ監視督勵スヘキヤ或ハ責任上戰鬪指導ノ爲若干ノ豫備隊ヲ控置スヘキヤハ全ク狀況ニ關スルモノナリ(步兵操典第一部第二百十一參照)換言スレハ旅團ニ於テ豫備ヲ要スルヤ否ヤハ前述第三線ノ目的ヲ翫味スレハ自ラ釋然タルヘシ旅團カ他隊ノ中間ニ在リテ戰鬪スルニ方リ師團ニ大ナル豫備隊アリ而モ其豫備隊ハ該旅團ノ後方ニ控置セララルル如キ場合ニ在リテハ旅團長ハ全ク豫備隊ヲ要セサルカ之ヲ控置ストスルモ極メテ僅少ニテ可ナラン

騎兵

第一隊形

騎兵ノ隊形ハ戰鬪(騎兵ニ對スル乘馬戰ヲ主トス)ニ於テ特別ノ價值ヲ有スルモノ

ナリ蓋シ隊形ノ適否ハ戦闘ノ勝敗ニ大ナル關係ヲ有スルノミナラス騎兵戦闘ノ勝敗ニ關係スヘキ要素ハ概シテ先天的ノモノナルカ故ニ指揮官カ侍ンテ以テ敵ニ勝タントスル所ハ自己ノ天稟ト隊形ノ運用トノミニ存スルカ故ナリ

- (イ) 騎兵ノ隊形ハ其性質上之ヲ三種ニ分ツコトヲ得即左ノ如シ
- (イ) 極メテ硬固ニシテ正面ノミニ對スル威力ヲ有スルモノ
- (ロ) 屈伸自在ナルモ正面ニ對スル威力前者ニ及ハサルモノ
- (ハ) 前二者ノ中間ニ位スルモノ

(イ)ニ屬スルモノハ横隊及散開隊形ニシテ正面ニ對スル速度ノ増加及戦闘力大ナルコト他ノ隊形ノ比スヘキ所ニアラサルモ其他ノ點ニ關シテハ全然不利ナリ故ニ單ニ襲撃ニノミ用ヒラル而モ方向並正面ノ偏移ヲ必要トセサルニ至リテ始メテ用フルヲ得ヘシ

(ロ)ニ屬スルモノハ中隊縦隊併立縦隊聯隊縦隊等ニシテ其性質上巧妙ナル運動ニ適當スルモ戦闘ノ爲ニハ全ク不適當ナリ故ニ戦闘隊形ニ移ルニ必要ナル餘裕充分ナル場合ノ運動ニ用ヒラル旅團以上ノ大部隊ニ在リテハ戦闘隊形ニ移ルニ要

スル時間特ニ大ナルヲ以テ例ヘハ旅團縦隊ノ如キハ尙敵ニ遠キ場合ニアラサレハ用ユルコト能ハス旅團ノ戰場ニ於ケル機動ノ隊形ハ重複縦隊アルノミナリ從テ旅團縦隊ハ行軍隊形ヨリ重複縦隊ニ移ル準備隊形ニ過キス

(ハ)ニ屬スルモノハ例ヘハ集團横隊縦隊横隊ノ如キモノニシテ其性質ハ指揮掌握ニ便ナルモノアリ横隊ヘノ展開ニ便ナルモノアリ概シテ集合ニ用ヒラルモノ及戦闘隊形ニ移ル直前ノ運動並敵火ノ下ニ於ケル運動等ニ用ヒラルモノトス

第二 運動

A. 歩 度

襲撃ニ於テハ衝突力ノ大ナルコトヲ要求ス衝突力ハ衝突時ニ於ケル活力及物體ノ強度ニ關スルコトハ自然ノ法則ナリ而シテ衝突時ノ活力ハ速度ノ自乗ニ比例スルハ力學上ノ原則ナリ故ニ襲撃ノ威力ハ速度及部隊ノ團結ニ關ス然ルニ速度ハ衝突時ニ於テ大ナルヲ要件トシ其前後ノ速度ハ何等衝突力ニ關スルコトナキヲ以テ換言スレハ衝突時前ハ常歩ニテモ可ナリト雖速度ノ増加ハ漸進的ナル

ヲ自然トシ急激ニ行フコトハ困難ナルカ故ニ駈歩ヨリ漸次歩度ヲ伸ハシツ、終ニ最高速度ニ達シ得ル如ク軍隊ノ現狀ヲ顧慮シテ規正スヘキモノトス又襲歩ニ於テハ整頓ハ困難ナルヲ以テ過度ニ長ク之ヲ持續スレハ隊伍ノ混亂ヲ免レス三好騎兵中佐著騎兵戰術ニ據レハ五六十米ヲ超ヘサルヲ可トスト

又敵ノ歩兵砲兵等ヲ襲撃スルニ際シ火力ノ損害ヲ避ケンカ爲ニハ遠距離ヨリ駈歩ヲ取ルヲ必要トス參考ノ爲之ニ關スル將官「ホニー」ノ説ヲ掲クレハ次ノ如シ

總距離(米)	駈歩	襲歩
一五〇〇	八〇〇	七〇〇
二〇〇〇	一五〇〇	五〇〇
二五〇〇	二二〇〇	三〇〇
三〇〇〇	二九四〇	六〇
一〇〇〇以下	在リテハ最初ヨリ襲歩ヲ取ルヲ得三五〇〇ノ場合ニハ	
二〇〇〇	駈歩一五〇〇	伸暢駈歩トシ五〇〇〇ノ場合ニハ駈歩ノミトス

歩度ノ適用ニ關シ一般ニ守ルヘキ通則左ノ如シ

- (イ) 歩度ノ適用ハ狀況ニ適合セサルヘカラス例ヘハ敵ヲ奇襲スル場合或ハ敵情ニ應シ好機ニ投セントスル場合ノ如キハ速ニ迅速ナル歩度ヲ取り又敵火ノ下ヲ通過スル時ハ迅速ナル歩度ヲ取り地形困難ナルトキハ遅キ歩度ヲ取ルカ如シ
- (ロ) 普通ノ場合ニハ成ルヘク長ク速歩之ヲモ必要トセサルトキハ常歩ヲ取り駈歩、伸暢駈歩及襲歩ハ前述セル衝突時ノ最高速度ヲ得ルヲ程度トシテ之ヲ採用スヘシ

B 隊形變換

隊形ノ運用ニ關シテハ前述各隊形ノ性質ヲ顧慮シ硬固ナル隊形ニ移ルハ戰鬥ノ爲必要ナラサル限り成ルヘク遅キヲ可トス然レトモ隊形變換後直ニ歩度ヲ増加スルコトハ勉メテ之ヲ避ケサルヘカラス是隊伍ノ整頓ヲ害スレハナリ主ナル隊形變換ニ要スル時間及地域ハ概略左表ノ如シ(三好騎兵中佐著騎兵戰術ヨリ拔萃)

備考	問歩距	問歩速	問歩常	度		隊形
				時間	地域	
隊形變換ニ要スル地域トハ此間ニ基準部隊(伍)ノ運動スル距離ヲ云フ	57''	1'27''	2'45''	問時	隊形	四伍縱隊
	100m	149m	279m	地域	隊形	聯隊縱隊
	23''	35''	1'06''	問時	隊形	聯隊縱隊
	48m	67m	116m	地域	隊形	重復縱隊
	32''	49''	1'35''	問時	隊形	聯隊縱隊
	63m	90m	169m	地域	隊形	集團橫隊
	23''	30''	1'00''	問時	隊形	集團橫隊
	75m	89m	126m	地域	隊形	縱隊橫隊
	21''	23''	24''	問時	隊形	縱隊橫隊
	105m	79m	46m	地域	隊形	ヨリヨリ
	26''	38''	1'09''	問時	隊形	集團橫隊
	79m	96m	140m	地域	隊形	ヨリヨリ
	30''	45''	1'36''	問時	隊形	重復縱隊
	59m	84m	149m	地域	隊形	ヨリヨリ
	1'04''	1'34''	3'18''	換變向方度五十四ノ隊橫		

聯隊ノ隊形變換並運動ニ要スル時間及地域

備考	幅仲歩距	問歩速	問歩速	問歩速	問歩速	問歩常	度		區分
							時間	地域	
隊形變換ニ要スル地域トハ此間ニ基準部隊(伍)ノ運動スル距離ヲ云フ	4''		5''			11''	問時	度	九十度回旋
	19m		19m			19m	離距	進行	外翼同上
	7''		11''			23''	問時	度	百八十八度回旋
	38m		38m			38m	離距	進行	外翼同上
	9''	12''		18''		38''	問時	換變	方隊縱隊中
	63m	63m		63m		36m	離距	進行	ノ長隊小準基同上
	13''	18''		26''		55''	問時	換變	方ノ隊橫
	91m	91m		91m		91m	離距	進行	ノ長隊小準基同上
	13''	20''	20''	20''	20''	37''	(問時)	隊橫左	ヨリヨリ隊縱伍四
	22''	33''	33''	33''	1'03''	問時	隊形	縱伍四	
	40m	59m	59m	59m	107m	地域	隊形	橫面前	
	24''	35''	35''	35''	1'07''	問時	開排	側一	同上
	44m	63m	63m	63m	115m	地域	開排	側一	同上
	13''	20''	20''	20''	37''	(問時)	隊縱隊中	ヨリヨリ隊縱伍四	
	20''	20''	37''	14''	43''	(問時)	隊縱伍四	ヨリヨリ隊縱隊中	
	15''	23''	23''	23''	44''	(問時)	隊縱立併	ヨリヨリ隊縱伍四	
	22''		24''	14''	2''	問時	隊形	縱隊中	
	115m		86m	31m	49m	地域	隊形	橫ヨリヨリ	
	28''		30''	17''	31''	問時	隊形	縱隊中	
	144m		107m	36m	59m	地域	隊形	橫面前(右)左	
4''		6''	6''	12''	問時	隊形	縱立併		
12m		15m	15m	23m	地域	隊形	橫ヨリヨリ		

中隊ノ隊形變換並運動ニ要スル時間及地域

旅團ノ隊形變換並運動ニ要スル時間及地域

備考	問歩駈	問歩速	問歩常	度		隊形
				間時	地域	
隊形變換ニ要スル地域トハ此間ニ基準部隊(伍)ノ運動スル距離ヲ云フ	2'05''	3'11''	6'05''	間時	リ	ヨ 隊 縱 伍 四
	214 ^m	323 ^m	611 ^m	地域	隊	縱 團 旅
	45''	1'08''	2'09''	間時	リ	ヨ 隊 縱 團 旅
	84 ^m	122 ^m	222 ^m	地域	隊	縱 覆 重
	1'00''	1'32''	2'57''	間時	リ	ヨ 隊 縱 團 旅
	110 ^m	161 ^m	305 ^m	地域	隊	縱 團 集
	39''	58''	1'46''	間時	リ	ヨ 隊 縱 團 集
	101 ^m	129 ^m	202 ^m	地域	隊	橫 團 集
	32''	48''	1'27''	間時	リ	ヨ 隊 橫 團 集
	90 ^m	112 ^m	170 ^m	地域	隊	橫 隊 縱
	1'10''	1'47''	3'22'	間時	隊	縱 覆 重
	125 ^m	186 ^m	344 ^m	地域	隊	橫 ヲ

第三 乘馬戰

乘馬戰ノ要領ハ騎兵操典第二部第二章ニ記述スル所ナルモ尙細部ニ於テ若干注意スヘキ件ヲ述フ

乘馬戰奏功ノ要件

(イ) 軍隊ノ精練殊ニ指揮官ノ卓越ナルヘキコト

凡軍隊ノ精練ヲ必要トスルコトハ騎兵ノミニ限ラス諸兵種皆然ラサルハナシ而シテ指揮官ノ能力ノ卓越ヲ要スルコトハ特ニ騎兵ニ於テ大ナリ蓋戰鬪經過ハ迅速ニシテ如何ナル大集團モ指揮官直接之ヲ掌握シテ一氣輸贏ヲ決スルコト騎兵戰ノ如キモノナク又以下逐次述フヘキ乘馬戰奏功ノ要件ハ殆ト指揮官ノ手腕ニ待ツ所ノモノニシテ實ニ乘馬戰ノ功ヲ奏スルヤ否ヤハ一ニ指揮官ノ双肩ニ懸ルカ故ナリ指揮官ハ須ク果斷ニシテ周密ナルヲ要ス何トナレハ決心ハ迅速ナルヲ要シ而シテ一旦決行セラレタル處置ハ戰鬪經過迅速ナルカ爲補綴修正ノ餘裕ヲ存セサレハナリ

各兵種戰鬪原則中要項ノ說明

(ロ) 好機ニ投スルコト殊ニ敵ノ不意ニ出ツルコト

凡ソ攻撃ノ好機ニ投スルヲ必要トスルコトハ通則ニシテ其利益ハ特ニ説述ヲ要セス而シテ騎兵ハ特ニ其性能上至短時間ニ經過スヘキ好機ト雖之ヲ捉ヘテ乘シ得ルモノナルカ故ニ銳利ナル觀察ヲ以テ好機ヲ捕捉シ之ヲ逸セサルヲ要ス而シテ敵ノ不意ハ最良ノ好機ナリ

(ハ) 機先ヲ制スルコト

機先ヲ制スルコトノ必要ナルハ騎兵操典綱領第五及第二部第六ニ説ク所ノ如シ

(ニ) 地形ノ利用

地形ハ之ヲ適當ニ利用スレハ或ハ我企圖ヲ秘匿シ或ハ敵火ノ損害ヲ減殺シ或ハ敵ノ企圖若ハ運動ヲ制限スル等襲撃ノ威力ヲ増大スルノ利甚多シ

(ホ) 攻撃點及攻撃方向攻撃點ニ至ル経路ノ適切ナル選擇

一般原則ニシテ特ニ説明ノ必要ヲ認メス其選定上ノ要項モ一般原則ヲ翫味適用スルヲ以テ足レリトス

(ヘ) 配備ノ適當ナルコト

是亦一般ノ原則ニシテ別ニ説明ノ必要ヲ認メス但シ騎兵戦闘ニ於ケル部署ハ巧妙ト複雑トヲ避ケ實行ノ簡易ト確實トヲ主トスルヲ要ス(騎兵操典第二部第八)其他ニ關シテハ後日騎兵戦闘研究ノ際ニ讓ル

(ト) 衝突時ニ於ケル威力ノ發揚

之ニ關シテハ既ニ隊形ノ部及歩兵ノ部ニ於テ概説セルヲ以テ略ス
以上諸要件中特ニ重要ナルハ指揮ノ卓越好機ニ投スルコト及先制是ナリ要スルニ乘馬戰必勝ノ要訣ハ地形ヲ利用シテ成ルヘク敵眼敵火ヲ避ケツツ敵ニ近接シ衝突時ニ於テ有利ナル有形的行動ト共ニ無形的威壓ヲ敵ニ加ヘ以テ其抵抗力ヲ挫折スルニ在リ

野砲兵

備考(草案第二部第二ノトアルハ野砲兵操典草案)

第一 使用法

(イ) 集團用法

方今火器ノ進歩、各兵種戰鬪法ノ改善及通信法ノ發達ハ砲兵ノ統一指揮ヲ以テ其威力ヲ發揚スル爲益、緊要ト認メラルルニ至レリ(草案二ノ二參照)砲兵ヲ同一地點ニ集團使用スルヲ得ハ其統轄頗ル便ナリト雖其害モ亦少ナシトセス且此害ハ集團ノ大ナルニ從ヒ愈甚シ(草案二ノ五參照)所謂集團砲兵ノ意義ハ形體的ニ集結スルニアラスシテ威力ノ集團ヲ稱スルモノナリ詳言スレハ射擊目標ノ位置、我陣地附近ノ地形、指揮ノ爲使用シ得ル通信連絡ノ方法等ニ因リ敵火ノ損害ト我行動ノ便否トヲ顧慮シ全砲兵ヲ數群ニ分チテ各適當ナル陣地ヲ配當シ其指揮ハ之ヲ統一シ以テ火力ノ集中ヲ企圖スルヲ要ス而シテ此際要スレハ特ニ砲兵指揮官ヲ任命ス(草案二ノ三參照)明治三十八年二月二十六日日本第一軍司令官ノ採用シタル砲兵使用法ハ其一例ナリ

奉天會戰ノ初期ニ方リ日本第一軍司令官ハ砲戰統一ヲ圖ル爲臨時軍砲兵司令

官ヲ任命シ全砲兵ノ指揮ヲ執ラシメタリ是ニ於テ砲兵司令官ハ全砲兵ヲ地區ニ從ヒ四群ニ分チ各砲兵群ノ指揮官ヲ命シテ指揮ノ關係ヲ明ニシ且砲兵司令官ト各砲兵群指揮官トノ間ニハ電話ヲ設備シ又豫備通信法トシテ手旗信號手ヲ配置シ以テ砲戰ニ便ナラシメタリ各砲兵群ノ地區及砲數ハ左ノ如シ(日露戰史第八卷附圖第五十三參照)

野砲二十二門	野砲二十四門
山砲十八門	野砲十二門
九珊白砲十八門	野砲三十六門
十二珊加農四門	
十五珊白砲四門	

小柳家峪南方高地ヨリ張旗在南勾南方高地ニ亘ル間
 代家峪東方
 歪頭山及其西麓附近
 馬耳山堡子東方高地附近

野砲九十四門、山砲十八門、九珊白砲十八門、十二珊加農四門、十五珊白砲四門、合計百三十八門

但シ第二師團ニ屬スル野、山砲各十八門ハ此外トス

如斯ニテ二十六日砲火開始ヨリ追撃ニ移ル迄其指揮ヲ繼續セリ

砲兵ハ集中火力ノ發揚上指揮ノ統一ヲ緊要トスルコト前述ノ如シト雖統一指揮ニモ自ラ定限ノアルコトヲ知ラサルヘカラス即チ將來ノ大會戰ニ於テ數軍相併立シテ使用セラレ戰場區域廣大ニシテ十數里ニ亘ルコト珍カラス從テ會戰場ニ於ケル全砲兵ヲ悉ク一ノ指揮官ニ統一セシメンコト頗ル困難ニシテ寧ロ不可能ニ近カラシ又必シモ全砲兵ヲ統一セシムルノ必要ナカルヘシ故ニ砲兵ノ統一指揮ヲ要スルハ同一目的ノ爲協同スヘキモノ及之ト直接關係ヲ有スルモノト解スルヲ適當トス換言スレハ其範圍ハ師團戰略單位又ハ軍(會戰單位)ト見ルヲ得ヘシ

(ロ) 移動用法

戰勢ノ均衡ヲ破リ步兵進撃ノ門戸ヲ開カンカ爲所望ノ時機ト場所トニ於テ砲兵ノ集中火力ヲ發揚シ得ルハ最モ希望スル所ナリ將來ノ會戰ハ戰鬪經過長時ニ亘

リ戰況屢沈衰ノ狀態ニ陷ルヘキヲ以テ殊ニ然リ現今砲兵ハ其射程及射撃速度大ニシテ且多ク遮蔽陣地ヲ採用スル結果既ニ戰鬪中ナル砲兵ノ一部ヲ他方面ニ使用セントスルハ往時ニ比シ寧ロ容易トナレリ故ニ將來砲兵ノ移動使用ニ依リ隨時隨所ニ於テ集中火力ノ效果ヲ收メントスルノ傾向ヲ生スヘシ之カ爲特ニ緊要ナルハ砲兵ノ移動性ナリトス(草案二ノ七五參照)兵力同等若ハ劣勢ヲ以テ勝利ヲ得ントスル軍ニ在リテハ巧妙ナル指揮機敏ナル移動適當ナル地形ノ援助ニ依リ緊要ノ時機所望ノ場所ニ敵ニ優ルノ威力ヲ發揚スルハ砲兵使用上ノ要件ニシテ成功ヲ得ルノ要訣ナリ

然リト雖此移動使用ニ心醉シ戰鬪初期ヨリ必要ナル砲兵ノ一部又ハ大部ヲ控置シ却テ敵ニ先制ヲ占メラレ後ニ至リ所要ニ充タサル兵數ヲ逐次使用セントスル如キハ嚴禁ナリ

(ハ) 展開及控置

砲兵戰鬪ノ要訣ハ機先ヲ制シ常ニ敵ニ優ルノ威力ヲ發揚スルニ在ルヲ以テ許多ノ場合ニ於テ敵ニ先ンシテ射撃準備ヲ完了シ機ヲ失セス火力ノ集中效果ヲ現シ

迅速ニ敵ヲ制壓スルヲ緊要トスレトモ狀況ニ依リテハ其一部ヲ控置スルコトナ
 キニアラス(草案二ノ一)然リト雖砲兵ハ歩兵ノ如ク縱長區分ニ依リ戰鬪ヲ始終ス
 ヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ爾他ノ顧慮ナキ場合ニ於テハ全砲兵ヲ陣地ニ
 就カシメ最初ヨリ至大ノ優勢ヲ以テ迅速ニ敵火ヲ制壓スルヲ要ス
 砲兵展開ノ大主眼前述ノ如シ而シテ其大部若ハ一部ヲ控置スルハ一ニ爾後ノ砲
 兵使用ヲ適切ナラシムルニ在リ(草案一ノ一)故ニ此砲兵使用ニ關シテハ爲シ得ル
 限リ準備ヲ整ヘ其使用ニ關シ時機ヲ失セサルコトニ注意セサルヘカス(草案二ノ
 二五)

(附言)

砲兵ノ展開ニ今一法アリ即チ全砲兵ヲ豫定陣地附近暴露陣地ニ在リ
 テハ陣地ノ後方掩護セル位置、遮蔽陣地ニ在リテハ遮蔽ノ度大ナル位
 置等ヲ云フナリ)ニ射撃準備ヲ完了シテ準備姿勢ニアラシメ狀況ニ
 應シ豫定陣地ニテ直ニ射撃ヲナスカ要スレハ此位置ヲ撤シ之ヲ他
 ニ使用セントスル方法はナリ外國操典ニハ之ヲ埋伏陣地、準備陣地等
 ト稱スルモノアリ而シテ此際殊更ニ少數砲兵ヲ主部ノ位置ト異ナ

ル方面ニ使用シ敵ヲ誘致セントスルモノモアリ之ニ誘致砲兵ノ名
 稱ヲ附ス此種方法ノ採用ノ適否ハ一ニ狀況殊ニ地形ニ關スルモノナ
 リ

(二) 豫備砲兵(砲兵豫備)

砲兵豫備トハ軍隊指揮官ノ豫備隊トシテ貯フル砲兵ヲ云フ初學者往々之ト軍隊
 指揮官ノ命令ニ依ル控置砲兵トノ區別ニ關シ疑義ヲ懷クコトアリ宜シク其實質
 ニ就キ研究セハ自ラ釋然タル所アルヘシ蓋シ一般豫備隊ノ用途ハ不時ノ事變ニ
 備ヘ或ハ所望ノ地點ニ決戰ヲ指導スルニ在リ而シテ砲兵ヲ不時ノ事變ニ備フル
 爲豫備トスル如キハ全然之ナカルヘク從テ豫備タル砲兵ハ決戰ニ使用スルヲ主
 眼トセサルヘカラス、果シテ砲兵豫備ノ目的カ決戰點ニ特別ノ威力ヲ發揚セント
 スルニ在ラハ今日ノ火炮ニテハ其必要甚タ少シ是現今ノ火炮ハ遠大ノ距離ヨリ
 適時此目的ニ努力シ得ルノミナラス小銃威力ノ増大、築城術ノ進歩等ニ基キ歩兵
 戰鬪ハ最初ヨリ砲兵ノ協力ヲ要スルコト大ナルヲ以テナリ本邦ノ如ク數上劣勢
 ナル砲兵ヲ以テ戰勝ヲ得ント欲スル國軍ニ於テ殊ニ然リ

歐洲諸國中今尙此豫備砲兵ノ必要ヲ説クモノアリ獨逸操典ニハ「稍大ナル砲兵ヲ有スル場合ニハ軍隊指揮官ハ砲兵ノ一部ヲ先ツ豫備隊トナスコトアリ」ト規定アルカ如キ是ナリ然レトモ此規定ハ步兵ノ如ク常規トシテ豫備トナスヘシト云フニアラスシテ特別任務ヲ有スル砲兵ハ多少狀況ノ明瞭トナル迄一時之カ使用ヲ見合セ置クノ必要ナル場合アルコトヲ示スモノナルヘシ而シテ軍團若ハ之ヨリ大ナル部隊ノ有スル砲兵ハ往々此種ノ必要ヲ生スルコトアルヘシ又砲兵ヲ有スル建制部隊ヲ以テ充ツヘキ戰略豫備ニ於テハ自ラ別ナリ

之ヲ要スルニ大ナル砲兵ヲ有スル兵團ニ在リテハ狀況已ヲ得サル場合ニ於テ時トシテ如斯使用法ノ必要ナル場合アリト雖師團ノ如キ少數砲兵ヲ有シ而モ狹少ナル地域ニ於テ戰鬪スル兵團ニ在リテハ多クハ不利ナリ故ニ砲兵豫備ハ軍以上ノ兵團ニ於テ稀ニ必要ナル場合アリト解スヘシ如何ナル場合ニ於テモ豫備砲兵ハ機ヲ失セス之ヲ決戰ニ參與セシムル爲テニ注意ヲ要ス

第二 砲兵陣地

(イ) 主力砲兵使用方面

砲兵ノ主任務ハ攻撃ニ在リテハ攻撃點防禦ニ在リテハ敵ノ主攻擊部隊ヲ制壓スルニ在リ而シテ戰況ノ變遷ニ應スル爲戰場ノ大部特ニ主戰場ノ大部ヲ射撃シ得ルヲ要ス(草案二ノ四四、六六此關係ヨリ砲兵ノ主部ハ通常主力ノ戰鬪方面ニ使用セラルルヲ一般トス世間動モスレハ縱射及斜射ノ利ヲ收ムルコトニ腐心シ主力砲兵ヲ以テ主攻擊點ヲ側方ヨリ射撃セントスルノ意見ヲ有スルモノナキニアラキルモ此説ハ射撃威力ノ技術的發揚ニ重キヲ置キ戰術上ノ考慮ヲ第二位ニ置カントスルモノニシテ予ハ同意スル能ハス予ト雖縱射及斜射ノ射撃威力ノ大ナルコトヲ認ム故ニ一部ノ砲兵ヲ以テ狀況之ヲ許サハ此目的ニ使用スルコトハ固ヨリ希望スル所ナリ(草案二ノ三五)然レトモ此目的ノ爲主力砲兵ヲ使用スルハ地形特ニ有利ナルトキニアラサレハ自己モ亦敵ノ爲ニ縱射斜射ヲ受ケ戰鬪任務ノ達成上却テ不便ナルノミナラス戰況ノ變化ニ際シ大ナル困難ニ陥ルコトナキヲ保シ難シ

(ロ) 戰鬪距離

各兵種戰鬪原則中要項ノ説明

攻撃ニ於テ砲兵陣地ヲ敵ヨリ幾何ノ距離ニ選定スヘキヤハ指揮官ノ意圖、戰況、地形、天候等ニ關係ス然レトモ努メテ敵ニ近接シテ選定スルヲ有利トス是敵陣地及彼我歩兵ノ狀況ヲ確認スルニ便ニシテ火力ノ發揚及歩砲兵ノ協同動作ヲ確實ナラシムル爲緊要ナレハナリ(草案二ノ四五砲兵射程ノ増加ニ甘シ遠距離(持久ノ場合ヲ除ク)ヨリ戰鬪ヲ開始スルトキハ管ニ消費彈藥ト射撃効果ト收支相償ハサルノミナラス戰況ノ變化ニ應シ機ヲ誤ラサラント欲セハ敵火ニ暴露シテ陣地變換ヲナササルヘカラサルニ至ラン現今ニ於ケル野戰砲ノ射程ハ五千乃至八千ノ距離ニ達セリト雖斯カル遠距離ニ於テハ活力ノ減少ト觀測ノ困難等ノ爲効力正確ヲ缺クヲ以テ三千米内外ノ距離ニアラサレハ有効ナラス故ニ持久戰等特別ノ場合ヲ除ク外砲兵ノ第一陣地ハ狀況ノ許ス限リ三千米内外ニ選定スルヲ適當トス爾後更ニ戰鬪距離ヲ短縮スルハ希望スル所ナルモ目標偉大且地形上制限ヲ受クルコト大ナルヲ以テ敵歩兵ノ有効射界内ニ於テ動作スルハ戰況特ニ之ヲ要スル場合ノ外避クヘキモノナリ(草案二ノ六現今ニ於ケル小銃ハ二千米ノ射程ヲ有スルモ眞ニ其威力ノ確實ナルハ千二三百米以内ノ距離ナリ故ニ必要ニ際シ敵歩兵

火ニ對シテ無益ノ損害ヲ避ケ放列布置ヲ圓滿ナラシメ以テ砲兵ノ近距離威力ヲ發揚センニハ通常ノ場合千五百米内外ト見ルヲ得ヘシ(草案二ノ四九第一項)即チ攻撃砲兵ノ第二陣地ハ千五百米内外附近ヲ適當トス又我散兵線附近迄進出シテ特殊目的ノ爲ニ活動スヘキ砲兵(草案二ノ四九第二項)ノ戰鬪距離ニ關シテハ敵火ノ狀態ト地形トニ鑑ミテ之ヲ決定スヘキモノニシテ一定ノ標準ヲ定メ難シ

防禦砲兵ト我歩兵トノ關係距離ハ明示シアルヲ以テ之ヲ略ス

戰例第一

沙河會戰中十月十一日第六師團ノ楊家灣附近ノ攻撃ニ際シ砲兵第六聯隊第三中隊ハ大東山堡東方附近ニ於テ午後一時三十分頃ヨリ楊家灣南端ノ土壁ニ對シ破壊射撃ヲ行フ午後二時三十分頃ニ到リ敵兵退却セシヲ以テ第一線歩兵ハ同村ニ突入セリ當時ノ敵情概ネ要圖ノ如シ

砲兵第六聯隊第一大隊長ハ我歩兵ノ楊家灣ニ進入スルヲ見ルヤ同村北端ニ到リ土壁内ニ陣地ヲ選定シテ直ニ第三中隊ニ前進ヲ命ス乃チ同中隊ハ午後四時

三十分ヨリ開濶地ヲ疾驅シテ午後四時五十五分該陣地ニ進入シ砲門ヲ穿チテ午後五時稍過ヨリ二十家子南方ノ敵砲兵ヲ射撃シテ之ヲ沈黙セシメ同時五十分小東台南方約二百米ノ敵歩兵ニ目標ヲ變換ス

是ヨリ先砲兵聯隊長ハ更ニ若干中隊ノ陣地變換ヲ企圖セシモ前浪子街東方ノ敵砲火熾烈ナル爲之ヲ果サス又我歩兵ハ砲兵第三中隊ノ協力ニ依リテ二十家子ニ向ヒ攻撃前進セシモ遂ニ成功セスシテ夜ニ入ル

實ニ砲兵第三中隊ハ右ノ如キ狀況ノ下ニ於テ約三千五百米ヲ前進シテ敵前千

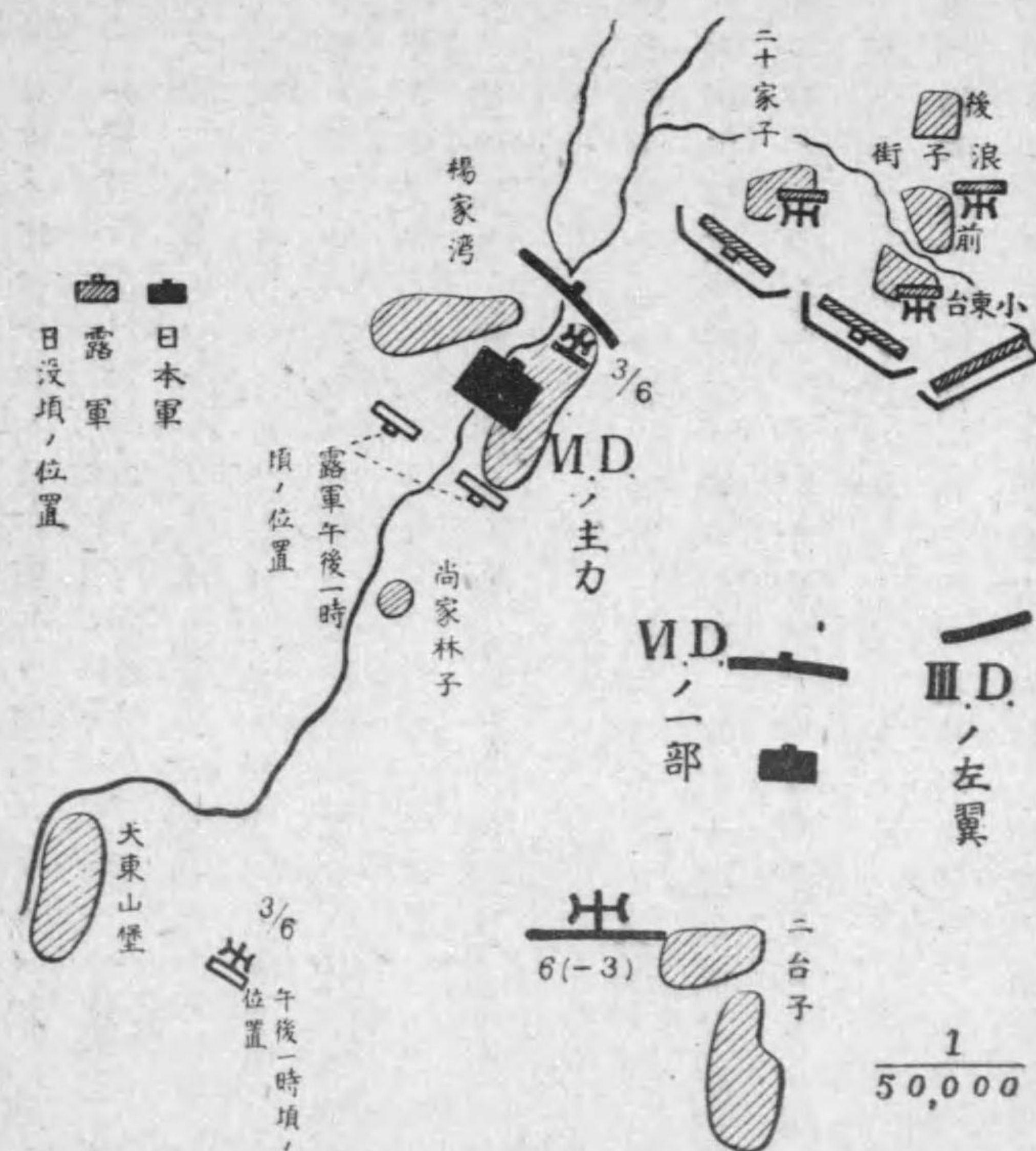
米附近ニ陣地ヲ占領セシモノナリ

戰例第二

奉天會戰中三月十日第九師團ノ前衛ハ郭三屯ヨリ冬常上ノ敵ヲ擊攘シテ前進セントス之カ爲前衛所屬ノ砲兵第九聯隊(第五第六中隊)ハ拂曉前郭三屯西北側ニ陣地ヲ占領ス又第九師團ノ攻撃ヲ援助スヘキ砲兵第二旅團ハ各一聯隊ヲ以テ田義屯北方及郭七屯東端ニ陣地ヲ占領ス然ルニ冬常上ニ對スル射撃ノ効果充分ナラサリシヲ以テ砲兵第十八聯隊第二大隊ハ郭三屯ニ前進スヘキ命ヲ

各兵種戰團原則中要項ノ説明

三三一



三三〇

受ク仍テ同大隊ハ午前七時過猛烈ナル敵ノ小銃火ヲ冒シテ同村南端附近ニ放列ヲ布置シ午前九時二十五分ヨリ冬常上ニ向ヒ射撃ヲ開始ス

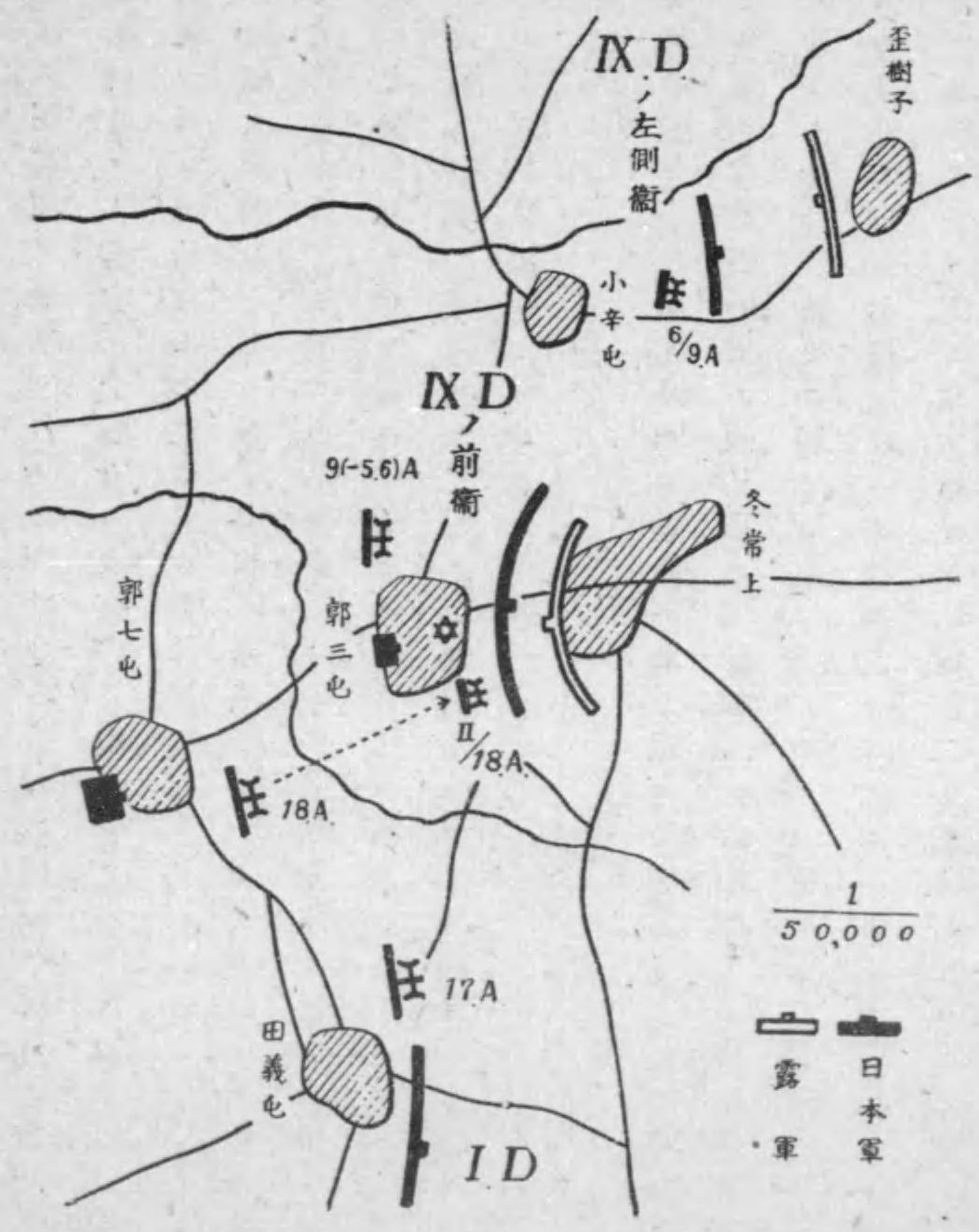
爾後瞬時ニシテ冬常上ハ爆烟ノ包ム所トナリシモ其守備兵ハ更ニ動搖ノ微ナク却テ郭三屯附近ニ對スル敵砲兵更ニ増加シ我歩兵ノ攻撃前進甚困難ナリシカ歩砲兵ノ猛烈ナル攻撃ニ依テ遂ニ正午頃接戦格闘ノ後冬常上ヲ占領セリ

右ノ戦例ニ於テ砲兵第九聯隊ノ陣地ハ冬常上ヲ離ル八九百米ニシテ第十八聯隊第二大隊ノ陣地ハ約五百米ナリ如此勇敢ナル砲兵ノ動作ハ此困難ナル攻撃ヲ成功セシメタル基因ナリ

(ハ) 陣地選定ノ要旨

砲兵陣地選定ノ要旨ハ野戰砲兵操典草案第二部第十八步二ノ七、騎二ノ二八野二ノ一五、一八、重二ノ二三、二五參照ニ指示スル如ク主眼トスル所ハ戰術上ノ要求ト技術的威力トヲ調和シ最大ノ効果ヲ收メントスルニ在リ然ルニ諸官ノ中ニハ砲兵陣地選定ニ關シ技術的威力ノ發揚ニ腐心シ戰術上ノ要求ヲ輕視スル傾向ナシトセス因テ今二三ノ場合ニ就テ例示シ參考ニ資セントス

各兵種戰術原則中要項ノ説明



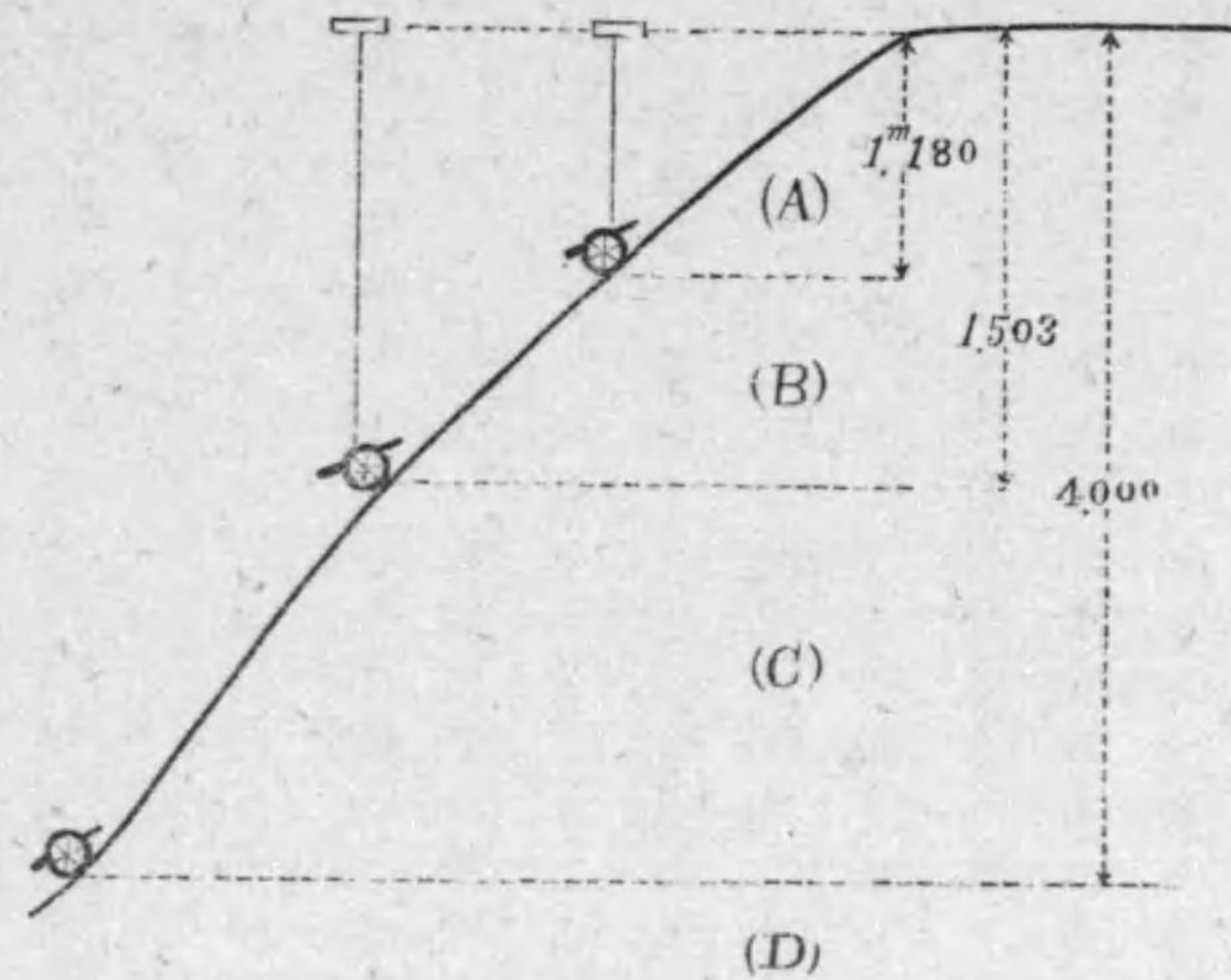
- (1) 決戦ヲ豫期スル攻撃ニ在リテハ充分攻撃點ヲ射撃シ得ルト同時ニ防禦砲兵ニ對シ有利ニ戰鬪ヲ交ヘ得ルコトヲ要シ決戦防禦ニ在リテハ敵主力ノ攻撃方向ヲ充分射撃シ得ルト同時ニ攻撃砲兵ニ對シ有利ニ戰鬪シ得ルヲ要ス此際攻防共ニ戰場ノ大部ヲ射撃シ得且友軍ノ動作ヲ掣肘スルコトナク最終ノ時機迄射撃ヲ持續シ得レハ最有利ニシテ又一部ヲ以テ敵ヲ斜射若ハ縱射シ得レハ最モ妙ナリ已ムヲ得サレハ戰鬪ノ進歩ニ伴ヒ陣地ヲ變換スルヲ要ス而シテ彼我砲數ニ於テ著シク差異アル如キ場合ニ於テハ特別ナル陣地ヲ選定スルコトアルハ勿論ナリトス
- (2) 持久戰ニ在リテハ狀況ノ如何ニ依リ時トシテ近距離ハ射撃シ得サルモ遠距離ヲ射撃シ得レハ可ナルコトアリ若ハ之ヲ以テ満足セサルヘカラサルコトアリ
- (3) 狀況切迫ノ場合ニ於ケル砲兵ハ刻下ノ目的ニ適應スル如ク取敢ス陣地ヲ選定シ將來ノコトヲ顧慮シ得サルコトアリ例ヘハ遭遇戰ニ於テ敵兵我ニ先シテ展開中ニシテ前衛ハ多少危險ヲ冒スモ敵ノ展開ヲ妨害シ同時ニ我本隊ノ展開

ヲ掩護セントスル場合ノ前衛砲兵ノ如シ如斯場合ニ於テ特ニ注意スヘキハ爾後ニ於ケル狀況ノ變化ニ應センカ爲爲シ得レハ特ニ射界ノ廣濶ヲ希望スルコト是ナリ

- (4) 偵察、追撃、收容等ノ場合ニ於テモ夫々多少著眼ヲ異ニスヘキハ諸官自ラ了解シ得ヘシ例ヘハ偵察ニ於テハ其目的ノ爲必要ナル地點ニ火力ヲ集中シ得ルハ勿論我兵力ヲ秘シ且最後ノ戰鬪離脱ヲ容易ナラシムル爲ニハ特ニ遮蔽良好ナルヲ要シ追撃ニ在リテハ迅速ニ進入シ得ルヲ第一要件トシ射界ハ廣キヲ要セス單ニ某目標又ハ某要點ヲ有利ニ射撃シ得レハ足レリトスルカ如シ之ヲ要スルニ砲兵陣地選定ノ要旨ハ時機ヲ失スルコトナク戰鬪目的ニ適應セシムルヲ主眼トナス(草案二ノ一八第二項)

(二) 遮蔽陣地

陣地ノ遮蔽ノ程度ヲ概説スレハ左圖ノ如シ
 暴露陣地、遮蔽陣地共ニ完全ナルモノヲ捉ヘテ之カ利害ヲ研究スレハ今日ニ於ケル砲兵技術上最早砲兵戰術上ノ大問題トナスニ足ラス寧ロ戰場ニ於ケル砲兵ノ



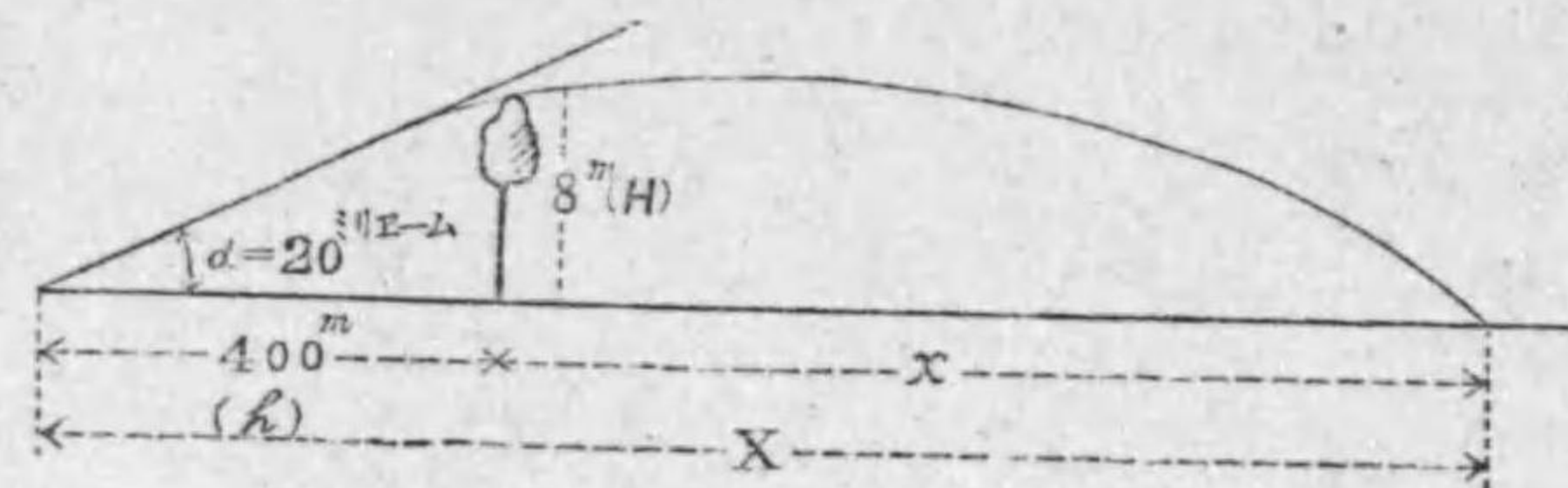
- (A) 稜線ヨリ垂直距離 1.80(表尺零位ニ於ケル眼鏡ノ高さ)迄ハ直接照準ヲ爲シ得
- (B) 1.50(補助桿上ノ眼鏡ノ高さ)迄ハ補助桿ヲ用ヒ直接方向ヲ定ムルコトヲ得
- (C) 直接照準ハ爲ス能ハス敵ヨリハ我火光ヲ認識ラル
- (D) 之ヨリ後方地帯ハ火光ヲモ敵ニ認識セラレヌ

地形(地物)ノ利用法ト見ルコト恰モ歩兵ノ地物利用上伏射、膝射、立射ヲ採用スルト同一ナリ只砲兵ハ歩兵ニ比スレハ射撃姿勢(放列ノ位置)ノ變換ニ手數ヲ要スルカ故ニ多少慎重ニ處置スル迄ノ事ナリ

遮蔽陣地ノ有利ナル夫如斯果シテ然ラハ遮蔽陣地ヲ常ニ採用シ得ヘキヤ予ハ否ラスト答ヘン抑、遮蔽陣地ニハ必ス遮蔽角ニ應シ射撃シ得サル地帯ヲ生ス此死角ヲ消滅スル方法手段ハ種々講究セラレツツアリト雖今日ノ處ニテハ畢竟一ノ不完全ナル補備手段ニ過キス故ニ遮蔽陣地ハ砲兵戰團任務ノ達成上支障ナキヲ保シ難シ換言スレハ遮蔽陣地ノ採用ハ戰團任務ノ達成上妨ケナキ範圍ニ於テ技術的利益ヲ收ムルコトニ注意セサルヘカラス

戰團任務ノ達成上支障ナキ遮蔽陣地ハ戰場到ル處ニ之ヲ求め得ヘキヤ大砲兵團ニ於テ殊ニ然リ是予カ遮蔽陣地採用ノ困難ヲ稱フル所以ナリ

以上ノ如クナルヲ以テ予ツ遮蔽陣地採用ニ關スル意見ハ地形之ヲ許シ戰團任務達成上全ク妨ケナケレハ砲兵技術的利益ノ發揚上遮蔽陣地ヲ有利トナスモノナリ



$$\frac{H}{h} = a \quad \therefore a = \frac{8}{400} \times 1000 = 20$$

$$x = 40a \quad \therefore x = 40 \times 20 = 800$$

$$X = h + x \quad \therefore X = 400 + 800 = 1200^m$$

(附言)

遮蔽陣地ニ備フヘキ性能及遮蔽距離ヲ減スル方法手段ハ諸官既ニ研究シタルヘキヲ以テ之ヲ省略シ野外ニ於テ遮蔽陣地選定上他兵科將校ニ要スル標準ヲ示サントス

(1) 遮蔽物ノ所要高度

砲車材料ノ爲

徒歩者ノ爲

乘馬者ノ爲

火光ノ爲

- 一、五〇
- 二、〇〇
- 三、〇〇
- 四、〇〇

(2) 遮蔽距離略近數ノ算定

野砲

山砲

$$\frac{H}{h} \times 40 = x$$

$$\frac{H}{h} \times 20 = y$$

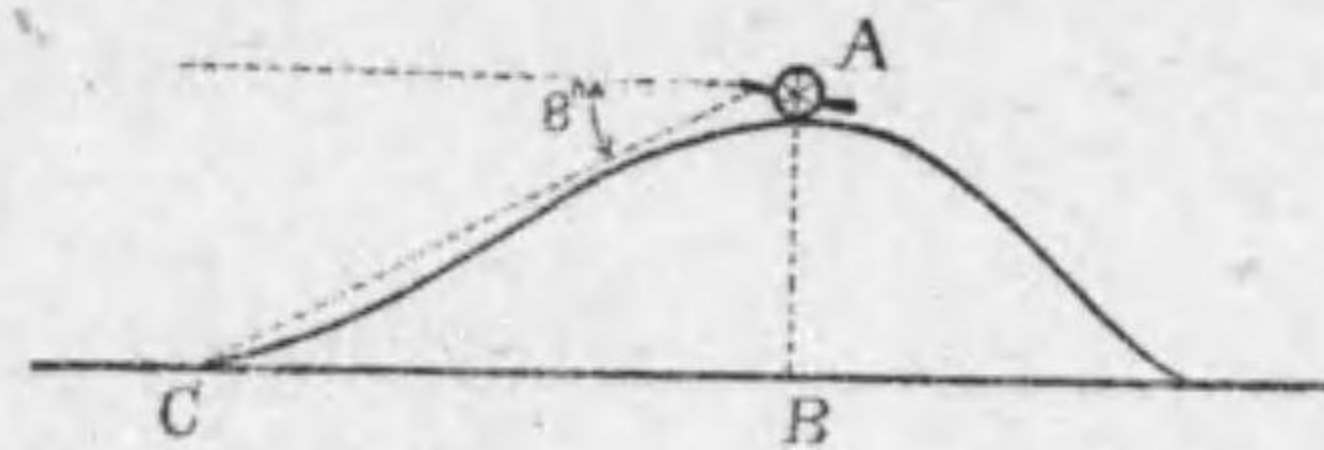
x, y 遮蔽距離

h 遮蔽物ト放列線トノ距離ニシテ吉米單位

H 遮蔽物ノ高サニシテ米單位

(3) 高地上ニ於ケル砲車死角算定法

三三〇



$BC = 7. AB.$

山砲兵ニ就テ

山砲ハ野砲ニ比シ運動ノ輕易ナルト仰角俯角共ニ大ナルヲ以テ縱令其効力多少遜色アリト雖山地ハ勿論平地ニ於テモ野砲ノ運動困難ナル方面ニ有利ニ使用セ

ラル特ニ山砲ハ目標小ニシテ地形ノ利用ニ便ナルノミナラス必要ニ際シ臂力搬送比較的容易ナルヲ以テ敵ニ近接スル行動ハ野砲ニ比シ遙ニ優レリ(草案二ノ一四)故ニ機關銃其他小目標ニ對シ破壊射撃ノ目的ヲ以テ歩兵ニ隨伴シ近距離射撃ヲ行ヒ或ハ不意ニ近ク敵ノ側方ニ進出シ縱射斜射ヲ加ヘ以テ我友軍歩兵ヲ援助スルニ最モ適當ナルモノナリ

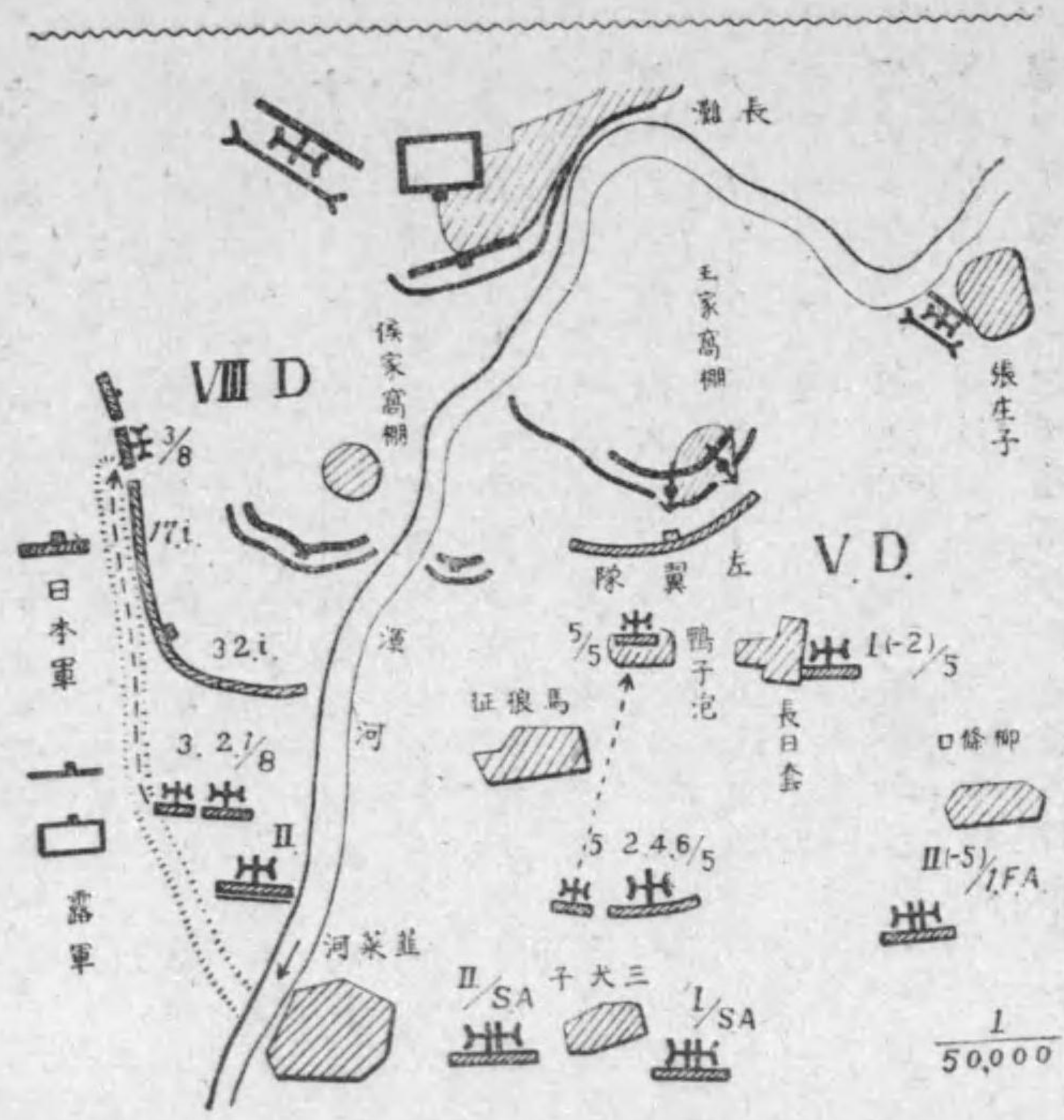
山砲ハ其名ノ如ク野砲ノ運動困難ナル地形特ニ山地ニ使用スル目的ヲ以テ創意セラレ又如此發達シタルモノニ相違ナキモ將來ノ戰場ニ於ケル山砲ノ運用ニ關シテハ其意義ヲ擴張シ野砲ノ運動性ヲ補足スル補助砲トシテ山地ト平地トニ論ナク適當ナル戰鬥任務ヲ課スヘキモノナリ

戰例

奉天會戰三月一日王家窩棚附近ニ於ケル砲兵第五聯隊第五中隊及同日侯家窩棚附近ニ於ケル砲兵第八聯隊第三中隊ハ共ニ運動輕易ニシテ地形ノ利用ニ便ナル山砲ノ特性ヲ有利ニ應用セシ一例ナリ

第五師團左隊ハ王窩棚ノ敵ヲ攻撃シテ午前九時頃敵前五十乃至二百米ニ達セシ

カ爾後敵ノ歩砲兵火殊ニ王家窩棚西南端ヨリスル機關銃火ノ爲前進不可能ニ陥
 レリ茲ニ於テ砲兵第五聯隊ハ此機關銃ヲ撲滅スル爲其一部ヲ鴨子泡附近ニ進メ
 ントセシモ同村附近ハ敵ノ銃砲彈集注セシヲ以テ之ヲ果サス然ルニ午前十一時
 五十分頃從來同地附近ヲ射擊中ナリシ敵砲兵ノ大部カ一時射擊ヲ三犬子北方ノ
 我砲兵ニ向クルヤ第五中隊ノ一小隊ハ此機ニ乘シ敵火ヲ冒シテ前進シ午後一時
 二十分鴨子泡ニ到著シ土壁ヲ利用シテ布列ス此地敵ヲ距ル約四百五十米ニシテ
 銃彈土壁ヲ貫キ砲手ヲ殲セシモ遂ニ右ノ機關銃ヲ撲滅ス尋テ第五中隊ノ殘餘モ
 亦前進シテ午後四時二十分同地ニ放列ヲ布キ敵ノ小銃火ニ浴シツツ王家窩棚ノ
 機關銃及步兵ニ對シ大ナル効果ヲ發揚セリ
 又第八師團ハ午後零時十分頃ヨリ侯家窩棚ニ向ヒ攻撃前進ヲ始ムルヤ同地及渾
 河左岸ノ敵步兵並敵砲兵ヨリ射擊ヲ集注セラレテ前進スルヲ得ズ茲ニ於テ砲兵
 第八聯隊第三中隊ハ地隙ヲ利用シテ侯家窩棚西南約千米ニ前進シ同地ニ放列ヲ
 布置セリ
 尙山地ニ於テハ山砲カ其特性上大ナル効果ヲ奏セシ例甚多シ分水岑及様子岑ノ



各兵種戰團原則申要項ノ説明

戰團ニ於ケルカ如キハ其適例
 ナリ

野戰重砲兵

(イ) 使用法

野戰ニ於ケル重砲兵使用ノ根
 本原則ハ野戰砲兵ト毫モ異ナ
 ル所ナシ唯重砲兵ノ特性即チ
 口径ノ増大ニ伴フ威力ノ増加、
 曲射彈道全備重量ノ増加ニ伴
 フ運動性ノ減少及彈藥補充ノ
 困難等ニ由リ使用上若干ノ差
 異ヲ生スルニ過キス今重砲兵
 ノ特性ニ基キ使用上野砲ト異

ナル點ヲ略述スレハ左ノ如シ

重砲兵ノ戰闘參加ヲ迅速ナラシメント欲セハ其耳目タル觀測小隊ヲシテ迅速且適切ニ動作シ部隊ノ到著前射擊準備ヲ整ヘシムルコト必要ナリ此準備作業ニ要スル時間ハ地形及放列觀測所間ノ距離ニ依リ著シク差異アリト雖少ナクモ二、三十分間ヲ要ス故ニ砲兵指揮官ハ其觀測團若ハ同挺進班團ヲ適宜前方ニ位置セシメ適時所要ノ命令ヲ與ヘ得ル如クセサルヘカラス之カ爲戰闘ヲ豫期シテ前進スル大隊ハ大、中隊ノ觀測小隊ヲ中隊ノ行軍序列ニ從ヒ一團トナシ大隊長之ヲ直轄シ又聯隊ニ在リテハ大隊ノ行軍序列ニ從ヒ之ヲ一團トナシ共ニ高級故參者ノ指揮ヲ以テ聯(大)隊ノ前方ニ(要)スレハ前衛ノ後方ニ(位置)セシメ大隊戰闘ノ爲展開スルニ方リ之ヲ中隊長ノ指揮ニ復セシムルモノトス(草案一ノ四五八、四九八、二ノ六五要務令二二五)

野戰重砲兵使用ノ時機ハ其主旨ニ於テハ野砲兵ト異ナル所ナシト雖砲數ノ少キト特別目的ニ使用セラルルト、陣地變換ノ困難ナルト裝備彈藥數ノ少キト等ノ關係ヨリ過早ニ之ヲ使用スルノ害ハ野砲兵ニ比シ一層大ナリ故ニ其間多少ノ差異

(手加減)ナカルヘカラス(草案二ノ二一八三)

(附言)

獨逸徒歩砲兵操典ハ之ニ關シ記スル所更ニ明瞭ニシテ攻撃ノ通則ニ於テ「徒歩砲兵ハ狀況明瞭トナル迄之ヲ後方ニ控置スヘキモノナリトス云々」又防禦ノ部ニ於テ「敵ノ攻撃方向尙明瞭ナラサル間ハ野戰重榴彈砲大隊ハ當初先ツ準備陣地ニ在ルヲ有利トス」ト

本邦ニ於ケル野戰重砲使用上前述諸原則ヲ適用スル場合ニ於テモ能ク其砲種ノ特性ニ鑑ミ之ヲ決定スルヲ要ス例ヘハ十二榴ハ野戰砲兵ノ資格ヲ以テ其曲射彈道ニテ野砲ノ低伸彈道ノ欠ヲ補フ可キモノニシテ又十五榴ハ所謂重砲ノ取扱ヲ受クヘキモノナルカ如シ

(ロ) 砲兵陣地

野戰重砲兵ハ遮蔽陣地ヲ占領シ間接射擊ヲ行フヲ本則トス是野砲ニ比スレハ榴彈砲ハ射角ノ關係上陣地選定ニ大ナル自由ヲ有スルノミナラス重砲ハ通常不動目標ニ對シ精密射擊ヲ行フ場合多キヲ以テナリ然レトモ戰況上行動迅速ナル目標ヲ射擊スルトキ、追擊、退却ノ如キ豫メ所要ノ準備ヲナシ能ハサルトキ、地形之ヲ

各兵種戰闘原則中要項ノ說明

許ササルトキ等ニ在リテハ半遮蔽若ハ暴露陣地ヲ占領スヘキモノトス(草案二ノ二八、四七)

野戦重砲兵ハ遮蔽陣地ヲ本則トスルヲ以テ觀測所ノ選定ニハ特ニ注意ヲ要ス其顧慮スヘキ要件ハ重砲兵操典草案第一部第四百六十二及第二部第二十九ニ指示シアリ狀況上最初ヨリ良好ノ觀測所ヲ選定スルコト能ハサル時ハ比較的此要求ニ近キモノヲ採用シ爾後戰況ノ發展ニ伴ヒ要スレハ觀測小隊ヲ適當ノ地點ニ分遣シテ補助觀測所ヲ設ケ又ハ觀測所全部ヲ擧ケテ適當ナル地點ニ移轉ス

放列位置選定上特ニ注意ヲ要スルハ遮蔽角ナリ遮蔽角ハ豫想スル戰況ニ應スル最小射角ヨリ常ニ小ナラシメ以テ戰況ノ推移ニ應シ同一陣地ヨリ射撃効力ヲ發揚シ得ル如クスルヲ要ス

放列線ノ配列上野戦重砲兵ハ彈道ノ彎曲ヲ利用シ必要ニ應シ重疊梯次配置ヲナスニ方リ地形上及射撃上ノ制限ヲ受クルコト少ナシ

(附言) 彈道昇孤ニ於ケル縱線ノ値ヲ比較スルニ平坦地ニ於テ兩陣地ノ距離ハ中等戰鬪距離ニ於テ榴彈砲ハ約400トセハ危險ナキモノトス

野戦重砲兵ハ射法及運動性ノ關係上最初ヨリ特ニ成ルヘク敵ニ近接シテ陣地ヲ占領シ諸般ノ任務ヲ達成スルコト緊要ナリ(草案二ノ三四、四五)

(ハ) 射撃目標

野戦重砲兵ノ射撃ハ一彈ノ効力甚大ナルト彈藥補充ノ困難ナルトニヨリ精密射撃ヲ主眼トシテ命中百分數ニ重ヲ置キ發射速度ノ増大ニ依リ時間効力ヲ收メントスルコトナシ今其野砲トノ差異アル所ヲ略述スレハ左ノ如シ

(I) 威力ニヨル差異

- (1) 敵砲兵ノ制壓
- (2) 野砲ノ擊破シ能ハサル堅固ナル術工物ノ破壞

(II) 曲射彈道ニ因ル差異

- (1) 落角ノ大ヲ利用シ掩護物ノ直後又ハ其下方ニ在ル目標ヲ射撃ス
- (2) 落角ノ大ヲ利用シ友軍歩兵ノ突入ノ瞬時迄超過射撃ヲ以テ攻撃點ヲ猛射ス
- (3) 山地等ニ於テ高低ノ差大ナル目標ヲ射撃ス

(4) 推定セル地區ニ對スル散布射撃ハ特別ノ地形ヲ除ク外之ヲ行ハス

工兵ニ就テ

(イ) 工兵使用ノ根本義

工兵ノ主要ナル任務ハ敵前ニ於テ整齊且迅速ニ技術的作業ヲ實施シ以テ作戰ヲ有利ナラシムルニ在リ我典範ハ最近戰役ノ經驗ニ鑑ミ歩兵及砲兵ニ自ラ所要ノ工事ヲ行フヘキコトヲ要求ス從テ工兵使用ノ根本義ハ他兵種ノ作業ヲ援助スルニアラスシテ獨立シテ専ラ特殊ノ技術又ハ著大ナル土工力ヲ要スル作業ヲ實施スルニ在リ而シテ狀況ニ依リ他隊ノ作業ヲ指導スル場合ニ在リテハ工兵ハ通常該隊ニ配屬セラレ作業ニ關スル全責任ハ當該隊長ノ負フ所トナシ又他隊ノ作業ヲ援助スル場合ニ在リテハ其隸屬關係ノ如何ニ拘ラス工兵ハ成ルヘク建制ヲ保持シ其特殊ノ技能ヲ要スル作業ヲ擔任スヘキモノトス

(ロ) 統一使用

工兵ハ統一指揮ノ下ニ使用セララルルヲ有利トス是工兵指揮官自ラ適當ニ全隊ヲ

部署シ且確實ニ全般ノ作業ヲ統轄シ得レハナリ(操典二ノ二)由來工兵ハ其數ノ少ナキニ拘ラス使用ノ範圍廣大ナルヲ以テ動モスレハ小ナル部隊ニ分割シテ他隊ニ配屬スルヲ原則ノ如ク思惟スルカノ傾ナキニアラス如斯ハ工兵ヲシテ其全力ヲ遺憾ナク發揮セシムル所以ノ道ニアラス戰況ノ推移ニ伴ヒ更ニ重要ナル作業ヲ要スルニ方リ一旦分屬シタル工兵ヲ糾合シテ適時之ニ從事セシムルコト難ク爲ニ戰局ニ不利ノ影響ヲ及スコトナシトセス

工兵ノ爲スヘキ作業ハ屢廣大ナル地域ニ亘リ而モ其作業ハ當該方面他兵種トノ行動ト一致調和ヲ圖ラサルヘカラス故ニ狀況地形及作業地域ノ關係ヨリ工兵ヲ分割シテ之ヲ他隊ニ分屬スルノ必要ナルコト少ナカラス但此分屬ハ必要己ヲ得サル時機ニ至リ始メテ行フヘキモノナリ

狀況之ヲ許サハ一地ニ集結シアルト數地ニ分割シ作業シアルトニ拘ラス工兵隊長ヲシテ全工兵ノ指揮ヲナサシメ狀況ト作業ノ種類トニ應シ終始適當ナル部署ヲ以テ全作業ヲ最有利ニ進捗セシムルヲ要ス此際注意ヲ要スルハ指揮ノ權限、戰闘任務ニ對スル責任ノ歸著ヲ明瞭ニシ以テ軍隊統率上精神的錯誤ヲ生セシムル

コトナキニ在リ敵ノ直前ニ於ケル作業ニ於テ殊ニ然リ之ヲ要スルニ工兵使用ニ關シテハ戰鬪任務遂行ニ關スル責任ト戰鬪任務遂行ノ手段タル作業ノ進捗トヲ一致調和シ以テ軍隊指揮ヲ適切ナラシムルハ高級指揮官ノ責任トス

(ハ) 集團使用

狀況ニ依リ數多ノ作業ヲ同時ニ完成スルヲ要スル時ノ外工兵ハ成ルヘク之ヲ集結シテ全カヲ以テ先第一ニ完成スヘキ作業ニ著手シ逐次其他ニ及ホスヲ要ス是集團使用ハ工兵ノ能力ヲ充分發揮セシムル所以ニシテ之ヲ數多ノ小部分ニ分割シテ個々ノ作業ヲ爲サシムルニ比スレハ作業効程大ニシテ全般ノ完成ヲ迅速ナラシムルヲ得レハナリ故ニ工兵指揮官ハ勿論工兵隊ヲ使用スル指揮官モ亦故ナクシテ同時ニ各種ノ作業ヲ慾望スルコトナク一般ノ戰況ニ顧ミ緊急ノ程度ヲ顧慮シ作業ノ著手順序ヲ適當ニ決定スルコト緊要ナリトス

(ニ) 工兵作業ノ種類

工兵ノ擔任スヘキ作業ハ多々之アリト雖平時演習等ニ於テハ損害賠償等ノ爲假

想トナス關係上諸官ハ如何ナル作業ヲ爲スモナリヤニ就テ甚願慮ノ乏シキヲ覺ユルヲ以テ左ニ其二三ヲ例示セントス然レトモ是一例ニ過キサカ故ニ予ノ例示ヲ以テ作業ノ全般ヲ盡セルモノト誤解セサルヲ要ス

(I) 攻撃

- (1) 前進運動ノ據點ヲ構成ス例ヘハ前衛ノ占領セル要地ヲ強固ニスルカ如シ
- (2) 歩兵ノ展開ヲ迅速容易ナラシムル爲縦隊路ノ開設
- (3) 砲兵ノ爲進入及進出路ノ構築竝之ニ要スル諸設備
- (4) 第一線歩兵ト同行シ要スレハ其前方ニ奮進シテ小流、斷崖等ノ通過設備
- (5) 既ニ占領セル地區ヲ確實ニスル爲歩兵ノ作業ヲ援助シ若ハ獨立シテ重要ナル地點ノ編成ニ任ス
- (6) 敵陣地前ノ障碍物ヲ排除シ歩兵ノ突撃路ノ開設
- (7) 敵陣地ヲ占領セハ直ニ之ニ所要ノ工事ヲ施シ敵ノ恢復攻撃ニ備フル設備
- (8) 指揮官ノ爲展望台ノ設備

(II) 防禦

各兵種戰鬪原則中要項ノ説明

- (1) 陣地中重要ナル部分特ニ支撐點ノ編成
 - (2) 各地區守備隊ノナスヘキ工事指導若ハ援助
 - (3) 重大ナル障碍物ノ設置及射界ノ清掃
 - (4) 陣地内部及背後ニ於ケル交通設備
 - (5) 總豫備隊ノ攻勢移轉ヲ容易ナラシムヘキ設備
 - (6) 前地ノ照明竝敵ノ近接作業ノ妨害
 - (7) 敵ノ利用スヘキ道路、橋梁、其他交通及通信機關ノ破壊
- 以上例示シタル所ヲ概味シ之ヲ推究スレハ前進、退却、追撃、收容等ニ於ケル工兵作業ノ一般ヲモ知ルコトヲ得ヘシ故ニ其細部ハ之ヲ省略ス

攻撃展開ノ研究

攻撃計畫確立シタルヲ以テ第一師團長ハ所要ノ各指揮官ヲ集メ攻撃ニ關スル第一師團命令ヲ下シ諸隊ヲ攻撃準備位置ニ就カシメサルヘカラス(歩二ノ五〇参照)第一師團ノ攻撃展開即チ是ナリ

展開ヲ研究スルニ先チ諸官ハ師團命令下達時ニ於ケル師團諸隊ノ位置ト將ニ採ラント欲スル戰鬪區分トヲ比較シ能ク其状態ヲ腦裡ニ描畫セサルヘカラス否ラサレハ徒ニ時間ト勞力トヲ費スノミナラス往々重大ナル錯誤ヲ生スル虞アレハナリ

攻撃展開ノ指導ニ關シ特ニ注意スヘキ件左ノ如シ

(イ) 展開位置ノ決定

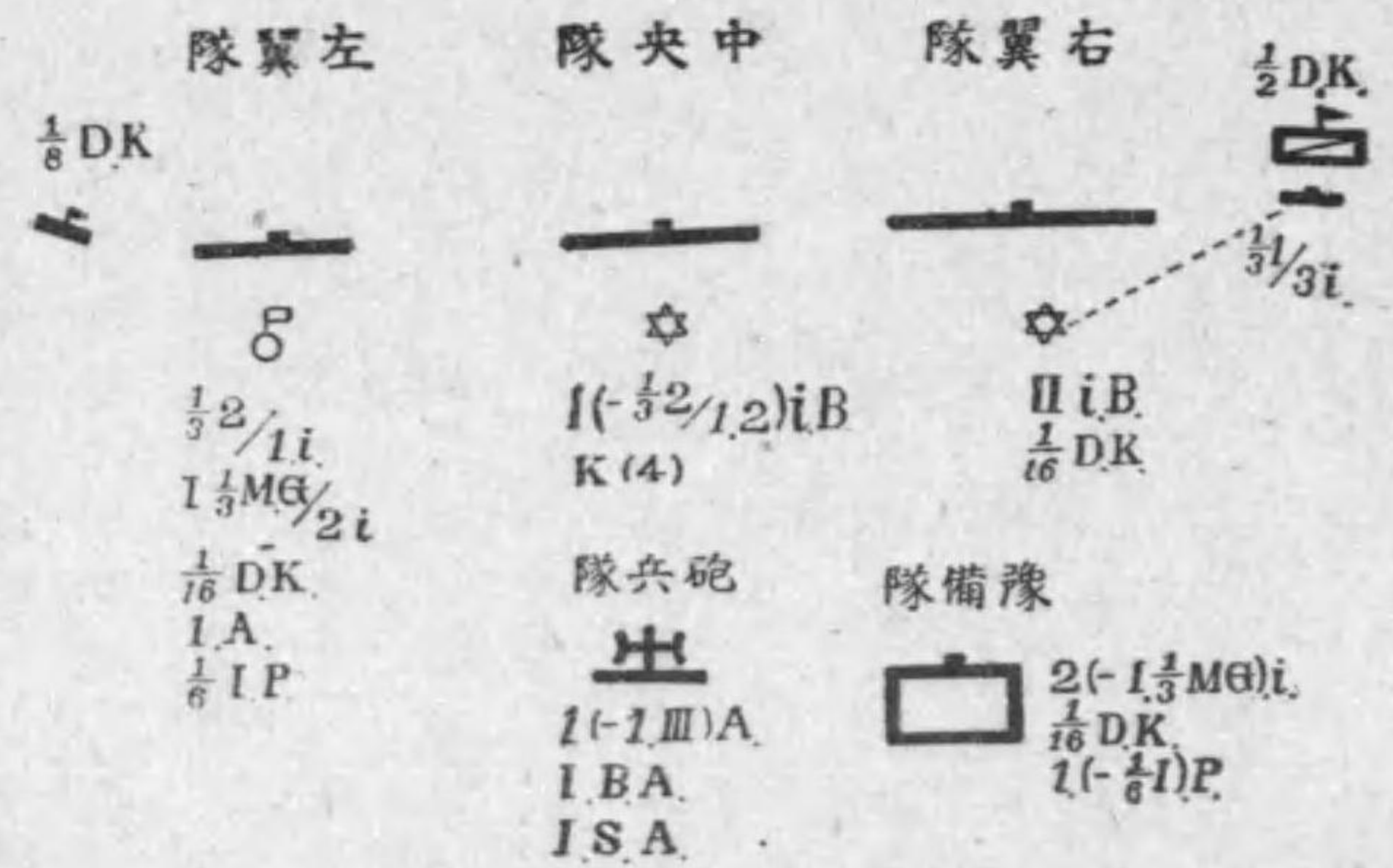
展開位置ヲ決定センニハ展開ノ爲左右ノ關係位置及正面ノ方向ヲ考察スルコト緊要ナリ攻撃目標及展開地域ヲ示スノ必要ハ之カ爲ナリ(歩二ノ五〇)

第一ノ展開ニ於テ適當ナル正面ヲ採ルコトハ頗ル緊要ナリ蓋シ將來敵火ノ下ニ於テ大ナル側方移動、正面變移ヲ避ケ(歩一ノ二〇二参照)且將來所望ノ方向ヨリ所望ノ地點ニ攻撃重點ヲ指向シ他兵種ヲシテ適切ナル協同動作ヲナサシムル基礎ヲナスモノナレハナリ

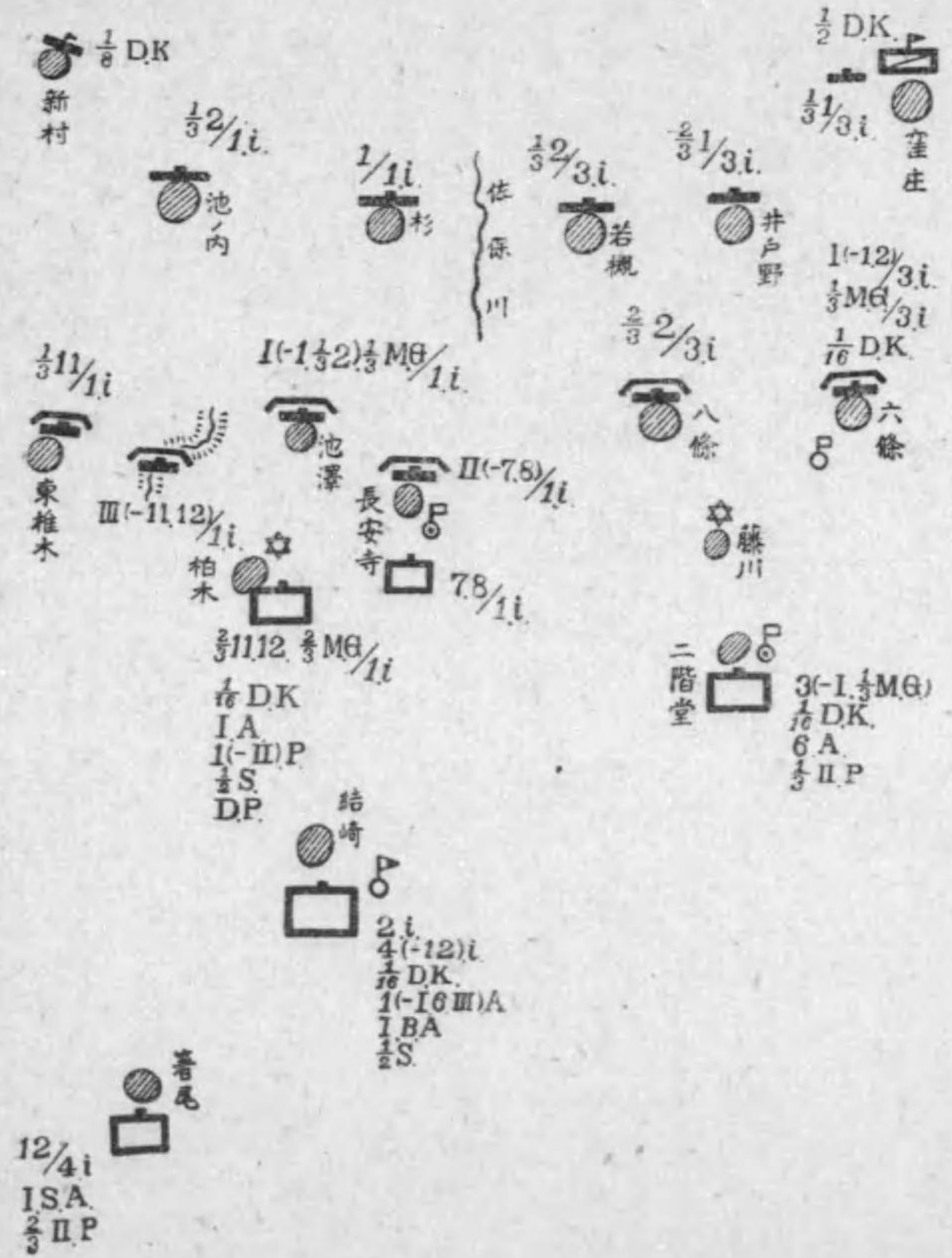
(ロ) 各部ノ關係位置

攻撃準備位置ニ於ケル各部ノ關係位置ハ戰鬪任務ニ基キ一部ノ任務ヲ遂行シ得

分區隊軍ノ團師一第ルストンラ探來將



置位ノ隊諸團師一第ルケ於=頃分十三時一十前午



ル歩兵大隊之ニ準スルモノヲ如何ニ配置スルヤ、換言スレハ第一線以後ノ各線ノ各部隊ヲ如何ニ配置スルヤヲ決定スルヲ要ス(步二ノ五〇)此際歩砲兵ノ關係位置ヲモ熟慮シ避ケ得ヘクンハ歩兵ノ砲兵線ヲ通過シテ前進スル等ノコトナキヲ希望ス更ニ第一線タル歩兵大隊之ニ準スルモノハ展開スヘキヤ集團シアルヘキヤハ狀況ニ依ル(步二ノ五〇)モノナリ即チ攻撃準備位置ヨリ直ニ各中隊ニ任務ヲ分擔セシメ火線ヲ構成スルヲ適當トスルヤ又之ヲ爲シ得ルヤハ攻撃目標指示ニ關スル敵情ノ明不明、前進地區ノ地形、敵線トノ距離及準備位置ニ於ケル地區地物ノ關係等ヲ顧慮シテ決定スヘキモノナリ

(ハ) 隊形及步度

各部ノ隊形及步度ニ關シテハ諸官ハ既ニ了知シアルヘキヲ以テ省略ス

(ニ) 指揮官ノ位置及通信連絡ノ方法

以上ノ外指揮官ノ位置及通信連絡法ニ關シ研究ヲ要スレトモ茲ニハ之ヲ省略ス

以上ノ諸件ヲ師團ノ狀況ニ照セハ其攻撃展開ノ狀態ハ自ラ了解セラルヘシ

攻撃戰團經過ノ研究

(イ) 各時期ニ於ケル諸兵種動作ノ概要

戰團ノ經過ハ一ニ敵情ニ關スルカ故ニ之ヲ豫定シ難キモ研究上之ヲ區分スレハ次ノ如ク考フルコトヲ得ヘシ

- (I) 攻撃準備ヨリ歩兵射撃開始ニ至ル時期
- (II) 歩兵射撃開始ヨリ歩兵射撃ノ最モ熾盛トナルマテノ時期
- (III) 火戦ノ極點ヨリ突撃準備位置ヲ占ムルニ至ル迄ノ時期
- (VI) 突撃ノ準備及實施

之ヲ第一師團ノ狀況ニ照シ説明スレハ次ノ如シ

第一師團長ハ午前十一時三十分ノ決心ニ基キ正午乃至午後一時ノ間ニ所要ノ命令ヲ與ヘ諸隊ヲ攻撃準備ノ位置ニ就カシム諸隊ハ更ニ次級部隊ニ所要ノ命令ヲ與ヘ第一線諸隊カ攻撃準備ノ位置ニ就キ終ルニハ少クモ一時半乃至二時間ヲ要ス故ニ第一師團ノ攻撃準備位置ニ就キ終ルハ速クモ午後二時乃至二時

三十分ト思ハサルヘカラス茲ニ於テ師團長ハ各隊ノ準備位置ニ就キタルノ狀況ヲ顧慮シ午後二時乃至二時三十分ニ於テ攻撃前進ニ關スル命令ヲ與フ(歩二ノ五一)爾後ニ於ケル狀況ノ概要ヲ示セハ要圖ノ如シ(要圖省略)

(ロ) 敵ノ攻勢移轉ニ對スル處置

狀況

第一師團ハ十七日薄暮主力ヲ以テ西今市、出屋敷、大師ニ亘ル線ニ一部ヲ以テ矢田口東西ニ亘ル線ニ達セシモ敵兵頑強ニ其陣地ヲ固守シ決戦ニ至ラスシテ夜ニ入レリ
薄暮頃ニハ敵砲兵ノ増加セル模様アリテ或ハ上柘植方面ノ敵ノ一部到著セシニアラサルヤト疑ハル
午後五時三十分搜索隊午前十時半上野發筆記通報ヲ受領ス其要旨左ノ如シ

敵ノ歩兵約四千山砲約十二門ハ本十七日午前十時十分其先頭ヲ以テ上野西端ヲ通過シ西進中ナリ(電話事故ノ爲傳騎ヲ以テ送達スル旨附記シアリ)
軍通報ニ依ルニ軍ハ本日燈油附近ノ高地ヲ占領シアル敵ニ對シ中垣内守口ノ線附近ニ於テ攻撃準備中ナリト

第十一問題(席題)

十七日午後五時三十分ニ於ケル第一師團長ノ決心(決心ノミ)

第十一問題答解ニ對スル總評

一 夜ニ入ルモ攻撃ヲ續行スル案即チ全師團ヲ以テ夜間攻撃ヲナス案ハ敵増加隊ノ到著後準備ナキニ乘セントスルモノナランモ師團全部ヲ以テ特別ノ準備ヲナス夜襲ヲナサントスル如キハ成功ノ見込甚少ナシ日露戰役ニ於テ師團

以上ノ大部隊ヲ以テ夜襲ヲナシ成效セシ例アリト雖諸官ハ此等部隊ノ夜襲決
行ヲ必要トセシ理由ト夜襲決行ニ到ルマテニ如何ナル準備ヲ爲セシモノナリ
ヤヲ充分研究スルヲ要ス

二 一部ヲ以テ夜襲ヲナサントスル案ハ其眞目的ノ何レニ在ルヤヲ了解シ難シ
一部隊ヲ以テ行フ夜襲ニハ夜襲ヲ以テ奪取セントスル地點カ戰鬪進捗上特別
ノ價值ヲ有シ之カ奪取ヲ緊要欠クヘカラスト判斷シタル際行フヘキモノナリ
漫ニ敵陣地ノ一部何レノ地點カヲ奪取セハ結局戰況發展スルナラン等ノ如キ
空漠タル慾望ニ基キ行フヘキモノニアラス又此夜襲ヲ行フニハ主力カ其結果
ヲ如何ニ利用スヘキヤヲモ立案シ置クヲ要ス

三 明十八日拂曉ヨリ攻撃ヲ再興スル案ハ全般ノ狀況ニ鑑ミ穩健ナル考案ニシ
テ之カ爲敵ハ増加兵團ヲ相合シ準備ヲナスヘシト雖此事ハ今日師團攻撃開始
ノ際ヨリ師團長ハ多少腹案シアルコトニシテ今更驚クニ足ラス寧ロ本夜諸準
備ヲナシ翌拂曉ヨリ齊整ト攻撃スルノ勝レルニ若カス軍主力方面ノ戰況切迫
シアラサル目下ノ狀況ニ於テ殊ニ然リ

第十一問題 原案

決心

師團ハ本夜現在ノ姿勢ヲ以テ夜ヲ徹シ明十八日拂曉ヨリ更ニ敵ヲ攻撃セント
ス

第十二問題(席題)

十七日夜ニ於テ第一師團長ハ特別ニ處置スヘキコトアリヤ

第十二問題答解上ノ著眼

十七日夜ニ於ケル第一師團長ノ處置トシテハ翌拂曉攻撃續行ニ際シ我攻撃ノ進
捗ヲ圖ルト同時ニ敵ノ攻勢移轉ニ對シテ如何ニスルヤヲ考察スルニ在リ
之カ爲ニハ各砲兵ヲ第一線ニ近ク招致スルコトト西今市附近ニ右翼據點ヲ編成
シ一部隊ヲ以テ之ヲ守備セシムルヲ要ス蓋シ此部隊ノ目的ハ敵兵上街道兩側ヨ

三六二
リ大規模ナル反對包圍ヲ試ムルニ對抗スルト同時ニ若中街道ニ沿フ地區ヨリスル攻勢移轉ナルトキハ進ンテ更ニ之ヲ包圍セシメントスルニ在リ

第十二問題原案

十七日夜ニ於ケル第一師團長ノ處置

- 一 工兵大隊ヲシテ今市東北端附近ヨリ西今市北端ニ亘ル線ニ步兵一大隊、機關銃四、山砲一中隊ヲ以テ占領シ得ヘキ據點ヲ編成セシム
師團豫備隊内ノ步兵二中隊ヲ以テ之ヲ援助ス
工事ハ午前四時迄ニ完成セシム
本據點ハ十八日拂曉聯隊長ノ指揮スル步兵第四聯隊第二大隊同機關銃隊(一小隊)及山砲兵第三中隊ヲ以テ守備セシム
- 二 砲兵隊ハ井戸野東南方小流附近、番匠田中兩側及白土附近ニ陣地ヲ變換セシム
- 三 步兵一大隊、騎兵一分隊、工兵大隊(半小隊)ハ豫備トシテ井戸野北側ニ位置セシム

シム

(ハ) 攻撃奏功後ノ動作

狀況

十八日拂曉師團ハ攻撃ヲ再興セシモ戰況意ノ如ク發展セス
午前七時ニ至ルヤ北之庄南方小流ノ線附近ノ敵ハ増加シテ約
二大隊ヲ算シ別ニ北永井南側附近ニハ約三大隊ヲ算スル敵歩
兵展開シ西今市方面ニ前進シ來ルヲ知ル
步兵第二聯隊長ノ指揮スル部隊ハ豫定ノ陣地ヲ守備ス
左翼隊ハ今拂曉攻撃ヲ開始セシモ優勢ナル敵ノ逆襲ヲ受ケ矢
田口附近高地脚ニ擊退セラレ僅ニ同地附近ヲ固守スルノ狀態
ナリ

師團豫備隊ハ尙井戸野北側米田中ニ位置ス

三六四

第十三問題(席題)

十八日午前七時ニ於ケル第一師團長ノ決心(決心ノミ)

第十三問題原案

決心

師團ハ攻撃ヲ續行セントス(決心變化ナシ)

狀況

北之庄南側小流ノ敵ハ依然同地ニ、北永井附近ノ敵ハ漸次前進
ヲナシ午前八時頃ニハ南永井、西永井ノ線附近迄前進セシモ其
後前進ノ模様ナク戰況ハ全線ニ亘リ再沈衰ノ狀態ニ陥レリ之

ト同時ニ豪雨沛然トシテ來リ戰場轉暗愴タリ
午前十時ニ至ルヤ師團長ハ中央隊長ヨリ下三橋附近ノ敵ハ漸
次其兵力ヲ減シツツアルカ如シトノ報告ヲ受領ス同時ニ上三
橋方面ニ方リ天地ニ轟ク喊聲ヲ聞ク

第十四問題(席題)

午前十時ニ於ケル第一師團長ノ決心(決心ノミ)

第十四問題原案

師團ハ敵ヲ追撃セントス

狀況

主力方面ノ諸隊之ト前後シテ敵陣地ニ突入ス敵ハ北方ニ退却

シ今ヤ北永井觀音寺ノ線附近ヲ敗走中ナリ左翼隊方面ノ敵ハ頑トシテ動カサルモノノ如シ
茲ニ於テ主力方面ノ諸隊ハ敵陣地附近ニ於テ所謂攻撃奏功後ノ動作ヲナシツツアリ

追撃ノ研究

第十五問題(宿題)

第一師團追撃ノ爲ノ腹案(要圖答解)

第十五問答解ニ對スル總評

考案ニ就テ

諸官ノ考案ヲ追撃方針換言スレハ爾後ニ於ケル師團ノ作戰方針ニ由リ類別スレハ三種トナル

第一 本軍戰鬪ニ參加セントスル案

第二 木津川右岸ヲ伏見方向ニ敵ヲ追撃セントスル案

第三 木津川左岸ヲ田邊方向ニ敵ヲ追撃セントスル案

各案ノ分ルル所ハ狀況判斷殊ニ本軍方面ノ狀況考案ニ關シ差異ヲ生シタルモノナリ

第一案ハ本軍方向ノ戰鬪ハ鞏強ナルヘキヲ以テ例令生駒山脈ヲ橫斷スルノ困難アリト雖第一師團ノ主力ヲ以テ本戰ニ參加シ敵ノ主力ヲ擊破スルヲ以テ最急務ト判斷シタルモノニシテ一理由アリ然レトモ敵本軍ヲシテ速ニ燈油附近ヲ撤退セシメ我本軍ト協力シ之ヲ殲滅セント欲セハ直接戰鬪ニ參加センヨリハ木津川河谷ヨリスル策動ノ一層有効ナルコトニ著眼セサリシモノナリ元來我軍主力ハ敵軍主力ニ比シ多小優勢ナルト師團カ生駒山脈ヲ橫斷スルニハ多クノ時間(敵一部ノ抵抗ヲ豫期シ)ヲ要スヘキコトニ考ヘ及ホスヘシ

第二案ハ敵ハ遠ク京都方面ニ退却スルモノト判斷シ之ニ對シ敵本軍ノ背後ヲ遮蔽シ戰勝ノ効果ヲ全カラシムルニハ師團ハ軍全般ノ見地ヨリ大規模ノ側方追

撃ヲ決行スヘシト考ヘタルモノニシテ之亦著眼トシテハ必シモ不可ナシ然レトモ師團前面ノ敵ノ退却シタルハ敵本軍ノ退却ニ伴フモノナリヤ自己ノ爲ノ退却ナルヤ未タ之ヲ知ルヲ得ヌ又未タ何等ノ軍通報ニモ接セサルモ軍ノ攻撃モ恐ラク本朝頃ヨリ開始セラレシナルヘク戦機モ未タ切迫シ居ラサルヘキヲ思ヘハ今ヨリ遠ク北方ニ追撃スルハ偶以テ敵ニ致サルルノ憾ナシトセス

(注意) 敵軍ノ主力カ依然燈油附近ノ陣地ニテ我軍主力ヲ拒止シアルモノト判断シ乍ラ此考案ヲナセル者ハ戰略的著眼ニ於テ缺クル處アリ

第三案ハ速ニ燈油ノ敵ヲシテ陣地ヲ撤退セシメ軍主力ト協力シテ之ヲ殲滅センニハ當初先敵ニ近ク痛痒ヲ感スル方面ニ策動スルヲ適當ト認メ木津川左岸ニ前進セントスルモノナリ此案ハ目下ノ狀況ニ於テハ適當ナリ然レトモ師團ノ前進中敵軍ノ退却状態如何ニ依リテハ速ニ主力ヲ木津川右岸ニ移スノ準備ヲナシアラサレハ動モスレハ長蛇ヲ逸スルノ虞アリ

各考案共通ナル不備ノ點ニ就テ

一 師團前面ニ於ケル敵情判断ヲナスニ本軍方面ノ顧慮ヲ度外視シ又ハ伊勢方

面ノ敵兵ノ後方連絡線ヲ考察セスシテ漫ニ北方ニ退却セシモノトナスハ適當ナラス殊ニ敵ノ退却ニ關シ確タル判断ヲナスシテ追撃ヲ決行セントスルカ如キハ予ノ同意セサル處ナリ敵ノ退却方向及退却状態ハ主トシテ此判断ニ因ルノ外ナケレハナリ

二 追撃ノ目標ヲ決定スルニ方リ爾後ノ狀況ノ變化ヲ豫察セサル爲戰理ニ合セサルモノアリ第二案ニ在リテハ宇治川附近ニ止ムルコトナク京都ニ向ヒ軍主力ノ追撃ト相待テ此處ニ敵ヲ殲滅スルヲ企圖スヘク第三案ニ在リテハ師團前面ノ敵ハ三山木又ハ田邊附近ニ於テハ頑強ナル抵抗ヲスヘキコトヲ顧慮シ之ヲ攻撃スルト同時ニ必要ニ應シテハ木津川右岸ヨリ側方追撃ヲナシ得ルノ準備ヲ要スヘク從テ其目標ハ同地附近ニ選定セラレサルヘカラス然ルニ此案ニ於テハ八幡ヲ目標トセシハ敵軍主力ノ退却状態(退却スルモノト假定シ)ニ關スル師團前面ノ敵ノ抵抗等ヲ無視シタルモノナリ第一案ニ在リテモ一部ヲ師團前面ノ敵ニ對セシムル以上ハ狀況已ムナキニ至ラサル限り攻勢的ニ追撃セシムヘキモノニシテ之ヲシテ木津南方高地附近ニ於テ守勢ヲ採ラシムルハ不可

- 三 追撃部署ヲナスニ一縦隊ヲ以テ正面追撃ヲノミ考ヘ側方追撃ノ部署ナキハ不可ナリ惟フニ是或ハ地形ヲ顧慮セシナランモ本津河谷ヲ追撃スル考案者ハ少ナクモ木津川兩岸ノ道路ニ各一聯隊ヲ前進セシムルヲ要ス
- 又全ク笠置方面ニ對シ敵ノ退却ヲ考慮セサルカ如キハ戰理ニ會セス
- 四 各隊ノ追撃ヨリ高級指揮官ノ行フ追撃ニ移ル順序方法及其時機ノ考察ニ方リ地形モ敵ノ抵抗ヲモ顧慮セサルヤノ觀アルモノ少ナカラサルハ遺憾ナリ
- 縦隊編成後ノ追撃ニ於テ諸隊ノ關係位置ハ如何ニ成リ其名稱ハ如何ニ附スヘキヤ等ニ關シ考ヘサル案ハ適當ナラス
- 縦隊ノ兵力編組ニ於テ追撃隊ニ砲兵ヲ附セサル如キ山地ヲ行動スル部隊ニ野砲ヲ附セシカ如キハ共ニ適當ト認メ難シ

作業上ニ就テ

- 一 如斯作業ニハ方針ヲ明記スルヲ適當トス
- 二 時刻ヲ豫定セルモノアルモ之ハ空想ニ近ク時間ヲ豫定シ難シ

- 三 圖示ト註記トニ就キ要圖調製法研究ノ不充分ナルモノアリ又註記ヲ加フル場所ノ研究及註記ト備考トヲ誤解セルモノアリ
- 四 運筆薄クシテ不明瞭ナルモノアリ

第十五問題答解上ノ著眼

- (一) 本軍主力ノ狀況考察
 軍主力ハ本朝頃ヨリ燈油附近ノ敵ヲ攻撃スヘキヲ以テ戰況ハ未タ切迫シアラサルヘク未タ軍ヨリ何等ノ通報ニ接セサルヲ以テ敵主力ハ恐ラクハ未タ燈油附近ノ陣地ヲ占領シアルナラン而シテ師團ハ軍主力ノ作戰ヲ容易ナラシムヘキ任務ヲ有スルモ元來敵ハ劣勢ナルカ故ニ狀況特別ノ變化ナキ以上ハ師團ノ直接戰鬪參加ヲ必要トセス却テ敵軍主力ノ側背ニ行動シ以テ敵ノ背後ヲ遮斷シ之ヲ殲滅スル如ク行動スルヲ適當トス

(二) 敵情判斷

本敵情判斷ノ第一ノ目的ハ敵ノ退却方向ヲ考定スルニ在リ師團前面ノ敵ハ京

都方向ヨリ進出シタル一師團弱ノ兵團ト伊勢方面ヨリ前進シタル混成一支隊トヨリ成ル而シテ此兩敵ハ元來其連絡線ヲ異ニセルモ兵力ノ關係上將來二者相合シ一兵團トナリ行動スルヤモ測ラレス然レトモ此兩敵カ木津川河谷ト伊賀川河谷ト兩方面ニ分離シテ我ニ對スル時ハ師團ノ作戰(行動)上不便不利少ナカラス故ニ師團ハ此二方面ニ向テスル敵ノ退却ヲモ考察セサルヘカラス敵ノ主力(主兵團)ハ元來京都方面ヨリ進出セルト本日ノ戰鬪ニ於テ郡山西方高地ヲ最後迄保持シテ退却セシトノ關係竝師團ノ壓迫方面ヨリ判斷スルニ此敵ハ依然京都方面即チ木津川下流地區ニ退却スルモノト判斷スルヲ適當トス尙一ノ敵情判斷ヲ要スルハ遠キ將來ハ暫ク措キ差當リ敵ハ何ノ地ニ於テ如何ナル抵抗ヲ爲スヘキヤヲ考察スルコト是ナリ師團方面ノ敵ハ師團ノ壓迫ニ堪ヘスシテ郡山附近ヲ撤退セリト雖決シテ師團ニ擊破セラレタル敗退セルモノト見ルヲ得ス交戰餘力ヲ存シ居ルモノト謂ハサルヘカラス地形一般ノ觀察ニ由ルニ奈良北方及佐紀附近ノ高地ハ敵ノ爲有利ナル抵抗線ヲ形成スト雖敵ハ假令敗走セルモノニハアラサルモ戰線ヲ距ル僅ニ一里ノ地ニ於テ更ニ隊伍ヲ

整頓シ全力ヲ以テ師團ニ對抗スルハ實際不可能ノコトナルヘシ然レトモ稍、有力ナル兵力ヲ以テ師團ノ追撃ヲ拒止シ爾後ノ作戰ヲ準備スルハ必然ナリ故ニ師團ハ少ナクモ此線ニ於テ有力ナル收容隊又ハ後衛ノ抵抗ヲ受クルモノト覺悟セサルヘカラス

(三) 師團ノ追撃方針(爾後ノ作戰方針)

師團ハ前述ノ敵情判斷ニ基キ敵ヲ京都平地ニ壓迫シ敵本軍ノ側背ヲ脅威スル如ク行動スルヲ可トス而シテ敵ノ一部伊賀川河谷ニ退却スル時ハ師團モ亦一部ヲ之ニ對セシムルヲ要ス然レトモ成シ得ヘクンハ敵ヲシテ伊賀川河谷ニ退却セシメサル如ク行動スルヲ有利トス(前ノ研究ニ於テ奈良平地ノ敵全部ヲ伊賀川河谷ニ壓迫スルノ有利ヲ説キシモ今ヤ此事ハ實行シ難ケレハナリ)

(四) 師團主力ノ追撃目標

師團前面ノ敵ノ將來ニ於ケル抵抗ハ豫想シ難キモ(佐紀附近ノ抵抗ニ就テハ前述ノ如シ)師團ハ全般ノ狀況ヲ考察シ敵本軍ニ最モ痛痒ヲ與フルコトト本日ノ時刻トニ鑑ミ本日ノ目標ヲ決定セサルヘカラス之カ爲ニハ師團ハ本日佐紀附

近ノ敵ヲ擊退シ田邊附近マテ進出スルコトヲ努メサルヘカラス即チ師團ノ追撃目標ハ田邊附近ヲ可トス尙師團ハ我追撃中敵本軍ノ状態ニ依リ更ニ木津川右岸ニ行動スルヲ要スル場合アルコトヲ顧慮シ今ヨリ之カ準備ヲモナシアルヲ要ス

(五) 追撃部署ノ概要

(A) 右翼方面

師團長ハ敵ヲシテ伊賀川河谷ニ退却セシメサル希望ト佐紀附近ニ於テ敵ノ抵抗ヲ速ニ破ル希望トヨリ速ニ有力ナル一部ヲ以テ上街道ニ沿フ地區ヨリ敵ヲ追撃セシムルヲ可トス而シテ此部隊ハ敵兵伊賀川河谷ニ退却スルトキハ其方面ニ對シ若否ヲサレハ木津川右岸ニ行動スルモノノ基礎トナルモノナリ之ヲ師團ノ現状ニ照セハ步兵第二聯隊長ノ指揮スル部隊ヲ以テ最モ適當トス故ニ師團ハ該隊ニ師團豫備ノ步兵工兵ノ一部ヲ加ヘテ敵ヲ追撃セシム(側方追撃ノ一法ナリ)

右追撃隊

長 步兵大佐某

步兵第二聯隊(第一大隊及機關銃一小隊欠)

騎兵一分隊

山砲兵第一大隊(第一中隊欠)

工兵一小隊

師團騎兵中隊ノ主力ハ右追撃隊方面ヨリ敵ヲ追撃セシムルモ之ハ師團長ノ直轄トシテ行動セシムルヲ有利トス笠置方面ニ對スル顧慮大ナル目下ノ狀況ニ於テ殊ニ然リ

(B) 中央方面

步兵第二旅團ハ比較的激戰ヲナシ部隊ノ集結ニモ多時ヲ要スヘキカ故ニ同シク第一線部隊ナルモ步兵第一聯隊ヲ追撃隊ニ使用シ之ニ所要ノ特科兵ヲ附スルヲ適當トス此追撃隊ハ郡山街道及其以東ノ地區ヨリ行動セシムルヲ可トス而シテ右追撃隊トハ混雜ヲ惹起スル憂ナキモ若左追撃隊ヲ出ス場合ニハ行動地區ノ境界ヲ示スヲ可トス

予ヲ以テ之ヲ見レハ中央追撃隊ト左追撃隊トノ境界ハ郡山街道道路ハ中央追撃隊ニ含ムヲ以テスルヲ適當トス

中央追撃隊

長 少將某步兵第一旅團長

步兵第一旅團第二聯隊欠

騎兵一分隊

野砲兵第二大隊

工兵第一大隊一小隊半欠

(C) 左翼方面

左翼方面ハ舊左翼隊ヲ以テ追撃隊ニ充ツルヲ適當トス而シテ此左翼隊ハ元來稍獨立の行動ヲ爲シ得ル如ク編組シアルヲ以テ此日其儘之ヲ使用スヘシ但シ此際建制ヲ整理スヘク又砲兵ハ將來ノ行動ヲ顧慮シ山砲トスヘシ

左追撃隊

長 少佐某

步兵第二聯隊第一大隊同機關銃一小隊

騎兵一分隊

山砲兵第一中隊

工兵半小隊

左翼警戒ニ任シアル騎兵半小隊ハ師團長ノ直轄トシ此方面ヨリ行動セシムルヲ有利トス

(D) 師團主力

師團主力ハ隊伍ノ整頓ヲナシ中央追撃隊ニ跟随スルヲ可トス衛生隊師團電話隊ハ特別ノ作業アルヲ以テ之ヲ整理シ後師團本隊ニ追及セシムヘシ

師團主力

步兵第二旅團

騎兵一分隊

野砲兵聯隊第二第三大隊欠

但シ師團輜重ノ行動ハ之ヲ省略ス
各部ノ任務

(六)

右追撃隊ヲ將來笠置方面ニ對セシムヘキヤ又ハ木津川右岸地區ヲ京都方向ニ追撃セシムヘキヤ目下之ヲ決定スルコト能ハス目下ノ急務ハ敵ヲ伊賀川河谷ニ退却セシメサル如ク速ニ木津附近ニ出ツルニアリ故ニ右追撃隊ハ即刻ヨリ先ツ木津ニ向ヒ敵ヲ追撃セシムルヲ要ス
騎兵中隊ノ主力ハ速ニ敵ニ追及シ且敵兵伊賀川河谷ニ退却セサルヤ否ヤヲ搜索スルヲ急務トス
中央追撃隊ハ師團追撃ノ目標タル田邊ニ向ヒ追撃セシムルハ異論ナカルヘシ
右追撃隊ハ山地方面ヨリ敵ノ背後ヲ遮斷スル如ク行動セシムルヲ有利トスレトモ進路ノ關係上多少迂回セル道路ヲ經ルハ已ヲ得サルモノナリ予ヲ以テ觀レハ左追撃隊ハ秋篠、打田、三山木ヲ經テ敵ヲ追撃セシメ進路ノ關係已ムヲ得サルニ至レハ之ヲ師團主力ニ合セシムルヲ可トス

騎兵小隊ハ此方向ヨリ敵ノ退却狀態ヲ搜索セシムルヲ要ス(軍トノ連絡ハ電氣通信ニ依リ得ルモノトス)

師團主力ハ隊伍整頓ノ後中央追撃隊ニ續行スルヲ可トス

(附言)

以上ノ追撃部署ニ於テ名稱ニ拘泥セスシテ其實質ヲ翫味スレハ右追撃隊ハ右側支隊又ハ右縱隊ノ如ク中央追撃隊ハ中央縱隊前衛ノ如ク左追撃隊ハ左側支隊又ハ左側衛或ハ左縱隊ノ如ク師團主力ハ即チ師團本隊ノ如シ否將來師團ノ前進ヲ連續シテ行フ場合ニハ恐ラクハ各部ハ右ノ名稱ニ改稱セラレ縱隊追撃ヲナスニ至ルヘシ

(七)

師團長ノ追撃ヲ統一スル時機

師團第一線各隊ハ敵陣地ヲ奪取スレハ直ニ其後端ニ出テ追撃射撃ヲナシ後敵兵我射界ヲ脱セントスルヤ直ニ追撃前進ヲ起スヘク從テ師團長ノ企圖スル統一追撃ヲナスニハ宜シク各部隊ヲ其手裡ニ握ラサルヘカラス之カ爲ニハ各部隊ノ氣勢ヲ殺カサルト又豫期スル敵ノ抵抗ニ對シ各部隊ノ無謀ナル前進ニ因リテ反撃ヲ受ケサル如クスルコト等ヲ顧慮シ全般ノ狀況ニ鑑ミ之ヲ行ハサルヘ